

※ポリシーとの関連性

企業に於いては、国際化が避けて通れない時代になっている。アジアの経済論を学び、グローバル人材を育成する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア経済論 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>アジア経済は、1960年代以降大きな変化を遂げてきた。その成長は今後とも進むと思われ、シンガポールのGDPは日本を上回り、発展し続けている。アジア各国の経済発展について分析し、その要因について考える。</p>	<p>講義受講期間中は、常にテキストに目を通して臨むようにしてください。また、講義は良く聞くことに重点を置いて受講してください。</p>
到達目標	<p>本講義を通して アジア諸国の発展過程及び現在各国が抱えている問題点について分析すると共に、問題点を明らかにし、問題解決策を考える。 また、日本企業の対外投資による関連性についても学んでいく。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 韓国経済発展の軌跡	テキストの予習・復習
	2	第2週 I M F危機とは何だったのか。	同上
	3	第3週 展望	同上
	4	第4週 台湾戦後の発展過程	同上
	5	第5週 受託製造を支柱とする産業構造	同上
	6	第6週 資金という新しい力	同上
	7	第7週 民主化と経済・中国との関係	同上
8	第8週 中間試験	同上	
9	第9週 香港経済の高度成長	テキストの予習・復習	
10	第10週 構造転換	同上	
11	第11週 サービス経済・経済政策	同上	
12	第12週 シンガポール独立以来の経済発展	同上	
13	第13週 産業構造	同上	
14	第14週 開発体制	同上	
15	第15週 都市国家の課題	同上	
16	第16週 期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト 渡辺利夫『アジア経済読本』第4版 東洋経済</p>		
学びの手立て	<p>1. 出欠確認は毎回厳密に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールにて連絡してください。 2. プリントを配布しますので、復習として利用してください。 3. 授業中質問があれば、手を挙げて質問してください。</p>		
評価	<p>1. 中間テスト (30%) 2. 期末テスト (70%) 3. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1. 国際経済論 2. 日本経済論</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

企業に於いては、国際化が避けて通れない時代になっている。アジアの経済論を学び、グローバル人材を育成する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア経済論Ⅱ	後期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>アジア経済は、1960年代以降大きな変化を遂げてきた。その成長は今後も進むと思われ、シンガポールのGDPは日本を上回り、発展し続けている。アジア各国の経済発展について分析し、その要因について考える。</p>	<p>講義受講期間中は、常にテキストに目を通して臨むようにしてください。また、講義は良く聞くことに重点を置いて受講してください。</p>
到達目標	<p>本講義を通して アジア諸国の発展過程及び現在各国が抱えている問題点について分析すると共に、問題点を明らかにし、問題解決策を考える。 また、日本企業の対外投資による関連性についても学んでいく。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 タイ経済発展の軌跡	テキストの予習・復習
	2	第2週 グローバル化への対応	同上
	3	第3週 中進国としての課題	同上
	4	第4週 景気回復への政策課題	同上
	5	第5週 マレーシア経済発展の軌跡	同上
	6	第6週 新工業国への構造変化・2020年ビジョンと産業構造高度化	同上
	7	第7週 「パンサ・マレーシア」・多民族国家の試練	同上
	8	第8週 中間試験	
	9	第9週 フィリピン経済の独立以降の経済発展の歩み	テキストの予習・復習
	10	第10週 マルコス政権と対外債務危機・ラモス政権とアジア通貨危機	同上
	11	第11週 アロヨ政権下の経済開発・世界同時不況下の経済	同上
	12	第12週 中国人民共和国の60年	同上
	13	第13週 市場移行は終わったのか	同上
14	第14週 中国経済の3つの課題	同上	
15	第15週 求められる発展方式の転換	同上	
16	第16週 期末試験		
テキスト・参考文献・資料など			
<p>テキスト 渡辺利夫『アジア経済読本』第4版 東洋経済</p>			
学びの手立て			
<p>1. 出欠確認は毎回厳密に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールにて連絡してください。 2. プリントを配布しますので、復習として利用してください。 3. 授業中質問があれば、手を挙げて質問してください。</p>			
評価			
<p>1. 中間テスト (30%) 2. 期末テスト (70%) 3. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない。</p>			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	1. 国際経済論 2. 日本経済論

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	インターネットと経済学	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	2年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、論文・レポートの作成に必要な経済統計の情報が、どのようなところにあり、どのように活用できるのかを学ぶことを目的とする。具体的には、重要となる経済統計の情報を各省庁・研究機関のWebサイトを通じて一通り確認し、その情報の経済学的な意味の解釈を中心に講義を行う。	2年次以降からは専門的な知識が増えていく上で、インターネットを利用したデータ収集や分析などが必要となる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インターネットを利用して経済分析に必要なデータを収集することが出来る。</li> <li>2. インターネットを利用して経済統計に必要なデータを収集することが出来る。</li> <li>3. インターネットを利用して企業分析や経済学に必要な専門用語について説明することが出来る。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション (登録と講義計画)	
	2	経済分析に用いる統計情報	
	3	情報検索の使い方	
	4	白書・レポート (政府系機関)	
	5	人口 (人口構成・平均余命・将来推計)	
	6	労働 (都道府県別失業および就業状態・労働需要)	
	7	企業 (都道府県別設備投資・企業収益)	
8	物価・景気 (物価指数・景気動向)		
9	家計 (家計収支・世代間および世代内格差・消費 (貯蓄) 動向)		
10	政府 (国家予算・都道府県の財政)		
11	金融 (金利・通貨供給・為替)		
12	企業分析1		
13	企業分析2		
14	企業分析3		
15	分析への応用		
16	期末考査 (レポート含む)		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 詳細は第一回目の講義の際に指示する。 福田慎一・照山博司, 2011, マクロ経済学・入門 第4版 (有斐閣アルマ) 鈴木正俊, 2006, 経済データの読み方 (岩波新書)		
学びの手立て	インターネットを利用して、経済学の学びに必要な様々なデータや分析・統計などを日頃から収集しておく。		
評価	レポート, 出席, テスト, その他を加味し評価。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 3年次や4年次から専門演習に入るため、インターネットの利用は不可欠である。この授業で習得した知識や技術は卒論などで活かすことが出来る。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	欧米経済論Ⅰ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	3年	研究室(5629)、またはmurakami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、主として歴史を軸にアメリカの経済構造や政治構造を学んでいくことを目的とする。とりわけアメリカ合衆国に焦点を絞って、内政・外交・経済などについて知識を広げていく。また必要に応じて、企業の勃興や生産システムの構築などにもふれ、アメリカの経済について考えていきたい。	メッセージ 軍事基地にも関連させてアメリカ経済を学んでいく。
	到達目標 1)アメリカと沖縄の関係性が理解できる。 2)基地問題を理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の紹介と評価の方法	講義ノートの点検
	2	独立戦争	配布資料の精読、講義ノートの点検
	3	産業革命	配布資料の精読、講義ノートの点検
	4	南北戦争	配布資料の精読、講義ノートの点検
	5	自動車産業の勃興	配布資料の精読、講義ノートの点検
	6	第一次世界大戦	配布資料の精読、講義ノートの点検
	7	大恐慌	配布資料の精読、講義ノートの点検
	8	中間試験	
	9	ニューディール	配布資料の精読、講義ノートの点検
	10	第二次世界大戦	配布資料の精読、講義ノートの点検
	11	冷戦時代	配布資料の精読、講義ノートの点検
	12	ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争にみる経済活動	配布資料の精読、講義ノートの点検
	13	サブプライム・ローンやリーマン・ショック(The Financial Crisis)が物語るアメリカ経済	配布資料の精読、講義ノートの点検
	14	現代アメリカ経済を考える	配布資料の精読、講義ノートの点検
	15	欧米経済論Ⅰの質疑応答	配布資料の精読、講義ノートの点検
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 萩原・中本編『現代アメリカ経済』日本評論社、2005年。 ロバート・B・ライシュ『暴走する資本主義』（雨宮・今井訳）、東洋経済新報社、2008年。 各回の講義で適宜紹介する		
	学びの手立て 新聞の経済面と国際面を通読することを推奨する。		
	評価 出席(50%)＋試験(中間25%＋期末25%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 欧米経済論Ⅱ、アジア経済論Ⅰ、アジア経済論Ⅱ、日本経済論Ⅰ、日本経済論Ⅱ、経済史入門、社会思想史、西洋経済史Ⅰ、西洋経済史Ⅱ、日本経済史Ⅰ、日本経済史Ⅱ、マルクス経済学Ⅰ、マルクス経済学Ⅱ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	欧米経済論Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	3年	研究室(5629)、またはmurakami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	欧米経済論Ⅰを受けて本講義では、EUを対象とした経済分析を進め、ヨーロッパの政治・経済統合に伴う各国の動きを歴史的に解明していくことを目的としている。また身近に存在する企業との関連性もふまえて講義する。	沖縄とヨーロッパを結びつけながら様々な課題とその対策を考えていく。

到達目標
1)ヨーロッパと沖縄の社会・経済の諸課題への対策が比較できる。 2)ヨーロッパと沖縄とのつながりが幾多もあることに気づくことができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の紹介と評価の方法	講義ノートの点検
	2	EUの概要(制度、歴史)	配布資料の精読、講義ノートの点検
	3	英国①	配布資料の精読、講義ノートの点検
	4	英国②	配布資料の精読、講義ノートの点検
	5	英国③	配布資料の精読、講義ノートの点検
	6	フランス①	配布資料の精読、講義ノートの点検
	7	フランス②	配布資料の精読、講義ノートの点検
	8	中間試験	
	9	ドイツ①	配布資料の精読、講義ノートの点検
	10	ドイツ②	配布資料の精読、講義ノートの点検
	11	EUの拡大と統合①	配布資料の精読、講義ノートの点検
	12	EUの拡大と統合②	配布資料の精読、講義ノートの点検
	13	共通通貨ユーロの意義①	配布資料の精読、講義ノートの点検
14	共通通貨ユーロの意義②	配布資料の精読、講義ノートの点検	
15	共同体とその意味	配布資料の精読、講義ノートの点検	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など		
	田中他『現代ヨーロッパ経済』有斐閣アルマ、2001年。 羽場『拡大ヨーロッパの挑戦』中公新書、2004年。 若森『新自由主義・国家・フレキシビリティの最前線』昂洋書房、2013年。		
	学びの手立て		
	新聞の経済面と国際面を通読することを推奨する。		
	評価		
	出席(50%) + 試験(中間25% + 期末25%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	欧米経済論Ⅰ、アジア経済論Ⅰ、アジア経済論Ⅱ、日本経済論Ⅰ、日本経済論Ⅱ、経済史入門、社会思想史、西洋経済史Ⅰ、西洋経済史Ⅱ、日本経済史Ⅰ、日本経済史Ⅱ、マルクス経済学Ⅰ、マルクス経済学Ⅱ

※ポリシーとの関連性

経済現象を科学的に分析し、社会の動きを論理的に読み解く能力を養う。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用マクロ経済学	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	3年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 財政政策や金融政策、経済成長論などのマクロ経済政策に関する諸理論の検討を行うとともに、マクロ経済政策が実態経済に与える影響を検証する。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 マクロ経済学の理論を用いて国内外の経済現象を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義概要、評価方法、アンケート等 -	
	2	データでみる日本経済 - マクロ経済指標を中心に -	国民経済計算に関する事前学習
	3	マクロ経済学の考え方① - 応用マクロ経済学とは、GDPと幸福度 -	マクロ経済学の復習
	4	マクロ経済学の考え方② - GDPの決定、有効需要の原理、経済成長 -	マクロ経済学の復習
	5	経済成長論① - 経済成長の要因、ソローモデル、成長会計等 -	マクロ経済学の復習
	6	経済成長論② - 経済発展とマクロ経済：ルイスモデル、ビッグプッシュ理論等 -	開発経済学関連文献の精読
	7	経済成長論③ - 経済発展とマクロ経済：均斉成長と不均斉成長、トダロモデル等 -	開発経済学関連文献の精読
	8	労働市場 - 労働市場とマクロ経済、フィリップス曲線、失業と幸福度 -	労働経済学関連文献の精読
	9	物価と経済成長 - インフレーション、デフレーション -	マクロ経済学関連文献の精読
	10	マクロ経済政策① - 政府の役割、財政の機能、財政赤字とマクロ経済 -	経済政策関連文献の精読
	11	マクロ経済政策② - 財政政策、ケインズ経済学再考、財政政策と日本経済 -	経済政策関連文献の精読
	12	マクロ経済政策③ - 金融政策、金融政策と日本経済 -	経済政策関連文献の精読
	13	マクロ経済政策④ - マクロ経済政策と国際経済 -	経済政策関連文献の精読
	14	日本経済の諸課題 - マクロ経済の観点から -	日本経済に関するトピックの収集
15	講義のまとめ		
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜資料を配布する。		
	学びの手立て マクロ経済学（基礎理論）の復習をしておくこと。		
	評価 期末テスト（70%）、小テスト（20%）、受講態度（10%）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済政策総論Ⅱ
-------	------------------------

※ポリシーとの関連性

カリキュラム・ポリシーの1で謳っているように、1年次では専門分野を学ぶための基礎学力を身につけなければなりません。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄経済入門	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史・経済学科専任教員	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>地元、沖縄経済について入門的な内容を講義する。沖縄経済の過去、現状、将来の課題等についてを経済学各分野からの視点を通じて直感的に理解できるようになることが本講義のねらいである。</p>	<p>この科目はオムニバス形式になっているため様々な視点から沖縄経済を学ぶことが出来る。</p>
到達目標	<p>1. 地元沖縄経済の現状と課題を把握し、解決策を自分の言葉で述べる事が出来る。 2. 沖縄経済から波及する、日本経済さらにアジア経済との関わりを学び、その可能性について述べる事が出来る。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画、成績評価方法、その他について (浦本) 4/9	
	2	沖縄の小売業：サンエーの経済学 (宮城) 第1回講義	
	3	沖縄のソーシャルビジネス (村上) 第2回講義	
	4	沖縄の文化産業の構造 (浦本) 第3回講義	
	5	沖縄の観光と経済 (湧上) 第4回講義	
	6	沖縄の若年者雇用問題 (名嘉座) 第5回講義	
	7	沖縄の交通問題 (梅井) 第6回講義	
8	沖縄の財政と社会保障 (長嶋) 第7回講義		
9	沖縄の金融 (安藤) 第8回講義		
10	沖縄の都市問題 (崎浜) 第9回講義		
11	沖縄の基地問題 (前泊) 第10回講義		
12	国際経済 (新垣) 第11回講義		
13	経済統計 (金城) 第12回講義		
14	沖縄の財政と社会保障 (比嘉) 第13回講義		
15	地域社会経済 (平敷) 第14回講義		
16	総轄・テストまたはレポート (浦本)		
テキスト・参考文献・資料など	特に指定しない。担当者その都度配布する。		
学びの手立て	沖縄の諸問題を扱うので、毎日新聞を読むことをお勧めします。		
評価	テストまたはレポートの成績、出席状況、その他を加味しつつ総合的に評価する。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目をとおして、地元沖縄の経済状況を把握し、今後どのような取り組みが必要か専門科目と結びつけて学ぶことが出来る。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義では、①経済学の基礎的・専門的知識を学びつつ、②経済社会問題を考察し、③課題解決の視点を得ることを目的とします。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄経済論	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	2年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	統計資料等を活用しながら、沖縄経済の位置を確認し、沖縄経済が抱える課題を読み解く力を得ることを主な目的とします。講義では時々々のトピックテーマを取り上げ、実際の沖縄を取り巻く動きや政策を追いながら沖縄経済についての理解を深めていきます。	沖縄経済を取り巻く経済社会環境は日々変化しています。沖縄経済を知るには、沖縄内外の政治経済状況の変化が沖縄経済の動向にどう影響を与えているのかという俯瞰的・複眼的な視点が不可欠です。沖縄の内外の動きとの関連で沖縄経済について詳しく学びたい人に履修をお勧めします。
到達目標	①地域経済の基本的な見方から沖縄経済の現状を体系的に捉えることができる。 ②戦後の沖縄経済の成り立ちを学び、今日の沖縄経済の課題を捉えることができる。 ③沖縄経済が抱える諸課題を認識し、課題解決の方策を検討・提案する力を得る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、授業評価方法等について	シラバスを参照
	2	沖縄経済を見る視点—県経済のトピックと地域経済の見方	沖縄経済時事、参考文献①参照
	3	沖縄経済の姿—統計データから見る人口動態と経済規模	参考文献①、②参照
	4	沖縄経済の姿—産業構造と雇用、沖縄経済の特徴	参考文献①、②参照
	5	沖縄経済の成り立ち—復帰前の沖縄、復興から基地建設まで	参考文献③参照
	6	沖縄経済の成り立ち—復帰後の沖縄振興開発計画と沖縄振興計画（2002年-）	参考文献③参照
	7	沖縄経済の成り立ち—沖縄振興政策と基地問題（1995年-）	参考文献④、⑤参照
	8	沖縄における産業政策の展開（2002年-）	参考文献④、⑤参照
	9	沖縄における産業政策の展開（講義前半のまとめ）—小テスト	講義前半の振り返り
	10	沖縄の産業—情報通信産業特別地区の成果と展望	情報関連産業の現状を調べる
	11	沖縄の産業—観光産業の現状と課題	観光産業の現状を調べる
	12	沖縄の産業—国際物流拠点関連産業の動向	物流産業の現状を調べる
	13	沖縄の産業—農業・アグリビジネスと健康食品産業	農業・6次産業化の動向を調べる
	14	沖縄経済の自律的・持続可能な発展に向けて—地域活性化の取組	県内の地域活性化事例を調べる
15	沖縄経済の展望—講義全体のまとめ	講義後半の振り返り	
16	期末テスト	講義のまとめ	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定せず、プリント・資料配布により講義を行います。事前・事後学習の助けとして以下の参考文献等を活用してください。他、必要に応じ講義中適宜提示します。

【参考文献・資料】①沖縄振興開発金融公庫（2015）『沖縄経済ハンドブック 2015年度版』、②沖縄県『県民経済計算』（※最新版）、③松島泰勝（2002）『沖縄島嶼経済史—12世紀から現在まで』藤原書店、④宮本憲一・川瀬光義（2010）『沖縄論—平和・環境・自治の島へ』岩波書店、⑤百瀬恵夫・前泊博盛（2002）『検証「沖縄問題」—復帰後30年経済の現状と展望』東洋経済新報社

学びの手立て

- 履修の心構え  
講義中の私語、スマホ利用などは厳禁です。  
毎回、出欠確認を行います。毎講義、講義内容に関する質問や意見等を求めるため講義に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。
- 学びを深めるために  
沖縄経済の動向を理解するためには、県内の経済動向のみではなく、世界、日本全体の経済の動きにも注視しておく必要があります。

評価

- 平常点（15%） 小テスト（25%） 期末テスト（60%）  
※出席が3分の2に満たない場合は、期末テストの受験資格を失います。  
欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません（公欠を除く）。
- 平常点（フィードバックペーパー）により到達目標の②を評価し、小テスト、期末テストにより到達目標の①と③を評価する。

次のステージ・関連科目

沖縄経済についてより深く学ぶため、下記の講義も併せて履修することを勧める。  
**【関連科目と次のステージ】**  
 マクロ経済学Ⅰ、Ⅱ、沖縄経済入門、地域経済論、産業政策論





科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	貨幣経済論Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	3年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 貨幣経済論Ⅰで学んだ基礎理論を踏まえながら、金融政策や財政政策等の経済政策が国内外の経済（物価、為替等）に与える影響を検討する。	メッセージ 経済学的思考は、社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 ①経済活動における貨幣の役割を理解する。 ②経済政策の意義を理解する。	

学びのヒント	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	イントロダクション - 講義の進め方、本講義と貨幣経済論Ⅰとの関係、講義アンケート -	
	2	市場経済における貨幣の役割 - 貨幣の役割再考（概論） -	貨幣経済論Ⅰの復習
	3	貨幣経済と物価① - 物価指数、インフレ過程とデフレ過程 -	マクロ経済学・経済政策論の予習
	4	貨幣経済と物価② - インフレと貨幣供給量 -	マクロ経済学・経済政策論の予習
	5	貨幣経済の安定性① - ハイパーインフレと中央銀行、デフレーション -	マクロ経済学・経済政策論の予習
	6	貨幣経済の安定性② - 貨幣経済と労働市場 -	マクロ経済学・経済政策論の予習
	7	貨幣経済における経済政策① - 金融政策 -	経済政策論関連文献の精読
	8	貨幣経済における経済政策② - 所得政策 -	経済政策論関連文献の精読
学びの実践	9	貨幣経済における経済政策③ - 財政政策① -	経済政策論関連文献の精読
	10	貨幣経済における経済政策④ - 財政政策② -	経済政策論関連文献の精読
	11	国際経済と貨幣① - 複数通貨と資産市場 -	国際経済論関連文献の精読
	12	国際経済と貨幣② - 貿易と経済成長、通貨政策 -	国際経済論関連文献の精読
	13	国際経済と貨幣③ - 世界経済の安定と貨幣経済 -	国際経済論関連文献の精読
	14	本講義のまとめ① - 貨幣経済論Ⅰを踏まえて内容を整理 -	
	15	本講義のまとめ② - 貨幣経済論Ⅱの要点整理、期末テストの説明 -	
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜レジュメ（パワーポイント資料）を配布する。 藤本訓利・関谷喜三郎（2012）『マクロ経済学と貨幣』八千代出版		
	学びの手立て マクロ経済学を復習しておくこと。貨幣経済論Ⅰを受講することが望ましい。		
	評価 期末テスト(70%)、小テスト(20%)、受講態度(10%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済政策総論Ⅱ、貨幣経済論Ⅰ
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業分析	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	2年		

学びの準備	ねらい 優良な企業とそうでない企業を見分けるためには、どうすればよいでしょうか？人気ランキング、本社ビルの豪華さ、CMのイメージは役に立ちません。企業分析を学べば、優良な企業を選べるようになります。	メッセージ 就職活動の対象としてふさわしい企業を、自分で企業分析して選びましょう。
	到達目標 財務分析の知識とマーケティング分析の知識を融合させた「企業分析」を自分で行う。	

学びの準備	到達目標 財務分析の知識とマーケティング分析の知識を融合させた「企業分析」を自分で行う。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. 講義の概要 2. マーケティング分析（1） 3. マーケティング分析（2） 4. マーケティング分析（3） 5. マーケティング分析（4） 6. マーケティング分析（5） 7. マーケティング分析（6） 8. 中間テスト 9. 財務分析（1） 10. 財務分析（2） 11. 財務分析（3） 12. 財務分析（4） 13. 財務分析（5） 14. 融資の基礎知識（1） 15. 融資の基礎知識（2） 16. 期末テスト
	テキスト・参考文献・資料など 中島久「財務分析と定性分析による入門企業分析の手法と考え方」経済法令研究会、2009年

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 中島久「財務分析と定性分析による入門企業分析の手法と考え方」経済法令研究会、2009年
-------	---

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 出席（発表）・中間テスト・期末テストに基づき総合的に評価する。
-------	---------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

演習では、経済学の基本的な考え方を学び、経済社会問題への関心を高め、自らの考えを論理的に表現し、議論する力を養います。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	1 年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学に必要なスタディスキルを修得することが目的です。大学では、高校までの学習方法とはまったく異なるため、新生は戸惑うことが多いようです。本演習ではこうした戸惑いを解消し、効率的な学習習慣を身につけ、有意義な大学生活を送ることができる準備を行います。本演習では、情報検索から文献読解、文章作成、プレゼンテーションの基礎となる技能を習得します。</p>	<p>演習は「主体性」が求められます。積極的に課題に取り組む姿勢と意欲が求められ、更に、自ら課題を設定し、考えていくことができるようになることが目標となります。基本となる文章読解、表現能力、コミュニケーション能力を本演習で共に学びましょう。</p>
到達目標	<p>①大学で学ぶための基本的な考え方、姿勢を身につける（積極性・自主性）          ②経済学を学ぶための文献読解、情報収集、分析手法の基礎を学ぶ。          ③論理的な思考、ディスカッション能力、説得的に表現する力を習得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー自己紹介、演習の基本的なルールについて	シラバスを読む
	2	大学生活の基本的な心構え①ー大学での過ごし方、学習方法	大学で学ぶ目的を考える
	3	大学生活の基本的な心構え②ー経済学科で学ぶこと	今後の履修計画をイメージする
	4	文献・データ収集の手法①	図書館オリエンテーション※
	5	文献・データ収集の手法②	図書館オリエンテーション※
	6	文献・論文を読む①	文献・論文の収集と整理
	7	文献・論文を読む②	文献・論文の要点整理
	8	レポートの書き方①	レポートのテーマ探し
	9	レポートの書き方②	レポートの構成・アウトライン
	10	レポートの書き方③	引用と参照の心得を調べる
	11	グループワーク①ー報告の心得とプレゼンの基礎	プレゼンとは何かについて調べる
	12	グループワーク②ー課題探索とディスカッション	グループ学習手法について調べる
	13	グループワーク③ープレゼン報告準備	各自グループテーマを探索する
14	グループワーク④ープレゼン報告会①	グループ内作業と役割分担	
15	グループワーク⑤ープレゼン報告会②と前期の振り返り	同上	
16	※提案により課外活動も行います。		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しませんが、下記の文献等を参考にしてください。          『知のツールボックスー新生生援助集ー』専修大学出版局          『大学生と大学院生のためのレポート論文の書き方』ナカニシヤ出版          他、適宜指示します。</p>		
学びの手立て	<p>○履修の心構え          出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。          自ら学ぶ姿勢と考える習慣を身につけ、他者と意見を交換する絶好の機会として捉えてください。</p> <p>○学びを深めるために          自ら課題を探していくことが求められます。日ごろから経済ニュース、時事問題に関心を持ち、自らの考えを持つように心がけてください。</p>		
評価	<p>出席を重視し、演習内での課題提出、発表により総合的に評価します。          主体性を求めるため、演習での意見や議論への積極的な参加が評価基準となります。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>【関連科目・次のステージ】          基礎演習 II</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

経済現象を科学的に分析し、経済社会の動きを論理的に読み解く能力を養う。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 基礎演習 I	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	月 4	2
	担当者 比嘉 正茂	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済に関する文献・レポート等の講読を通じて、経済現象を科学的に分析する能力を養うとともに、文章読解能力やプレゼンテーション能力の向上を図る。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 経済社会の動きを論理的に説明できる力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション - 演習の進め方、アンケート -
	2	大学（経済学科）で学ぶ意義について①
	3	大学（経済学科）で学ぶ意義について②
	4	経済文献の講読① - 担当者報告、文献解説、議論 -
	5	経済文献の講読② - 担当者報告、文献解説、議論 -
	6	経済文献の講読③ - 担当者報告、文献解説、議論 -
	7	経済文献の講読④ - 担当者報告、文献解説、議論 -
	8	経済文献の講読⑤ - 担当者報告、文献解説、議論 -
9	経済文献の講読⑥ - 担当者報告、文献解説、議論 -	
10	沖縄経済に関する調査① - グループ調査 -	
11	沖縄経済に関する調査② - グループ調査 -	
12	沖縄経済に関する調査③ - グループ調査 -	
13	沖縄経済に関する調査④ - グループ調査 -	
14	沖縄経済に関する調査⑤ - グループ調査 -	
15	前期のまとめ①	
16	前期のまとめ②	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、資料を配布する。	時間外学習の内容
	学びの手立て 日頃から経済新聞等に目を通しておくこと。	
	評価 受講態度（50%）、提出物（50%）で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習 II
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	これから大学で学ぶにあたって、必要なスタディスキルを修得することが目的です。大学では、高校までの学習方法とはまったく異なるため、新入生は戸惑うことが多いようです。本基礎演習ではこうした戸惑いを解消し、効率的な学習習慣を身につけ、有意義な大学生活を送ることができる準備を行います。	大学で専門的な分野を学ぶ前に基礎学力を強化する必要があるため、基礎演習では「基本的に必要な人間力」を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学生として身につけておくべき「社会常識」を身につけることができる。</li> <li>2. レポートやプレゼンテーションの知識と技術を習得することができる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>「社会」「国語」「数学」の3つを、4～5回ずつ行う予定です。主な内容は以下の通りです。</p> <p>社会常識：卒業後を意識した、大学4年間の過ごし方を考える。また、社会の一員としてのマナーや大学生がよく巻き込まれるトラブルなどの知識を得る。</p> <p>国語能力：大学の講義で必ず必要になる、レポートやプレゼンテーションの基礎を修得する。資料の読み方や文章のまとめ方、図書館の利用方法など。</p> <p>基礎数学：経済理論を学ぶために必要な、基礎的な数学を学ぶ。難易度は、中学から高校程度である。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『知のツールボックスー新入生援助集ー』専修大学出版局 講義時に、適宜指示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>高校時代の英語や国語、数学などをカバーしながら進めていく。</p>
評価	出席およびレポート、発表により総合的に評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学で最低限身につけなければならない人間力・社会人を学び、専門分野へ繋げることが出来る。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい この演習では、大学生としての基本的知識および基本的スキル（読む、書く、発表するなど）を身につけることを目標とする。	メッセージ
	到達目標 大学生としてのスキルを身につけ、以後の学生生活の基盤をつくる事が出来る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方について	
	2	基本的知識の確認～社会1	
	3	基本的知識の確認～社会2	
	4	基本的知識の確認～社会3	
	5	基本的知識の確認～国語1	
	6	基本的知識の確認～国語2	
	7	テキストを読む	
	8	資料を探す	
9	レポートを書く		
10	ディスカッションをする1		
11	ディスカッションをする2		
12	発表をする1		
13	発表をする2		
14	大学で学ぶことの意味を考える1		
15	大学で学ぶことの意味を考える2		
16	まとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など 授業中に適宜紹介する。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 数回の小テスト50%、ミニレポート30%、受講態度（発言など）20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1年	sakiham@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基礎演習 I は、学生間及び教員とのコミュニケーションを深める場であり、情報収集、文章読解、文章作成能力などを高める場でもある。この演習では、大学生としての基本的スキルを身につけ、発表できる能力を身につけることを目標とする。	メッセージ
	到達目標 大学生としての基本的なプレゼンテーション能力を醸成する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	テキストの読み方①	事前に配ったプリントを読むこと
	3	テキストの読み方②	同上
	4	資料の探し方①	同上
	5	資料の探し方②	同上
	6	レポートの書き方①	同上
	7	レポートの書き方②	同上
	8	フィールドワークー宜野湾市の土地利用変化ー	同上
9	レジュメの書き方①	同上	
10	レジュメの書き方②	同上	
11	ゼミ発表の仕方	同上	
12	フィールドワークー中城村の企業立地	同上	
13	ゼミ発表・ディスカッション①	同上	
14	ゼミ発表・ディスカッション②	同上	
15	ゼミ発表・ディスカッション③	同上	
16	ゼミ発表・ディスカッション④	同上	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特にないが、参考文献は適宜指示する。 森靖雄著『大学生の学習テクニック』大月書店		
	学びの手立て		
	評価 評価 ・平常点：講義中の課題提出と発表（60点） ・レポート（40点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習 II のプレゼン発表に繋げる。
-------	-------------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	1年	keita.kinjo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	これから大学で学ぶにあたって、必要なスキルを修得することが目的です。大学では、高校までの学習方法とはまったく異なるため、自らコントロールして、効率的な学習習慣を身につけ、有意義な大学生活を送ることができる準備を行います。演習のテーマ・内容は、1. 大学生として身につけておくべき「常識」2. レポートやプレゼンテーションなどの「表現能力」などを学ぶ。	大学生生活の基礎となる授業なので毎回出席してください。

到達目標	1. 常識や情報収集能力などを鍛える 2. 表現能力を鍛える 3. 論理的思考能力を鍛える
------	---

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	第1～5回：社会常識：卒業後を意識した、大学4年間の過ごし方を考える。また、社会の一員としてのマナーや大学生がよく巻き込まれるトラブルなどの知識を得る。
	第6～11回：表現能力：大学の講義で必ず必要になる、レポートやプレゼンテーションの基礎を修得する。資料の読み方や文章のまとめ方、図書館の利用方法など。
	第12～15回：基礎数学など：経済理論を学ぶために必要な、基礎的な数学を学ぶ。

テキスト・参考文献・資料など	『知のツールボックスー新入生援助集ー』専修大学出版局
----------------	----------------------------

学びの手立て	毎回出席して発言することが重要。
--------	------------------

評価	平常点（70）および課題レポート（30）により総合的に評価します。
----	-----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習2を次に履修すること
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	1年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済に関する文献・雑誌等を講読することで、経済現象を科学的に分析する能力を養う。また、グループワークやディベート等を通じて、プレゼンテーション能力の向上を図る。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 経済社会の動きを論理的に説明できる力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	前期（基礎演習Ⅰ）の振り返り -基礎演習Ⅱの目標設定-
	2	ディベート① -テーマ選定等-
	3	ディベート② -グループ調査-
	4	ディベート③ -グループ調査-
	5	ディベート④ -グループ調査-
	6	ディベート⑤ -報告会①-
	7	ディベート⑥ -報告会②-
	8	プレゼンテーション① -プレゼンの作法、プレゼン技術について-
9	プレゼンテーション② -資料作成、調査等-	
10	プレゼンテーション③ -資料作成、調査等-	
11	プレゼンテーション④ -資料作成、調査等-	
12	プレゼンテーション⑤ -資料作成、報告等-	
13	プレゼンテーション⑥ -資料作成、報告等-	
14	プレゼンテーション⑦ -資料作成、報告等-	
15	後期まとめ①	
16	後期まとめ②	
	時間外学習の内容	
	経済に関するトピックの選定	
	グループ調査、資料作成	
	グループ調査、資料作成	
	グループ調査、資料作成	
	予想質問リストの作成	
	予想質問リストの作成	
	プレゼン方法に関する文献の精読	
	グループ調査、資料作成	
	グループ調査、資料作成	
	グループ調査、資料作成	
	グループ調査、資料作成	
	グループ調査、資料作成	
	プレゼン大会の準備	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、資料を配布する。	
	学びの手立て 自治体のホームページ等にアクセスし、地域振興策や経済データ等について調べておくこと。	
	評価 講義姿勢（50%）、提出物（50%）で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅲ
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	1年	keita.kinjo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>自らテーマを設定して学習する演習を行います。そのため、グループに分かれ設定した問題にもとづき、データや文献を調べ、互いに議論しながらテーマに対しての解を見つけます。クラスの中で発表し合うことによって、内容をより洗練させていきます。後半では、クラス対抗でプレゼンテーション大会を行い、競争を通じ楽しくプレゼン能力やコミュニケーション能力などを磨いていきます。</p>	<p>大学生生活の基礎となるので毎回出席してください。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表現能力をより鍛える</li> <li>2. 情報収集能力を鍛える</li> <li>3. 発想力を鍛える</li> </ol>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1週            ガイダンス</p> <p>第2週～第8週   テーマ設定、資料収集、プレゼンの準備などグループ別ワーク</p> <p>第9週～第15週 クラス対抗プレゼン大会”</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特になし。</p> <p>適宜資料は配付する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>毎回出席して、積極的に関与して、発言することが重要</p>
	<p>評価</p> <p>出席（80%）および、課題の提出状況（20%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>基礎演習Ⅰの続きです。</p>
-------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 基礎演習Ⅰで習得した大学生としてのスキルを生かし、グループ・ワークを実践する。	メッセージ
	到達目標 グループ・ワークによって、他の学生と協同しながら、一つのテーマについて調べ、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	
	2	グループ・ワークの基本	
	3	テーマ設定1	
	4	テーマ設定2	
	5	資料収集1	
	6	資料収集2	
	7	中間発表（進捗報告）	
	8	中間発表（進捗報告）	
	9	プレゼンテーション資料作成1	
	10	プレゼンテーション資料作成2	
	11	プレゼンテーション資料作成3	
	12	プレゼンテーションの実践1	
	13	プレゼンテーションの実践2	
	14	プレゼンテーションの実践3	
15	プレゼンテーションの実践4		
16	まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 授業中に適宜紹介する。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 グループ・ワークへの参加態度50%、プレゼンテーション20%、ミニレポート30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

演習では、経済学の基本的な考え方を学び、経済社会問題への関心を高め、自らの考えを論理的に表現し、議論する力を養います。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	1年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習Ⅱでは、学生同士、教員とのコミュニケーションの場を深めていきます。基礎演習Ⅰに引き続き、読解力、情報収集・情報分析力、プレゼンテーション力などの基礎的なスキルを高めていきます。この演習では、クラス対抗のプレゼンテーション大会を行う予定としています。	演習は「主体性」が求められます。積極的に課題に取り組む姿勢と意欲が求められ、更に、自ら課題を設定し、考えていくことができるようになることが目標となります。基本となる文章読解、表現能力、コミュニケーション能力を本演習で共に学びましょう。

到達目標	①大学で学ぶための基本的な考え方、姿勢を身につける（積極性・自主性） ②経済学を学ぶための文献読解、情報収集、分析手法の基礎を学ぶ。 ③論理的な思考、ディスカッション能力、説得的に表現する力を習得する。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス-前期を振り返って、後期の演習の進め方	シラバスを読む
	2	グループワーク① -グループ内での役割分担	グループでの役割の確認
	3	グループワーク② -テーマ設定と資料収集	テーマ設定と情報収集を行う
	4	グループワーク③ -プレゼン準備	役割に応じた作業実施
	5	グループワーク④ -報告会①	報告準備
	6	グループワーク⑤ -報告会②、グループワークを通じての振り返り	報告の振り返り
	7	プレゼンテーションの基礎と応用	プレゼンとは何かについて調べる
	8	プレゼンテーション入門①	プレゼンの目的と手法
	9	プレゼンテーション入門②	課題設定の方法
	10	プレゼンテーション入門③	効果的な伝え方について考える
	11	プレゼンテーション実習① -グループワーク（グループ分け、テーマ設定）	グループ内での準備をする
	12	プレゼンテーション実習② -資料収集とディスカッション	同上
	13	プレゼンテーション実習③ -プレゼン準備	同上
	14	プレゼンテーション実習④ -報告会	報告の振り返りと自己評価
15	演習を振り返って	演習で学んだことを振り返る	
16	※講義後半はプレゼン大会の日程に合わせ調整します。		

テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しませんが、下記の文献等を参考にしてください。 中野美香（2012）『大学生からのプレゼンテーション入門』ナカニシヤ出版 他、適宜指示します。
----------------	--

学びの手立て	○履修の心構え 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。 自ら学ぶ姿勢と考える習慣を身につけ、他者と意見を交換する絶好の機会として捉えてください。 ○学びを深めるために 自ら課題を探していくことが求められます。日ごろから経済ニュース、時事問題に関心を持ち、自らの考えを持つように心がけてください。
--------	---

評価	出席を重視し、演習内での課題提出、発表により総合的に評価します。 主体性を求めるため、演習での意見や議論への積極的な参加が評価基準となります。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 【関連科目・次のステージ】 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラム・ポリシーの1番「1年次にしっかりと基礎学力を身につける」前期で学んだ基礎演習Ⅰと同様である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習Ⅱでは、グループに分かれ設定したテーマにもとづき、統計データや文献を調べ、互いに議論しながらテーマを深く追求していきます。クラスの中で発表し合うことによって、違った考えや意見があることを知り、また自分の意見を発表することができることをねらいとする。	人間力に必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、評価能力など身につける。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業中で自分の意見を論理的に述べるができる。</li> <li>2. 相手の意見を聞き、理解し合いながらリポートやアサーションすることができる。</li> <li>3. クラスの中で発表された意見に対して評価することができる。</li> </ol>

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>第1週            ガイダンス</p> <p>第2週～第8週   テーマ設定、資料収集、プレゼンの準備などグループ別ワーク</p> <p>第9週～第15週   クラス対抗プレゼン大会</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『知のツールボックスー新入生援助集ー』専修大学出版局 講義時に、適宜指示する。</p>

学びの手立て	<p>プレゼンテーション能力を高めるために授業の中で「恥」をかくことに自ら挑戦し慣れることを勧めます。</p>
--------	---

評価	<p>出席およびレポート、発表により総合的に評価する。</p>
----	---------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>全ての授業においてプレゼンテーション能力は求められる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1年	sakahama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基礎演習Ⅱは、学生間及び教員とのコミュニケーションの場を深める場であり、読解力、情報収集・情報分析力、プレゼンテーション力などのスキルを高める場でもある。この授業では、大学生として基本的スキルを身につけて、その成果として、プレゼンテーション大会におけるグループ発表を行う。	メッセージ
	到達目標 大学生としての基本的なプレゼンテーション能力を醸成する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	後期ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	レジュメの作成方法	事前に配ったプリントを読むこと
	3	発表テーマの検討	同上
	4	発表テーマの検討	同上
	5	発表テーマの決定	同上
	6	プレゼンテーションの技法	同上
	7	プレゼンテーションの方法と実際	同上
	8	スライドの作り方（基礎編）	同上
9	スライドの作り方（応用編）	同上	
10	プレゼン予行演習（第1回）	同上	
11	プレゼン予行演習（第2回）	同上	
12	プレゼン大会準備	同上	
13	プレゼン大会準備	同上	
14	プレゼン大会準備	同上	
15	プレゼン大会		
16	まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特にないが、参考文献は適宜指示する。		
	学びの手立て		
	評価 評価 ・平常点：講義中の課題提出と発表（60点） ・プレゼン大会に関わるレポート（40点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 2年生以降に履修する専門ゼミの「学び」に繋げるようにする。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>21世紀はアジアの時代である。ダイナミックに成長するアジア諸国の成長要因はどのようなところにあるのか、詳細に文献およびデータを分析しながら経済原則を探る。また、所得の向上や豊かさ、更には社会の環境変化等を見ていくと共に、沖縄の現状と比較した場合どうなのかを考えていく。</p>	<p>講義中は良く聞くことに重点を置いて受講してください。また、テキストは十分読んできて、講義に臨んでください。</p>
到達目標	<p>本演習を通して</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを中心に質問形式で講義を行う。その為テキストは質問に答えられるように準備しておいてください。</li> <li>2. アジア経済新聞のアジア版についての理解ができるようにする。</li> <li>3. アジアの現実について理解できるようにする。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	第1週 1. 成長と安定のための経済制度改革 (序章)	講義の復習	
	2	第2週 2. 戦後のアジア経済	同上	
	3	第3週 3. 21世紀のアジアの経済成長と政府の役割	同上	
	4	第4週 4. 直接投資とは	同上	
	5	第5週 5. アジアにおける貿易の拡大	同上	
	6	第6週 6. タイの通貨暴落とアジア通貨	同上	
	7	第7週 7. IMFの処方箋と通貨危機の各国の対応	同上	
	8	第8週 中間試験		
9	第9週 8・これまでのNIEsの経済発展の経緯	同上		
10	第10週 9. NIEsの抱える課題と政府の対応	同上		
11	第11週 10. ASEAN諸国の概要	同上		
12	第12週 11. 見直し迫られるASEAN諸国の成長メカニズム	同上		
13	第13週 12. 高まる中国のプレゼンス	同上		
14	第14週 13. 経済発展の特徴	同上		
15	第15週 14. 日本企業を取り巻く環境変化	同上		
16	第16週 期末テスト			
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト 日本総合研究所調査部 環太平洋研究センター 今井宏・高安健一・坂東達郎・三島一夫著『21世紀アジア経済』勁草書房</p>		
	学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出欠確認は毎回厳格に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールで連絡してください。</li> <li>2. 演習ノートを作成し、専門用語の習得に努めてください。</li> <li>3. 講義は質問形式で行いますので、前もって予習をして臨んでください。</li> </ol>		
	評価	<p>評価方法は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問に答えること (50%)</li> <li>2. 質問すること (10%)</li> <li>3. 中間試験 (20%)</li> <li>4. 期末試験 (20%)</li> <li>5. 欠席が1/3以上を超える者は単位を認定しない。</li> </ol>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際経済論</li> <li>2. 日本経済論</li> </ol>



※ポリシーとの関連性 考える力を培う基盤を形成する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	2年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 時代の変化、社会経済の変化等から生まれる様々な課題を正しく理解し、その理解に基づき問題・課題を自分の頭で考え、自分なりの解決方法を見出すことができる能力を養う。	メッセージ 3年間のゼミ活動を通じて、理解・判断・論理等の認知能力だけでなく、忍耐力・協調性・やり抜く力・自制心・感謝する力等の非認知能力からなるトータルな「潜在能力」を高めていけるようにしましょう。よって、ゼミでの勉強だけでなく合宿等の課外活動にも積極的に参加してください。
	到達目標 解決すべき問題を見つけることができる その問題を説明しうる論理を組み立てられる。 その論理が正しいかどうかを確認し、正しければそれにもとづいて問題を解決する方法を見つけることができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1週 ガイダンス 第2週－15週 グループに分かれ、学習内容を報告した後に皆で議論する。
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：4月の開講時に指示する
	学びの手立て
	評価 出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 「主体的に調査・研究」しつつ、「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	2年	研究室(5629)、またはmurakami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。また、企業や事業所の訪問調査とその結果のプレゼンテーションを実施しながら、生きた経営を学んでいく。</p>	<p>1) 失敗を恐れずプレゼンテーションを実施してほしい。 2) 積極的な質疑応答を期待する。</p>
到達目標	<p>1) ビジネスマナーを身につける。 2) 受講前より、主体性、傾聴力、発信力、協調性などが身につく。 3) 就職活動や進学など自らの進路を考えることができる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>第1回 オリエンテーション(自己紹介ほか) 第2回 ビジネスマナー、プレゼンテーション、質疑応答のデモンストレーション、調査テーマ設定 第3回～第8回 プレゼンテーションと質疑応答①～⑥ 第9回 社会人特別講師による講義 第10回～第14回 プレゼンテーション⑦～⑪ 第15回 まとめ</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え 単に出席しているだけでは単位の修得にはつながらない。積極的にプレゼンを実施するとともに、プレゼンを受ける場合は積極的な質問を心がける。 ②学びを深めるために 働く意味を考える。正課内外のキャリアについて意味づけをしてもらいたい。</p>
	<p>評価</p> <p>出席(30%)、レジュメやパワーポイントによるプレゼンテーション(40%)、課外学習における諸活動(30%)を総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>基礎演習Ⅳ、ジョブインタビュー入門(共通)、文章表現入門(共通)</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学の専門的知識を学び、その視座から経済社会を読み解く力を身につけ、他者と議論する力を養います。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	2年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方などを学びます。グループワークと報告とともに、個人での課題設定と情報収集、整理、分析していく力を養います。	基礎演習Ⅲから専門性と密度を持った議論を求めます。グループ学習における自らの役割を自覚し、より積極的に演習に参加する必要があります。個々人の能力を高めるため、それぞれがテーマ設定、情報収集、分析、資料作成、報告といった一連の作業が出来るよう相応の準備が必要です。課外活動等も積極的に提案、参加することを求めます。
到達目標	①自ら課題を設定し、情報収集と分析を通じて知見を深めていくことが出来る。 ②体系的な理解に努め、課題解決に向けた思考方法を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー基礎演習Ⅰ・Ⅱを振り返って、演習の計画について	シラバスを読む
	2	演習での報告について一情報の収集、整理、レジュメの作成、報告の仕方	情報検索、図書館利用の確認
	3	資料の収集と整理ー記事報告①	文献リスト作成の課題
	4	論文・文献の読み方ー記事報告②	要旨作成の課題
	5	論文・文献の読み方ー記事報告③	先行研究整理の課題
	6	テーマ探しと課題設定ー記事報告④	自らの関心を探る
	7	テーマ探しと課題設定ー記事報告⑤	テーマに関する情報収集を行う。
	8	レポート作成方法ー記事報告⑥	レポートの作成準備
	9	レポート作成の実践ー記事報告⑦	レポート課題の提出準備
	10	報告とディスカッション①	※合同ゼミ等
	11	報告とディスカッション②	同上
	12	報告とディスカッション③	同上
	13	報告とディスカッション④	グループ、個人報告の準備
	14	報告とディスカッション⑤	グループ、個人報告の準備
15	報告とディスカッション⑥	グループ、個人報告の準備	
16	※CIT行動学に基づく実践的講義（合同ゼミ）を開催予定（第10週～第12週）		

テキスト・参考文献・資料など  
 テキストは特に使用しませんが、グループ、個人報告に関する文献、資料等については適宜紹介します。

学びの手立て

- 履修の心構え  
 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。担当を決め、新聞記事等の報告を行います。自ら学ぶ姿勢と考える習慣を身につけ、他者と意見を交換する絶好の機会として捉えてください。
- 学びを深めるために  
 自ら課題を探していくことが求められます。日ごろから経済ニュース、時事問題に関心を持ち、自らの考えを持つように心がけてください。

評価

出席を重視し、演習内での課題提出、発表により総合的に評価します。主体性を求めるため、演習での意見や議論への積極的な参加が評価のポイントとなります。

学びの継続

次のステージ・関連科目  
**【関連科目・次のステージ】**  
 専門演習ⅠA,ⅠB

※ポリシーとの関連性 この授業では次の力・スキルを育成します。①コミュニケーション力 ②社会全般に関する知見を広げる力 ③現状を分析する力

[ /演習]

科目基本情報	科目名 基礎演習Ⅲ	期別 前期	曜日・時限 木3	単位 2
	担当者 長嶋 佐央里	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ オフィスアワー：木曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、ディベートを通じて、情報の探索、課題の考察・整理、論理的な展開などの方法、集団で物事を進めることの重要性を学びます。ディベートとは、あるテーマについて肯定側、否定側に分かれてプレゼンテーションや議論の優劣を競うものです。さまざまな意見・主張を批判的に検討することで、レポート・論文を書く能力・スキル、社会に通じる基本的能力も高めることができます。	メッセージ この授業は、少人数のゼミナールという形式で行われます。教員の側からの一方的な講義形式の授業ではなく、共同研究の場であり、個人が勉強したり研究した成果を持ち寄り、討論し、議論し、協力して作業したり、行動したりするなかで、自分自身のオリジナルなものを見つけ、自己を確立していく場です。3年間同じメンバーで学んでいくので、互いに親睦を深め、切磋琢磨してください。
	到達目標 1. 授業で取り上げるテーマに関連した経済社会現象を発見し、そこで生じている問題を客観的かつ多面的に分析することができる。 2. 他の学生の意見を理解して、自らの意見を的確にかつ論理的に述べるができる。 3. グループ・ワークにおいて、役割分担して、設定したテーマについて考察し、プレゼンテーションすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方	
	2	自分の考えを整理し、伝える	事前：文献の要約、関連事項の調査
	3	議論の考え方を学ぶ①	事前：文献の要約、関連事項の調査
	4	議論の考え方を学ぶ②	事前：文献の要約、関連事項の調査
	5	他者の意見を聞き、評価する技術を学ぶ	事前：文献の要約、関連事項の調査
	6	自分の意見と他者の意見を比較する	事前：文献の要約、関連事項の調査
	7	テーマを分析する①	事前：文献の要約、関連事項の調査
	8	テーマを分析する②	事前：文献の要約、関連事項の調査
	9	自分の意見と他者の意見をまとめる	事前：文献の要約、関連事項の調査
	10	ディベート①のテーマとグループの決定・ディベート①の準備	事前：ディベートのテーマを考える
	11	ディベート①の準備：論理展開を考える・情報収集・情報整理・資料作成	事前：ディベートの準備
	12	ディベート①の実践	事前：ディベートの準備
	13	ディベート①の講評・ディベート②のテーマとグループの決定・ディベート②の準備	事前：ディベートのテーマを考える
	14	ディベート②の準備：論理展開を考える・情報収集・情報整理・資料作成	事前：ディベートの準備
15	ディベート②の実践	事前：ディベートの準備	
16	ディベート②の講評・総括		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。 参考文献は授業で適宜紹介します。
-------	--

学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業回数の3分の2の出席に満たない者は単位を修得することはできません。</li> <li>この授業では、学生の多様な考え方や経験を尊重します。学生のみならず、自分と異なる考え方や経験を尊重し、ともに学び合う雰囲気にご協力ください。しかし、誰かを傷つける差別的な言動は受け入れられないことを理解しておいてください。</li> </ul> <p>【学びを深めるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、様々な時事問題に関心を持ってほしいと思います。</li> </ul>
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。</li> <li>「ディベートの実践」（準備を含む）60%、「グループ・ワークにおける貢献度」20%、発言など授業での「平常点」20%で評価します。</li> <li>到達目標1、2は「ディベートの実践」「グループ・ワークにおける貢献度」「平常点」のそれぞれにおいて、到達目標3は「ディベートの実践」「グループ・ワークにおける貢献度」で確認します。</li> </ul>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「基礎演習Ⅲ」「基礎演習Ⅳ」は、3年次の「専門演習ⅠA」「専門演習ⅠB」の先修科目として位置づけられています。2年次で習得した力・スキルをさらに向上させてください。</li> <li>「基礎演習Ⅲ」「基礎演習Ⅳ」で習得した力・スキルは、履修するすべての講義で活用し、さらに自身の能力を高めてください。</li> </ul>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	2年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。	今後、3年間共に学んでいくことになるので、ゼミ生同士の親睦を深めながら、切磋琢磨してほしい。そのため、夏休みの合宿やスポーツ大会などのレクリエーションも取り入れていきたい。この年次では大学生活を有意義に過ごすための動機付けも重要だと考えています。

到達目標
レポートなど文書を作成することができる。 論理的に発言することができる。 課題解決のための適切な情報を収集することができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 ガイダンス	
	2	第2週～5週 考え方、問題意識の設定	社会・経済問題のテーマを見つける
	3	第6週～14週 レポート・論文の書き方(その1)	課題についてレポート作成
	4	第10週～12週 CIS行動学による実践的講義Ⅰ(ゼミ合同による)	テーマを見つけ、実際に行動する
	5	第13週～15週 レポート・論文の書き方(その2)	課題についてレポート作成
	6	第16週 講義振り返りと夏休みの課題など	夏休みの課題としてレポート作成
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

テキスト・参考文献・資料など
『知のツールボックスー新入生援助集ー』 専修大学出版局 『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版 『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社

学びの手立て
毎回の出席が重要になる。 ただ出席するだけでなく、積極的に発言したり他人の意見を聞くようにする。 ゼミ生どうし親睦を深めるための自主企画も歓迎する。 CIS行動学とは、C(コミュニケーション)、I(イマジネーション:想像力、発想力)、S(センス:感性、着想力)を鍛え、自ら考え行動することができることを目指すものである。これは外部からの講師を迎え、複数のゼミの合同での講義となる。

評価
出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

学びの継続
次のステージ・関連科目 自ら考え、意見を発表できる基礎力が形成されたことを踏まえ、専門演習でさらにその力を向上させる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	2年		

学びの準備	ねらい 本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学 科の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。	メッセージ 今後3年間共に学んでいくことになるので、ゼミ生同士の親睦を深めながら、切磋琢磨してほしい。この年次では大学生活を有意義に過ごすための動機付けも重要だと考えています。
	到達目標 レポートなど文書を作成することができる。 論理的に発言することができる。 課題解決のための適切な情報を収集することができる。 自ら考え、行動することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1週 ガイダンス 第2週－3週 CIS行動学による実践的 第4週－15週 レポート・論文の書き方、文献の読見方、資料の調べ方
	テキスト・参考文献・資料など 『知のツールボックスー新入生援助集ー』 専修大学出版局 『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版 『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社
	学びの手立て 毎回の出席が重要になる。 ただ出席するだけでなく、積極的に発言したり他人の意見を聞くようにする。 CIS行動学とは、C（コミュニケーション）、I（イマジネーション：想像力、発想力）、S（センス：感性、着想力）を鍛え、自ら考え行動することができることを目指すものである。 これは外部からの講師を迎え、複数のゼミの合同での講義となる。
	評価 出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	2年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済に関する文献、新聞記事、雑誌等を講読することで「経済をみる眼」を養う。また、グループ調査等を通じてプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の向上を図る。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 経済社会の動きを論理的に説明できる力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義説明、基礎演習Ⅲの目標設定、アンケート等 -	
	2	経済学科で学ぶ意義について①	大学生活の自己評価
	3	経済学科で学ぶ意義について②	大学生活の自己評価
	4	文献購読① - 文献の選定、担当箇所割り当て等 -	文献の収集
	5	文献購読② - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	6	文献購読③ - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	7	文献購読④ - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	8	文献購読⑤ - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	9	文献購読⑥ - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	10	文献購読⑦ - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	11	グループ調査① - テーマの選定、グループ分け等 -	グループワーク
	12	グループ調査② - 資料収集、調査、分析 -	グループワーク
	13	グループ調査③ - 資料収集、調査、分析 -	グループワーク
	14	グループ調査④ - 報告、質疑応答 -	グループワーク、資料作成
15	グループ調査⑤ - 報告、質疑応答 -	グループワーク、資料作成	
16	前期のまとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、資料を配布する。		
	学びの手立て 読書を継続して行うこと。		
	評価 受講態度 (50%)、提出物 (50%) で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅳ
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	2年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。	ゼミ生どうし親睦を深めるための自主企画も歓迎します。この年次では大学生活を有意義に過ごすための動機付けも重要だと考えています

到達目標
レポートなど文書を作成することができる。
論理的に発言することができる。
課題解決のための適切な情報を収集することができる。
自ら考え、行動することができる

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 ガイダンス	
	2	第2週～第3週 CIS行動学による実践的講義Ⅱ（ゼミ合同による）	テーマを見つけ、実際に行動する
	3	第3週～第15週 レポートの発表、テーマ別グループ発表、グループ間ディベートなど	グループによる資料収集など
	4	第16週 後期ゼミの振り返り	3年次の目標を立てる
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

テキスト・参考文献・資料など
『知のツールボックスー新入生援助集ー』 専修大学出版局
『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版
『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社

学びの手立て
毎回の出席が重要になる。
ただ出席するだけでなく、積極的に発言したり他人の意見を聞くようにする。
CIS行動学とは、C（コミュニケーション）、I（イマジネーション：想像力、発想力）、S（センス：感性、着想力）を鍛え、自ら考え行動することができることを目指すものである。これは外部からの講師を迎え、複数のゼミの合同での講義となる。

評価
出席状況と受講態度、及びレポート、発表内容により総合的に評価する。

学びの継続
次のステージ・関連科目
自ら考え、意見を発表できる基礎力が形成されたことを踏まえ、専門演習でさらにその力を向上させる。



※ポリシーとの関連性 「主体的に調査・研究」しつつ、「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	0
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	2年	研究室(5629)、またはmurakami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。また、企業や事業所の訪問調査とその結果のプレゼンテーションを実施しながら、生きた経営を学んでいく。</p> <p>到達目標</p> <p>1) ビジネスマナーを身につける。 2) 受講前より、主体性、傾聴力、発信力、協調性などが身につく。 3) 就職活動や進学など自らの進路を考えることができる。</p>	<p>1) 失敗を恐れずプレゼンテーションを実施してほしい。 2) 積極的な質疑応答を期待する。</p>

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>第1回 オリエンテーション(基礎演習Ⅲの総括) 第2回～第8回 プレゼンテーションと質疑応答①～⑦ 第9回 社会人特別講師による講義 第10回～第14回 プレゼンテーション⑧～⑫ 第15回 まとめ</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え 単に出席しているだけでは単位の修得にはつながらない。積極的にプレゼンを実施するとともに、プレゼンを受ける場合は積極的な質問を心がける。 ②学びを深めるために 働く意味を考える。正課内外のキャリアについて意味づけをしてもらいたい。</p>
<p>評価</p> <p>出席(30%)、レジュメやパワーポイントによるプレゼンテーション(40%)、課外学習における諸活動(30%)を総合的に評価する。</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習ⅠA、ジョブインタビュー入門(共通)、文章表現入門(共通)</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学の専門的知識を学び、その視座から経済社会を読み解く力を身につけ、他者と議論する力を養います。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	2年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基礎演習Ⅲを踏まえ、グループワークと個人報告を中心に、文献読解と情報分析、プレゼンテーション能力の涵養をはかっていきます。テーマに関してはより専門性の高い内容を求めていきます。	メッセージ 基礎演習Ⅲから専門性と密度を持った議論を求めます。グループ学習における自らの役割を自覚し、より積極的に演習に参加する必要があります。個々人の能力を高めるため、それぞれがテーマ設定、情報収集、分析、資料作成、報告といった一連の作業が出来るよう相応の準備が必要です。課外活動等も積極的に提案、参加してください。
	到達目標 ①自ら課題を設定し、情報収集と分析を通じて知見を深めていくことが出来る。 ②体系的な理解に努め、課題解決に向けた思考方法を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー前期、夏休みを振り返って、演習の進め方について	シラバスを読む
	2	報告とディスカッション①	※合同ゼミ
	3	報告とディスカッション②	同上
	4	グループ報告の準備ーグループ分け、テーマ設定	各自関心のあるテーマを探す
	5	グループ報告とディスカッション①	グループ報告の準備
	6	グループ報告とディスカッション②	グループ報告の準備
	7	グループ報告とディスカッション③	グループ報告の準備
	8	個人報告の準備ーテーマ探しと資料収集	個人テーマ探索
9	個人報告の準備ー文献整理と先行研究整理の方法	資料収集と整理を行う	
10	個人テーマの発表①ー文献紹介と論点整理	文献リストの作成と紹介の準備	
11	個人テーマの発表②ー文献紹介と論点整理	文献リストの作成と紹介の準備	
12	個人テーマの発表③ー文献紹介と論点整理	文献リストの作成と紹介の準備	
13	個人テーマの発表④ー文献紹介と論点整理	文献リストの作成と紹介の準備	
14	個人テーマの発表⑤ー文献紹介と論点整理	文献リストの作成と紹介の準備	
15	基礎演習の振り返りと専門演習に向けて	講義の振り返り	
16	※CIT行動学に基づく実践的講義（合同ゼミ）を開催予定（第2週～第3週）		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に使用しませんが、グループ、個人報告に関する文献、資料等については適宜紹介します。		
	学びの手立て ○履修の心構え 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。担当を決め、新聞記事等の報告を行います。自ら学ぶ姿勢と考える習慣を身につけ、他者と意見を交換する絶好の機会として捉えてください。 ○学びを深めるために 自ら課題を探していくことが求められます。日ごろから経済ニュース、時事問題に関心を持ち、自らの考えを持つように心がけてください。		
	評価 出席を重視し、演習内での課題提出、発表により総合的に評価します。主体性を求めるため、演習での意見や議論への積極的な参加が評価のポイントとなります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 【関連科目・次のステージ】 専門演習ⅠA、専門演習ⅠB
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	2年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済に関する文献等の講読を通じて経済現象を科学的に分析する能力を養う。また、グループ調査・ディベート等を行うことでプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上を図る。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 経済社会の動きを論理的に説明できる力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義説明、基礎演習Ⅳの目標設定、アンケート等 -	
	2	大学生活に関する自己評価① - 修学の状況、研究テーマ、将来設計等 -	大学生活の自己評価
	3	大学生活に関する自己評価② - 修学の状況、研究テーマ、将来設計等 -	大学生活の自己評価
	4	大学生活に関する自己評価③ - 修学の状況、研究テーマ、将来設計等 -	大学生活の自己評価
	5	沖縄経済に関するグループ調査① - テーマ選定、グループ分け、構成案等の検討 -	グループワーク
	6	沖縄経済に関するグループ調査② - データ収集、調査等 -	グループワーク
	7	沖縄経済に関するグループ調査③ - データ収集、調査等 -	グループワーク
	8	グループ調査中間報告 - 目次、構成案、問題意識、予想される結論等 -	グループワーク、資料作成
	9	沖縄経済に関するグループ調査④ - パワーポイント資料作成等 -	グループワーク、資料作成
	10	沖縄経済に関するグループ調査⑤ - パワーポイント資料作成等 -	グループワーク、資料作成
	11	グループ調査報告① - パワーポイントを用いた報告 -	グループワーク、資料作成
	12	グループ調査報告② - パワーポイントを用いた報告 -	グループワーク、資料作成
	13	レポートの書き方① - グループ調査、個人報告等を踏まえて、今後の課題を抽出 -	指定文献の精読
	14	レポートの書き方② - グループ調査、個人報告等を踏まえて、今後の課題を抽出 -	指定文献の精読
15	講義のまとめ①		
16	講義のまとめ②		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、資料を配布する。		
	学びの手立て 沖縄県経済に関する文献・レポートに目を通しておくこと。		
	評価 講義姿勢 (50%)、提出物 (50%) で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅠA
-------	-----------------------

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①コミュニケーション力 ②社会全般に関する知見を広げる力 ③現状を分析する力

[ /演習]

科目基本情報	科目名 基礎演習Ⅳ	期別 後期	曜日・時限 木3	単位 2
	担当者 長嶋 佐央里	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ オフィスアワー：木曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、グループ研究を通じて、情報の探索、課題の考察・整理、論理的な展開などの方法、集団で物事を進めることの重要性を学びます。グループ研究では、与えられた課題について、問題の設定、調査・研究、発表を行い、討議していきます。社会現象に対する見方・考え方を向上させることは、レポート・論文を書く能力・スキル、社会に通じる基本的能力を高めることにつながります。	メッセージ この授業は、少人数のゼミナールという形式で行われます。教員の側からの一方的な講義形式の授業ではなく、共同研究の場であり、個人が勉強したり研究した成果を持ち寄り、討論し、議論し、協力して作業したり、行動したりするなかで、自分自身のオリジナルなものを見つけ、自己を確立していく場です。ゼミにおいて積極的かつ自主的に行動して、互いに切磋琢磨してください。
	到達目標 1. 授業で取り上げるテーマに関連した経済社会現象を発見し、そこで生じている問題を客観的かつ多面的に分析することができる。 2. 他の学生の意見を理解して、自らの意見を的確にかつ論理的に述べるができる。 3. グループ・ワークにおいて、役割分担して、設定したテーマについて考察し、プレゼンテーションすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方	
	2	グループ研究の作成指導① 課題テーマの発表・文献の読み方・グループの決定	文献を要約し、関連事項を調べる
	3	グループ研究の作成指導② 課題の設定・リサーチクエストを考える	課題関連事項を調べる
	4	グループ研究の作成指導③ リサーチクエストの絞り込み・仮説を立てる	課題関連事項を調べる
	5	グループ研究の作成指導④ 情報の探索・入手	リストを作成し、情報を入手する
	6	グループ研究の作成指導⑤ 入手した情報の取捨選択・整理	情報を読解し、整理する
	7	グループ研究の作成指導⑥ リサーチクエストの確認・修正・アウトラインの作成	情報を読解し、整理する
	8	グループ研究の作成指導⑦ アウトラインの決定・発表資料の作成	アウトラインを作成する
	9	グループ研究の作成指導⑧ 発表資料の作成	発表資料を作成する
	10	グループ研究の作成指導⑨ 発表資料の作成	発表資料を作成する
	11	グループ研究の作成指導⑩ 問題提起と結論の対応・論理一貫性の確認 発表資料の作成	発表資料を作成する
	12	グループ研究発表① PPTを使用したプレゼンテーション	発表資料の完成・発表の準備
	13	グループ研究発表①の講評・グループ研究発表②の進め方・グループ研究発表②の準備	発表資料を作成する
	14	グループ研究発表②の準備：ポスターの作成	発表資料を作成する
	15	グループ研究発表② ポスターを使用したプレゼンテーション・グループ研究発表②の講評	発表資料の完成・発表の準備
16	総括		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。 参考文献は授業で適宜紹介します。
-------	--

学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業回数の3分の2の出席に満たない者は単位を修得することはできません。</li> <li>この授業では、学生の多様な考え方や経験を尊重します。学生のみなさんにも、自分と異なる考え方や経験を尊重し、ともに学び合う雰囲気貢献してください。しかし、誰かを傷つける差別的な言動は受け入れられないことを理解しておいてください。</li> </ul> <p>【学びを深めるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、様々な時事問題に関心を持ってほしいと思います。</li> </ul>
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。</li> <li>「グループ研究発表」（準備を含む）60%、「グループ・ワークにおける貢献度」20%、発言など授業での「平常点」20%で評価します。</li> <li>到達目標1、2は「グループ研究発表」「グループ・ワークにおける貢献度」「平常点」のそれぞれにおいて、到達目標3は「グループ研究発表」「グループ・ワークにおける貢献度」で確認します。</li> </ul>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「基礎演習Ⅲ」「基礎演習Ⅳ」は、3年次の「専門演習ⅠA」「専門演習ⅠB」の先修科目として位置づけられています。2年次で習得した力・スキルをさらに向上させてください。</li> <li>「基礎演習Ⅲ」「基礎演習Ⅳ」で習得した力・スキルは、履修するすべての講義で活用し、さらに自身の能力を高めてください。</li> </ul>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習IV	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	21世紀はアジアの時代である。ダイナミック成長するアジア諸国の成長要因はどのようなところにあるのか、詳細に文献およびデータを分析しながら経済原則を探る。また、所得の向上や豊かさ、更には社会の環境変化等を見ていくと共に、沖縄の現状と比較した場合どうなのかを考えて行く。	講義中は良く聞くことに重点を置いて受講してください。また、テキストは十分読んできて、講義に臨んでください。
到達目標	本演習を通して	
	1. テキストを中心に質問形式で講義を行う。その為テキストは質問に答えられるように準備しておいてください。	
	2. アジア経済新聞のアジア版についての理解ができるようにする。	
	3. アジアの現実について理解できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 1. エレクトロニクス産業と日本企業の展開	講義の復習
	2	第2週 2. 日本エレクトロニクス企業のアジアにおける事業活動	同上
	3	第3週 3. 市場規模と生産基盤	同上
	4	第4週 4. 世界規模で進展した完成車メーカーの戦略提携	同上
	5	第5週 5. 国際金融業務とは	同上
	6	第6週 6. カントリーリスクと現地政府による規制	同上
	7	第7週 7. アジア経済安全保障の課題	同上
	8	第8週 中間試験	
	9	第9週 8. エネルギー保障	同上
	10	第10週 9. 環境問題	同上
	11	第11週 10. 貿易自由化の流れと地域経済統合の現状	同上
	12	第12週 11. アジアにおける経済統合	同上
	13	第13週 12. 政府開発援助の定義と役割	同上
14	第14週 13. 日本のODA	同上	
15	第15週 14. 援助に関する考え方		
16	第16週 期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト 日本総合研究所調査部 環太平洋研究センター 今井宏・高安健一・坂東達郎・三島一夫著『21世紀アジア経済』勁草書房		
	学びの手立て		
	1. 出欠確認は毎回厳格に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールで連絡してください。 2. 演習ノートを作成し、専門用語の習得に努めてください。 3. 講義は質問形式で行いますので、前もって予習をして臨んでください。		
	評価		
	評価方法は、1. 質問に答えること（50%）。2. 質問すること（10%）3. 中間試験（20%） 4. 期末試験（20%） 5. 欠席が1/3以上を超える者は単位を認定しない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	1. 国際経済論 2. 日本経済論

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	2年		

学びの準備	ねらい 本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。	メッセージ 今後3年間共に学んでいくことになるので、ゼミ生同士の親睦を深めながら、切磋琢磨してほしい。この年次では大学生活を有意義に過ごすための動機付けも重要だと考えています。
	到達目標 レポートなど文書を作成することができる。 論理的に発言することができる。 課題解決のための適切な情報を収集することができる。 自ら考え、行動することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1週 ガイダンス 第2週－3週 CIS行動学による実践的 第4週－15週 レポート・論文の書き方、文献の読見方、資料の調べ方
	テキスト・参考文献・資料など 『知のツールボックス－新入生援助集－』 専修大学出版局 『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版 『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社
	学びの手立て 毎回の出席が重要になる。 ただ出席するだけでなく、積極的に発言したり他人の意見を聞くようにする。 CIS行動学とは、C（コミュニケーション）、I（イマジネーション：想像力、発想力）、S（センス：感性、着想力）を鍛え、自ら考え行動することができることを目指すものである。 これは外部からの講師を迎え、複数のゼミの合同での講義となる。
	評価 出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	2年		

学びの準備	ねらい 基礎演習Ⅲでの学習を受け、今後の沖縄の方向性について考えていく。将来、学生が各界のリーダーとして成長できるよう広い視点から沖縄経済の今後について議論する。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1週            ガイダンス 第2週－15週   グループごとに学習内容を報告、皆で議論する。
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：後期開講時に指示する

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：後期開講時に指示する
-------	-----------------------------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。
-------	--------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

企業からのミッションを解決することを通じて、自らの意見を明確に筋道立てて説明できる能力を向上させる。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリアデザイン論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業から与えられたミッション（課題）に対して、グループに分かれて作業を分担し、主に学生同士の質疑応答で授業は進行する。したがって、プレゼン力、コミュニケーション力が養われ、本格的な就職活動に向けて、自分に相応しい職業や進路を見出すきっかけとなることができる。	メッセージ この講義は PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）形式の講義である。PBLとは、「課題解決型授業」のことで、通常の座学中心の講義とは一線を画するものである。時間外に会社訪問や打ち合わせ等あり、大変ではあるが、提案が採用され、企業と一緒にプロジェクトを進めていった事例もある。社会人との交流等もあり、大学生生活を積極的にしたい人向け
	到達目標 与えられた課題に対して解決する力ができる。 仲間と一緒に考えたり、自分の意見を言うなどのコミュニケーション力がつく。 自らの言葉で発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスをよく読むこと
	2	チームづくりと1シート企画	企画提案のしかた
	3	企業からのミッション	ミッションに対する解決法を考える
	4	チームワークとCIS	チームメンバーをよく知る
	5	課題解決（1）～企業ミッションと課題を探る～	ミッションに対する解決法の検討
	6	課題解決（2）～課題解決のアプローチ方法～	企業訪問・インタビューなど、打ち合わせや情報収集を行う
	7	課題解決（3）～ユニーク発想法～	同上
	8	課題解決（4）～提案の事業プランの作り方～	同上
9	中間プレゼンテーション	企画書の検討	
10	プレゼンテーション技術基礎～プレゼン本番に向けた企画書のブラッシュアップ～	同上	
11	課題解決（5）	同上	
12	課題解決（6）	発表の事前練習	
13	プレゼン本番前リハーサル		
14	プレゼン本番		
15	各チーム企画提案書の振り返り	提案に対する事後評価	
16	自身の学びの振り返り	自身の行動指針を立てる	
実践	テキスト・参考文献・資料など 特にない ・講義時に指定する。		
	学びの手立て 出席を重視する。 講義のねらいをしっかりと自覚し、積極的に発言、チーム活動に参加すること。 チームとしての活動が中心になるので、チームリーダー及びメンバーの役割分担が重要になる。 社会人との交流もあるので、社会人としてのマナーを守ることを心がけること。		
	評価 出席、グループワークの進め方、プレゼンの結果を総合的に勘案して評価する。 出席と毎回提出するリアクションペーパー（80点） プレゼン結果（20点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 自らの行動力や課題解決力が高まっているので、目的を持って専門科目等をとることができる。また、学外活動も積極的に行う。 就職活動に対しても積極的に取り組むことができる。
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	2年	研究室 (5629)、またはmurakami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、特定業界を事例に取り上げながら、企業とは何か、経営とは何かなどを考えることが目的である。また、大企業や中小企業、経営組織や経営戦略、経営の歴史や現状など幅広く経営学の入門科目として講義する。	メッセージ 起業、企業、経営の用語の意味を理解することが大切である。
	到達目標 1) 企業の有する社会性と経済性について理解できる。 2) 情報の非対称性の意味が理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション (講義の説明と評価の方法について)</td><td>講義ノートの点検</td></tr> <tr><td>2</td><td>経営学とは何か?</td><td>配布資料の精読、講義ノートの点検</td></tr> <tr><td>3</td><td>規制緩和と企業経営</td><td>配布資料の精読、講義ノートの点検</td></tr> <tr><td>4</td><td>食品企業の経営</td><td>配布資料の精読、講義ノートの点検</td></tr> <tr><td>5</td><td>タバコ企業の経営</td><td>配布資料の精読、講義ノートの点検</td></tr> <tr><td>6</td><td>通信企業の経営</td><td>配布資料の精読、講義ノートの点検</td></tr> <tr><td>7</td><td>道路関係企業の経営</td><td>配布資料の精読、講義ノートの点検</td></tr> <tr><td>8</td><td>中間試験</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>戦争ビジネス① - 軍産複合体を考える -</td><td>配布資料の精読、講義ノートの点検</td></tr> <tr><td>10</td><td>戦争ビジネス② - 戦争の民営化を考える -</td><td>配布資料の精読、講義ノートの点検</td></tr> <tr><td>11</td><td>電力企業の経営</td><td>配布資料の精読、講義ノートの点検</td></tr> <tr><td>12</td><td>醸造企業の経営</td><td>配布資料の精読、講義ノートの点検</td></tr> <tr><td>13</td><td>企業経営の理解</td><td>配布資料の精読、講義ノートの点検</td></tr> <tr><td>14</td><td>企業の社会的責任</td><td>配布資料の精読、講義ノートの点検</td></tr> <tr><td>15</td><td>経営学 I のまとめと質疑応答</td><td>配布資料の精読、講義ノートの点検</td></tr> <tr><td>16</td><td>期末試験</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション (講義の説明と評価の方法について)	講義ノートの点検	2	経営学とは何か?	配布資料の精読、講義ノートの点検	3	規制緩和と企業経営	配布資料の精読、講義ノートの点検	4	食品企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検	5	タバコ企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検	6	通信企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検	7	道路関係企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検	8	中間試験		9	戦争ビジネス① - 軍産複合体を考える -	配布資料の精読、講義ノートの点検	10	戦争ビジネス② - 戦争の民営化を考える -	配布資料の精読、講義ノートの点検	11	電力企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検	12	醸造企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検	13	企業経営の理解	配布資料の精読、講義ノートの点検	14	企業の社会的責任	配布資料の精読、講義ノートの点検	15	経営学 I のまとめと質疑応答	配布資料の精読、講義ノートの点検	16	期末試験		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
	1	オリエンテーション (講義の説明と評価の方法について)	講義ノートの点検																																																		
2	経営学とは何か?	配布資料の精読、講義ノートの点検																																																			
3	規制緩和と企業経営	配布資料の精読、講義ノートの点検																																																			
4	食品企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検																																																			
5	タバコ企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検																																																			
6	通信企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検																																																			
7	道路関係企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検																																																			
8	中間試験																																																				
9	戦争ビジネス① - 軍産複合体を考える -	配布資料の精読、講義ノートの点検																																																			
10	戦争ビジネス② - 戦争の民営化を考える -	配布資料の精読、講義ノートの点検																																																			
11	電力企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検																																																			
12	醸造企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検																																																			
13	企業経営の理解	配布資料の精読、講義ノートの点検																																																			
14	企業の社会的責任	配布資料の精読、講義ノートの点検																																																			
15	経営学 I のまとめと質疑応答	配布資料の精読、講義ノートの点検																																																			
16	期末試験																																																				
テキスト・参考文献・資料など 日本比較経営学会編『会社と社会』文理閣、2006年 学習に必要な文献は、適宜講義中に指示する。																																																					
学びの手立て ①履修の心構え 出席するだけでは単位の修得にはつながらない。講義ファイルの予習・復習に取り組むこと。 ②講義レジュメ 講義レジュメは各自で指定サイトからダウンロードすること (講義開始時に指示する)。 ③学びを深めるために 私たちの生活に企業の存在は欠かせない。アルバイトや日頃の生活から企業の存在を理解してほしい。																																																					
評価 出席 (50%) + 試験 (中間25% + 期末25%) で評価する。																																																					

学びの継続	次のステージ・関連科目 キャリア・デザインAおよびB (いずれも共通科目)、経営学II、理論と実証双方から企業を対象とする学問全般。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	2年	研究室(5629)、またはmurakami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、「経営学Ⅰ」の応用科目と位置づける。大企業や中小企業の経営を基礎に、昨今、一部の企業で取り組まれている社会的企業、ソーシャルビジネス、さらには貧困ビジネスやブラック企業などについて触れ、企業の形態や社会貢献の相違などを比較しながら、企業とは何か、経営とは何かという課題に理解を深めていく。	メッセージ 起業、企業、経営の用語の意味を理解することが大切である。
	到達目標 1) 継続事業体としての企業が理解できる。 2) ソーシャルビジネスの意味が理解できる。 3) 各地に存在する企業の取り組みが理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義の説明と評価の方法について）	リアクションペーパー（RAP）提出
	2	企業の目的、組織、形態	RAP提出、資料精読
	3	ビジネスを理解するための用語解説	RAP提出、資料精読
	4	社会貢献ビジネス	RAP提出、資料精読
	5	社会的企業と公益事業	RAP提出、資料精読
	6	データ比較による企業分析	RAP提出、資料精読
	7	労働と企業	RAP提出、資料精読
	8	中間試験	
	9	企業の変遷	RAP提出、資料精読
	10	ベンチャービジネスとは何か？	RAP提出、資料精読
	11	社会的排除と経営学の役割	RAP提出、資料精読
	12	貧困ビジネス、ブラック企業（ブラックバイト）の現状と課題そして対策	RAP提出、資料精読
	13	企業の本質	RAP提出、資料精読
	14	社会的企業とNPO	RAP提出、資料精読
	15	経営学Ⅱのまとめと質疑応答	RAP提出、資料精読
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 日本比較経営学会編『会社と社会』文理閣、2006年 学習に必要な文献は、適宜講義中に指示する。		
	学びの手立て ①履修の心構え 出席するだけでは単位の修得にはつながらない。講義ファイルの予習・復習に取り組むこと。 ②講義レジュメ 講義レジュメは各自で指定サイトからダウンロードすること（講義開始時に指示する）。 ③学びを深めるために 私たちの生活に企業の存在は欠かせない。アルバイトや日頃の生活から企業の存在を理解してほしい。		
	評価 出席(50%) + 試験(中間25% + 期末25%) で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 キャリア・デザインAおよびB（いずれも共通科目）、理論と実証双方から企業を対象とする学問全般。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学史 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 経済学がどのように成り立って来たのかを知ることは、経済学を理解するために役立つ。さらに、その理論がうみだされた歴史的背景を知ることによって、経済学が社会の問題と関わって発展してきたことを理解してほしい。	メッセージ テーマ毎、グループ・ワークなども取り入れながら知識の定着が進むような授業を展開予定です。
	到達目標 経済学の理論の背景にある考え方、さらに、その理論が生まれた時代や社会の状況を理解できる。	

学びの準備	到達目標 経済学の理論の背景にある考え方、さらに、その理論が生まれた時代や社会の状況を理解できる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	事前に教科書を読むこと
	2	イントロダクション～経済学史とは	事前に教科書を読むこと
	3	第1章 ジョン・ロック（前半）	事前に教科書を読むこと
	4	第1章 ジョン・ロック（後半）	事前に教科書を読むこと
	5	第2章 アダム・スミス1	事前に教科書を読むこと
	6	第2章 アダム・スミス2	事前に教科書を読むこと
	7	第2章 アダム・スミス3	事前に教科書を読むこと
	8	第3章 リカードとマルサス1	事前に教科書を読むこと
	9	第3章 リカードとマルサス2	事前に教科書を読むこと
	10	中間テスト	事前に教科書を読むこと
	11	第4章 カール・マルクス	事前に教科書を読むこと
	12	第5章 限界革命2	事前に教科書を読むこと
	13	第5章 限界革命2	事前に教科書を読むこと
	14	第6章 アルフレッド・マーシャル1	事前に教科書を読むこと
	15	第6章 アルフレッド・マーシャル2	事前に教科書を読むこと
16		事前に教科書を読むこと	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：江頭進『はじめての人のための経済学史』（経済学叢書Introductory)新世社，2015年。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。
-------	--

学びの実践	評価 期末試験50%，中間テスト20%，受講態度（ミニレポートの提出）30%。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済学史IIでは、この時代以降を扱う。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学史Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 経済学史Iに引き続き、経済学が経済学がどのように成り立って来たのかを学ぶ。さらに、その理論がうみだされた歴史的背景を知ること、経済学が社会の問題と関わって発展してきたことを理解してほしい。	メッセージ テーマ毎、グループ・ワークなども取り入れながら知識の定着が進むような授業を展開予定です。
	到達目標 経済学の理論の背景にある考え方、さらに、その理論が生まれた時代や社会の状況を理解できる。	

学びの準備	到達目標 経済学の理論の背景にある考え方、さらに、その理論が生まれた時代や社会の状況を理解できる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	事前に教科書を読むこと
	2	イントロダクション～古典派経済学まで	事前に教科書を読むこと
	3	第7章 ソーステイン・ヴェブレン1	事前に教科書を読むこと
	4	第7章 ソーステイン・ヴェブレン2	事前に教科書を読むこと
	5	第7章 ソーステイン・ヴェブレン3	事前に教科書を読むこと
	6	第8章 ジョン・メイナード・ケインズ1	事前に教科書を読むこと
	7	第8章 ジョン・メイナード・ケインズ2	事前に教科書を読むこと
	8	第8章 ジョン・メイナード・ケインズ3	事前に教科書を読むこと
	9	中間テスト	事前に教科書を読むこと
	10	第9章 フリードリッヒ・ハイエク1	事前に教科書を読むこと
	11	第9章 フリードリッヒ・ハイエク2	事前に教科書を読むこと
	12	第10章 ミルトン・フリードマン1	事前に教科書を読むこと
	13	第10章 ミルトン・フリードマン2	事前に教科書を読むこと
	14	第11章 ゲーム理論	事前に教科書を読むこと
15	総括	事前に教科書を読むこと	
16	期末試験	事前に教科書を読むこと	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト（必携）：江頭進『はじめての人のための経済学史』（経済学叢書Introductory)新世社，2015年。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 期末試験50%，中間テスト20%，受講態度（ミニレポートの提出）30%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学特別講義Ⅰ（経済理論及び政策）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-井本 伸	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 沖縄経済入門と同様でカリキュラム・ポリシー1の専門分野に進むための基礎知識を習得する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学入門	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史・経済学科専任教員	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	経済学の入門的な内容について学習する。経済学科の専門科目(専任)担当者全員がそれぞれの専門分野の入門的内容ををわかりやすく、かみ砕いて講義することにより、経済学とはどのような分野なのかを直感的に理解してもらいたい。多くの学生が経済学に関心を持てるようになることが本講義の目的である。	前期で学んだ「沖縄経済入門」をベースに日本経済を学び、授業で習得した知識を2年次ゼミで活かすことができる。

到達目標
1. 日本経済の現状を把握し、理解し説明することができる。 2. 日本経済が抱える様々な問題に対して、どのような取り組みが必要か授業をとおして述べるすることができる。 3. この授業で習得した知識を2年次ゼミで活かすことができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画、成績評価方法、その他について (浦本)	
	2	入門・ファイナンシャルプランニング (安藤)	
	3	入門・日本経済論 (湧上)	
	4	入門・経営学 (村上)	
	5	入門・創造産業と経済学 (浦本)	
	6	入門・労働経済学 (名嘉座)	
	7	入門・経済史 (梅井)	
	8	入門・計量経済学 (金城)	
	9	入門・産業組織論 (宮城)	
	10	入門・経済地理 (崎浜)	
	11	入門・国際経済 (新垣)	
	12	入門・企業分析 (安藤)	
	13	入門・社会保障論 (長島)	
	14	入門・地域経済 (平敷)	
15	入門・公共経済学 (比嘉)		
16	総括・テストまたはレポート (浦本)		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。担当者が授業に必要なテキスト配布する。
-------	---

学びの手立て	沖縄経済入門で習得した知識をベースに、日本経済、アジア経済、グローバル経済へと繋げる。
--------	---

評価	テストまたはレポートの成績、出席状況、その他を加味しつつ総合的に評価する。 受講生の頑張りを評価したい。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目はあくまでも基礎知識なので、2年次で学ぶマクロ経済、ミクロ経済などに繋げる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済史入門	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 経済の歴史，とりわけ，戦後日本経済の歴史を学ぶことで，経済学そのものの理解を促すことをねらいとする。	メッセージ テーマ毎，グループ・ワークなども取り入れながら知識の定着が進むような授業を展開予定です。
	到達目標 戦後の日本経済史を理解することから，経済に対する考えを深めることができるようになる。	

学びの準備	到達目標 戦後の日本経済史を理解することから，経済に対する考えを深めることができるようになる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方，評価方法等について	事前に教科書を読むこと
	2	イントロダクション：日本史の確認	事前に教科書を読むこと
	3	戦後経済の概要	事前に教科書を読むこと
	4	「豊かさ」と日本経済1	事前に教科書を読むこと
	5	「豊かさ」と日本経済2	事前に教科書を読むこと
	6	第二次大戦後の復興1	事前に教科書を読むこと
	7	第二次大戦後の復興2	事前に教科書を読むこと
	8	第二次大戦後の復興3	事前に教科書を読むこと
	9	中間テスト	事前に教科書を読むこと
	10	高度経済成長1	事前に教科書を読むこと
	11	高度経済成長2	事前に教科書を読むこと
	12	高度経済成長3	事前に教科書を読むこと
	13	経済大国としての日本1	事前に教科書を読むこと
	14	経済大国としての日本2	事前に教科書を読むこと
	15	経済大国としての日本3	事前に教科書を読むこと
16	期末試験	事前に教科書を読むこと	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：橋本寿朗『戦後の日本経済』（岩波新書）岩波書店，1995年。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては，退室を求めます。
-------	--

学びの実践	評価 期末試験50%，中間テスト30%，受講態度（コメント）20%。
-------	---------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

本講義では、①経済学の基礎的・専門的知識を学びつつ、②経済社会問題を考察し、③課題解決の視点を得ることを目的とします。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済社会学	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	1年	t.heshiki@okiu.ac.kp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代の社会問題を経済学的視点から考察し、どのような解を提示できるのか考える機会を提供します。講義前半では、資本主義の発展過程との中で生じてきた経済社会問題、それに対応する国家の姿を捉えます。講義後半では具体事例（貧困問題等）を取り上げながら、それらを解決するための経済学的な考え方とアプローチを学びます。	貧困や格差といった現代の経済社会問題に興味や関心、問題意識を持っている人に履修をお勧めします。具体事例を交えながら現代の福祉や社会保障のあり方、今後の展望について考えていきます。
到達目標	①現代資本主義国家の成り立ちについて学び、第二次大戦後の福祉国家の形成と変遷について理解する。 ②経済政策としての社会保障制度や福祉政策が果たしてきた役割や意義を理解する。 ③少子高齢化、貧困、労働問題といった現在日本が抱える問題に対し、課題設定し、解決方策について自らの考えを持つ。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、授業評価方法等について	シラバスを読む
	2	人間と社会と自然—経済と社会の関係	参考文献①、②を読む
	3	ポリティカル・エコノミーとは？	参考文献①、②を読む
	4	資本主義の生成と発展	参考文献③を読む
	5	資本主義と現代の国家①	参考文献③を読む
	6	資本主義と現代の国家②	参考文献③、④、⑤を読む
	7	福祉国家とその変容①	参考文献④、⑤を読む
	8	福祉国家とその変容②	参考文献④、⑤を読む
	9	講義前半のまとめ-資本主義の発展と福祉国家の登場	講義前半の振り返り
	10	日本型福祉国家とその特徴（※小テスト）	参考文献④を読む
	11	福祉国家の転換と展望-労働政策と社会保障制度	参考文献④を読む
	12	資本主義国家と労働政策の展開	参考文献①、②を読む
	13	日本の労働問題—派遣・非正規労働	参考文献④を読む
	14	日本の社会保障政策-雇用保険、生活保護制度	貧困・格差問題を調べる
15	講義後半のまとめ	講義後半の振り返り	
16	期末テスト	講義のまとめ	

テキスト・参考文献・資料など  
 テキストは特に指定せず、プリント・資料配布により講義を行います。事前・事後学習の助けとして以下の参考文献等を活用して下さい。他、必要に応じ講義中適宜提示します。  
 【参考文献・資料】①宇仁宏幸他「入門社会経済学【第2版】」ナカニシヤ出版、②若森章孝他著（2007）『入門・政治経済学』ミネルヴァ書房、③田代洋一他（2011）『現代の経済政策【第4版】』有斐閣ブックス、④林建久他（2004）『グローバル化と福祉国家財政の再編』東京大学出版会、⑤G. エスピン-アンデルセン（2001）『福祉資本主義の三つの世界-比較福祉国家の理論と動態』ミネルヴァ書房

学びの手立て  
 ○履修の心構え  
 講義時間中の私語、スマホ利用、遅刻などは厳禁です。毎回、出欠確認を行います。講義に関する質問や意見等を求めるため講義内容に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。  
 ○学びを深めるために  
 現代国家が抱える課題に関し、経済政策の理念と政策手段の変化を追っていきます。福祉国家論、社会保障に関する講義をあわせて履修することを勧めます。

評価  
 ○平常点 (15%) 小テスト (25%) 期末テスト (60%)  
 ※出席が3分の2に満たない場合は、期末テストの受験資格を失います。欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません（公欠を除く）。  
 ○平常点（フィードバックペーパー）により到達目標の③を評価、小テスト、期末テストにより到達目標の①、②、③を総合評価します。

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 本講義では、現代の労働問題と労働政策、福祉国家と財政、社会保障制度に関する問題を扱います。次の関連科目を履修し、理解を深めることを勧めます。  
 【関連科目と次のステージ】  
 経済政策総論Ⅰ、公共経済学、労働経済学Ⅰ・Ⅱ、財政学Ⅰ・Ⅱ、福祉国家論、社会保障論



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済情報処理 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	3年	keita.kinjo@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	現在では、パソコンを駆使しインターネットを自由自在に使うことで、様々の情報を集めたりすることが当たり前になってきている。本講義では、経済の調査・研究のため統計データの分析の基礎となる数学やデータの扱い方を学ぶ。	今日大量のデータが社会にあふれているなかで、そこからデータを収集して分析することは重要であると思います。統計学 I もしくは統計学 II などを履修していることが望ましいが履修していない場合でも簡単な統計の解説なども行いたいのでわからない場合は適宜、質問してください。		
学びの準備	到達目標			
	1. 統計に関連する数学を理解する 2. エクセルやRなどのソフトウェアの利用に慣れることができる			
学びの実践	学びのヒント	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)		
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計と数学</li> <li>2. 基本統計量</li> <li>3. 微積分の基礎 (1)</li> <li>4. 微積分の基礎 (2)</li> <li>5. 微積分の基礎 (3)</li> <li>6. 線形代数 (1)</li> <li>7. 線形代数 (2)</li> <li>8. 線形代数 (3)</li> <li>9. 線形代数 (4)</li> <li>10. 中間演習</li> <li>11. 線形代数プログラミング</li> <li>12. 線形代数プログラミング</li> <li>13. 確率論 (1)</li> <li>14. 確率論 (2)</li> <li>15. 確率論 (3)</li> <li>16. まとめ</li> </ol>		
		テキスト・参考文献・資料など 里村卓也, 金明哲 (編集) 「マーケティング・サイエンス」 共立出版 (2010) 椿広計 岩崎正和 「Rによる健康科学データの統計分析」 朝倉書店 (2013)		
		学びの手立て ・簡単な概説をしたあとに演習をして実際に計算を行うので、毎回出席することが重要。 ・またノート毎回を取ること		
学びの継続	評価	出席状況とレポート及び毎回の課題提出を総合的に評価する。全体の3分の1を欠席すると不可とします。		
	次のステージ・関連科目	数学 I や統計学 I で統計の基礎について学ぶので参考にするとよい。		

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済情報処理Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>現在では、パソコンを駆使しインターネットを自由自在に使うことで、様々な情報を集めたりすることが当たり前になってきている。本講義では、経済の調査・研究のためインターネットとコンピュータを活用してデータを加工・分析する方法を学ぶ。具体的には、回帰分析や分散分析、因子分析を学んだあとに、経済統計によく用いられる時系列分析などの方法について学ぶ。</p>	<p>今日大量のデータが社会にあふれているなかで、そこからデータを収集して分析することは重要であると思います。統計学Ⅰもしくは統計学Ⅱなどを履修していることが望ましいが履修していない場合でも簡単な統計の解説なども行いたいのでわからない場合は適宜、質問してください。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データをみずから収集できるようになる</li> <li>2. エクセルやRなどのソフトウェアの利用に慣れることができる</li> <li>3. 収集したデータをもとに統計分析（記述統計・推測統計の基礎）ができるようになる</li> </ol>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本統計量、ヒストグラム、相関係数の算出とRの導入</li> <li>2. 回帰分析（回帰モデルの考え方）</li> <li>3. 回帰分析（単回帰モデルと重回帰モデルの構築と推計）</li> <li>4. 分散分析Ⅰ（分散分析の考え方）</li> <li>5. 分散分析Ⅱ（1要因による分散分析と2要因による分散分析）</li> <li>6. 因子分析によるデータ解析（因子分析の考え方）</li> <li>7. 因子分析によるデータ解析（データを用いた推計）</li> <li>8. Rによる時系列データの扱い</li> <li>9. 時系列データを用いた回帰分析（考え方と推計）</li> <li>10. 定常時系列分析（時系列モデルの考え方と自己相関）</li> <li>11. 定常時系列分析（ARモデル、MAモデル、ARIMAモデル）</li> <li>12. 非定常時系列分析（ARCHモデルとGARCHモデル）</li> <li>13. 多変量時系列分析（VARモデル）</li> <li>14. 共分散分析（単位根と共和分）</li> <li>15. まとめとレポートの解説</li> <li>16. 質問</li> </ol>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に使用しない。その都度、資料等を配布する</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な概説をしたあとに演習をして実際に様々なデータの処理を行うので、毎回出席することが重要です。</li> <li>・実行中にエラーがでますが、なるべく自分で対応することで実力がつきます。それでも分からない場合は、質問してください。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>提出物（論文・レポートなど）、出席回数</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>経済情報処理Ⅰで上記のような分析以外の様々な統計学的手法を扱うので合わせて履修するとよい。また、計量経済学など経済により密接に関連する分野もあります。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済数学 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	1 年	keita.kinjo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、消費者や企業の意思決定など経済学の様々な場面で利用されている「最適化」について学びます。そのため基礎となる微分について復習を前半で行います。後半でこれらを用いて最適化問題を解いていきます。演習を通じて個別にフォローします。	メッセージ 微分積分などの基礎から、最適化までを扱います。高校数学を復習しておくとうい。
	到達目標 1. 微積分を理解する 2. 微積分を社会にどのように応用するかを理解する	

学びの準備	到達目標 1. 微積分を理解する 2. 微積分を社会にどのように応用するかを理解する

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1 導入 2 集合論・関数の復習 3 微分積分の復習 4 微分積分：微分と関数の極値 5 微分積分：関数の展開 6 微分積分：不定積分・定積分 7 微分積分：偏微分 8 微分積分：テーラーの公式と極値 9 微分積分：ベクトル微分と条件付き極値問題 10 中間テスト 11 最適化：目的関数、凸関数、凹関数 12 最適化：古典的方法 13 最適化：ラグランジュ未定乗数法 14 最適化：非線形計画法 15 動学最適化の紹介：まとめ 16 レポート
	テキスト・参考文献・資料など A. C. チャン, K. ウェインライト「現代経済学の数学基礎<上><下>」シーエーピー出版; 第4版 西村清彦「経済学のための最適化理論入門」東京大学出版会

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など A. C. チャン, K. ウェインライト「現代経済学の数学基礎<上><下>」シーエーピー出版; 第4版 西村清彦「経済学のための最適化理論入門」東京大学出版会
	学びの手立て ・ 毎回板書をするので、それを各自ノートを記載してください。 ・ 毎回、そのノートに課題をやってもらい、最終的にその課題をチェックします。

学びの実践	学びの手立て ・ 毎回板書をするので、それを各自ノートを記載してください。 ・ 毎回、そのノートに課題をやってもらい、最終的にその課題をチェックします。
	評価 平常点としてノートのチェックをします。(50%) また、途中で行う課題・テストによって判定します。(50%)

学びの継続	評価 平常点としてノートのチェックをします。(50%) また、途中で行う課題・テストによって判定します。(50%)
	次のステージ・関連科目 経済数学 2 が続きの科目になります

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済数学 2 が続きの科目になります
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済数学Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	1年	keita.kinjo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、今日の経済学を考えるうえでは欠かせない、個人の意思決定の理論および、複数の個人・企業の意思決定の理論としてゲーム理論の数理を学びます。それぞれ問題や事例を取り上げて説明していきます。</p>	<p>数学的に難しいことはあまり扱わないので、適宜わからないことがあれば質問してください</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意志決定に関する数理について理解する</li> <li>2. ゲーム理論の基礎について理解する</li> </ol>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 導入</li> <li>2 意思決定：バイアス</li> <li>3 意思決定：確率と統計</li> <li>4 意思決定：リスク下の意思決定</li> <li>5 意思決定：不確実性下の意思決定</li> <li>6 意思決定：幸福感</li> <li>7 中間テスト</li> <li>8 ゲーム理論：ゲーム理論とは</li> <li>9 ゲーム理論：非協力ゲーム・戦略形ゲーム</li> <li>10 ゲーム理論：非協力ゲーム・ナッシュ均衡</li> <li>11 ゲーム理論：非協力ゲーム・展開ゲーム</li> <li>12 ゲーム理論：非協力ゲーム・チェーンストアパラドックス、繰り返しゲーム</li> <li>13 ゲーム理論：不完全情報ゲーム</li> <li>14 ゲーム理論：協力ゲーム</li> <li>15 ゲーム理論：その他のトピックス. まとめ</li> <li>16 最終レポート</li> </ol>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>武藤滋夫「ゲーム理論入門」日経新聞社</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回板書をするので、それを各自ノートに記載してください。</li> <li>・毎回、そのノートに課題をやってもらい、最終的にその課題をチェックします。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>平常点としてノートのチェックをします。(50%) また、途中で行う課題・テストによって判定します。(50%)</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ミクロ経済学、マクロ経済学、理論経済学などに関連します</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 経済現象を科学的に分析し、社会の動きを論理的に読み解く能力を養う。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済政策総論Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	3年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、「成長」、「安定」、「分配」をキーワードに、政府が実施する経済政策の理論的根拠を学びつつ、実際の経済政策の効果を検証する。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 現実の経済社会の動きを経済学の理論を使って説明できる能力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義の進め方、本講義のキーワード、講義アンケート -	
	2	日本経済概観 - データでみる日本経済、地域経済 -	経済統計に関する予習
	3	幸福と経済 - GDPと幸福度、経済力と人間開発指数、国民総幸福量のはなし -	経済統計に関する予習
	4	経済政策の目標 - 経済政策を動かす主役、経済政策の3つの柱 -	経済理論の復習
	5	成長政策① - 成長政策の基本的な考え方：資本、労働、技術 -	参考文献の精読
	6	成長政策② - 市場の機能、競争政策、市場の失敗への対応 -	参考文献の精読
	7	安定化政策① - 安定化政策の基本的な考え方：財政政策と金融政策 -	参考文献の精読
	8	安定化政策② - 財政政策：有効需要の原理、財政再建と経済成長 -	参考文献の精読
9	安定化政策③ - 金融政策：中央銀行の役割 -	参考文献の精読	
10	再分配政策① - 再分配政策の基本的な考え方：自由主義とパターナリズム -	参考文献の精読	
11	再分配政策② - セーフティネットとしての再分配政策、わが国の社会保障制度の課題 -	参考文献の精読	
12	再分配政策③ - わが国の再分配政策：諸外国との比較（所得格差、社会保障負担等） -	参考文献の精読	
13	地域経済と政策① - 地域政策の目的、国と地方の財政関係、公共投資と地域経済 -	地域経済に関する文献の精読	
14	地域経済と政策② - 沖縄の振興開発と中央政府の地域政策 -	沖縄経済に関する文献の精読	
15	本講義のまとめ、期末テスト説明		
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜レジュメ（パワーポイント資料）を配布する。 井堀利宏（2003）『経済政策』新世社 飯田泰之（2010）『ゼロから学ぶ経済政策』角川書店		
	学びの手立て 日頃から経済新聞等に目を通しておくこと。		
	評価 期末テスト（60%）、レポート（20%）、小テスト（10%）、講義態度（10%）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済政策総論Ⅰ、公共経済学、財政学
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済地理 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1 年	sakhma@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済地理学は、人文地理学の一部門であり、経済現象の地理的配置を説明し、経済地域的な成立・構造・機能を究明することを目的としている。経済地理 I では、古典的な経済立地に関する諸理論の概要を通して、経済地理学の研究方法与視角、さらに諸産業（農業・工業）などの立地特性について検討する。	メッセージ ・経済地理学の理論と実際について、わかりやすく講義します。
	到達目標 ・経済立地論の基本的概念を理解する。 ・世界・日本における経済立地の特性を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  1. ガイダンス 2. 農業立地の理論 3. 農業立地論①－チューネンの農業立地論－ 4. 農業立地論②－チューネンモデルの事例－ 5. 農業立地論③－現代日本の農業立地－ 6. 沖縄県の農業 7. 沖縄県離島部の農業立地 8. 工業立地論①－ウェーバーの工業立地論－ 9. 工業立地論②－ウェーバー理論の実際－ 10. 工業立地論③－ウェーバー以後の工業立地論－ 11. 工業立地論④－日本の工業地域－ 12. 工業の立地政策①－日本の工業立地の現状－ 13. 工業の立地政策②－ヨーロッパ・北アメリカ各国の工業政策－ 14. 工業の立地政策③－中国、東南アジア各国の工業政策－ 15. 農業立地論・工業立地論による空間構造の把握 16. 試験
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ・特に指定はない。適宜レジュメを配布する。 【参考文献】 ・富田和暁(1996) 『地域と産業－経済地理学の基礎－』大明堂。 ・ディビット・グリッグ(山本正三ほか訳)：『農業地理学入門』原書房。
	学びの手立て ・出席確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず欠席・遅刻する場合は事前にメールなどで連絡すること。 ・講義中に課題を出す機会が多くあるので、時間内で提出すること。
	評価 ・定期テスト (50点) ・平常点：講義中の課題の提出・発表 (50点) (出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる)

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済地理学の基本的概念を理解して、応用的科目の経済地理 II へ繋げる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済地理Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>経済地理学は、人文地理学の一部門であり、経済現象の地理的配置を説明し、経済地域的な成立・構造・機能を究明することは目的としている。経済地理Ⅱでは、中心地理論とオフィスの立地を中心とする都市・商業空間の編成過程を検討する。さらに、近年の観光地形成に関わる問題点を比較考察し、沖縄の観光地の特性を検討したい。</p>	<p>経済地理学の理論と実際について、現代的な課題を挙げながら講義します。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市・商業を中心とする経済立地論の特性を理解する。</li> <li>・世界・日本における経済立地の諸問題を理解し、自分の言葉で説明できる。</li> </ul>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人文地理学・経済地理学の概要</li> <li>2. 中心地の立地理論①－クリスタラーの中心地研究－</li> <li>3. 中心地の立地理論②－中心地理論に関する実証的研究－</li> <li>4. 中心地の立地理論③－商業・サービス業の立地と中心地理論－</li> <li>5. 中心地の立地理論④－オフィス立地の理論と実際－</li> <li>6. 企業の立地戦略①－立地選択－</li> <li>7. 企業の立地戦略②－立地適応－</li> <li>8. 企業の立地戦略③－立地創造－</li> <li>9. 企業の立地戦略④－産業集積と立地－</li> <li>10. 企業の立地戦略⑤－立地ウォーズ－</li> <li>11. 観光産業と地域①－世界の観光地域－</li> <li>12. 観光産業と地域②－ヨーロッパ地域の観光地域－</li> <li>13. 観光産業と地域③－日本の観光地域－</li> <li>14. 観光産業と地域④－沖縄県の観光－</li> <li>15. 観光産業と地域⑤－沖縄県島嶼部の観光－</li> <li>16. 試験</li> </ol>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に指定はない。適宜レジュメを配布する。</li> </ul> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富田和暁（1996）『地域と産業－経済地理学の基礎－』大明堂。</li> <li>・川端基夫（2008）『立地ウォーズ 企業・地域の成長戦略と「場所のチカラ」』新評論。</li> </ul>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず欠席・遅刻する場合は事前にメールなどで連絡すること。</li> <li>・講義中に課題を出すことも多くあるので、時間内で提出すること。</li> </ul>
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト（50点）</li> <li>・平常点：講義中における課題の提出と発表（50点）（出席状況については、無断欠席が5回以上の場合は「不可」となる）</li> </ul>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の経済学の理論と地理学における社会経済分析をつなぐ視点を身につける。</li> </ul>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済データ	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	1年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、調査・研究のための経済データの見方、扱い方について学ぶことを目的とする。調査研究は、知りたい事柄を明らかにするために調べることであり、そのために必要となる情報を収集し、体系的に整理することである。したがって、経済データを分析するためには、調査の目的を明確にし、必要に応じたデータを集め、データの背後にある要因について考察することが大切である。</p>	<p>統計に関する知識は必要としないが、経済・社会の問題に対し、常に興味を持ち、客観的なデータで実証する姿勢を習得して欲しい。</p>
到達目標	経済分析のためのデータ収集及びその解釈が体系的にできるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	経済分析の目的	どのような経済分析があるのか
	3	経済分析における問題意識、問題形成	経済分析とは何か考える
	4	様々な経済データ	様々な経済データを拾う
	5	データ処理Ⅰ（平均、最大、最小、分散について）	講義で示された課題を解く
	6	データ処理Ⅱ（年平均伸び率、構成比の計算など）	同上
	7	経済財政白書など白書を用いたデータ分析	同上
	8	マクロ経済データ分析Ⅰ（GNPなど）	同上
	9	マクロ経済データ分析Ⅱ（各国比較、貧しい国と豊かな国）	同上
	10	県民所得のデータ分析（都道府県比較、沖縄は貧しい県か？）	同上
	11	所得格差関連のデータ（学力格差と所得格差の関係 沖縄の学力が低いのはなぜ？）	同上
	12	簡単な相関分析Ⅰ（相関関係とは）	同上
	13	簡単な相関分析Ⅱ（アイスクリームの売り上げと気温は関係あるか）	同上
14	市町村の社会経済データⅠ（人口、市町村民所得、産業構造）	同上	
15	市町村の社会経済データⅡ（社会指標など）	同上	
16	テーマ分析とレポート提出要領	レポートの作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 特になし。その都度演習用の素材は提供する。		
	学びの手立て 毎回、出席をとるので、やむを得ず欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。 基本的にエクセルを使って講義を進めるので、基礎的な操作ができることが前提である。		
	評価 出席状況と毎回の課題提出、レポートを総合的に評価する。 出席及び課題提出・・・50% レポート・・・50% 全体の3分の1を欠席すると不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門科目においてデータ収集が必要な場合、仮説を設定し、体系的に分析する。
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	公共経済学	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	3年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 市場の失敗を是正するための政府の役割について学ぶ。政府の経済活動を分析する学問として、他に財政学や経済政策論があるが、本講義は「政治の経済分析」や「政府による規制」等のトピックを扱うという点で、両科目とは講義内容が異なる。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 市場における政府の役割を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション - 講義の進め方、日常生活と公共部門、講義アンケート -
	2	公共経済学とは何か - 市場と政府 (概論) -
	3	市場メカニズムのはなし① - 需要と供給、市場経済の効率性 -
	4	市場メカニズムのはなし② - 市場の失敗と政府の失敗 -
	5	公共財① - 公共財の概念、「ただ乗り」の問題、「ただ乗り」問題の対策 -
	6	公共財② - 公共財の最適供給、地方公共財 -
	7	選挙と投票行動① - 中位投票者定理、投票のパラドックス -
	8	選挙と投票行動② - 有権者の政治行動 -
学びの実践	9	政党と政策・官僚行動 - 政党の政権獲得行動、官僚の予算獲得最大化行動 -
	10	政府による規制 - 参入規制とレント、価格規制がもたらす弊害 -
	11	外部性 - 外部性とは何か、外部経済と外部不経済、コースの定理 -
	12	公共政策の評価 - 政策評価の必要性、政策評価手法の紹介 -
	13	わが国における公共部門の諸課題① - 課税、年金、財政赤字等 -
	14	わが国における公共部門の諸課題② - 地方公共団体の課題～沖縄県のケース～
	15	本講義の総括、期末テスト説明
	16	期末テスト
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜レジュメ (パワーポイント資料) を配布する。 井堀利宏 (2000) 『基礎コース公共経済学』新世社 上村敏之 (2011) 『公共経済学入門』新世社	
	学びの手立て 公共経済学・財政学・経済政策に関する文献に目を通しておくこと。	
	評価 期末テスト (70%)、小テスト (20%)、講義態度 (10%) で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 財政学、経済政策総論Ⅱ、地方財政論
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済論 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-当銘 学	3年	関連科目として、「情報処理概論」があげられる。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国境を越えたさまざまな経済活動、すなわち貿易・資金移動・国際投資・人の移動・多国籍企業などの動向を、貿易理論・為替変動メカニズム・国際収支・直接投資理論の枠組みの中で捉えることで理解を深め、日本経済ならびに国際経済の直面する課題を考察する。</p>	<p>まず国際経済の枠組み(国際貿易体制・国際金融制度)の変遷の大きな流れを理解し、為替・株価格・石油価格等の変動とそれに伴う対外直接投資で国境を超える多国籍企業の戦略と動向を理論的枠組み中でその根拠と要因の分析を通じて国際経済の直面する課題を理解していく講義内容となりますが、できるだけ初学者にも理解できる平易な言葉で解説・説明します。</p>
到達目標	<p>国際的な経済現象を理解できるようになる。具体的には、経済新聞に掲載されている為替変動の経済指標の動向に関連する経済解説記事をはじめ、その為替変動に伴って採用される多国籍企業の戦略・活動の動向、そして政府の対応政策などのある程度理解できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・国際経済はいま	時事経済問題に関心をもつ
	2	グローバル経済と日本	テキスト第1章の1節の予習
	3	グローバル化と日本経済構造	同上
	4	世界経済の潮流	同上
	5	戦後の国際経済体制	テキスト第1章の2節の予習
	6	固定相場制から変動相場制へ	同上・参考文献②の第8章
	7	1980年代以降の世界経済	テキスト第1章の2節の予習
	8	為替レートと日本経済	テキスト第2章の第1節の予習
	9	為替レートの変動メカニズム	同上・参考文献①の第2章
	10	外国為替市場と為替レート	テキスト第2章の2節の予習
	11	為替リスクとヘッジング・為替投機	同上・参考文献③の第13章
	12	外国為替市場への介入	テキスト第2章の2節の予習
	13	購買力平価説・アセット・アプローチ	テキスト第2章の3節の予習
	14	ファンダメンタルズ	同上
15	固定相場制	テキスト第2章の4節の予習	
16	総括、期末テスト		

テキスト・参考文献・資料など

テキストは「ゼミナール国際経済入門」伊藤元重(著)日本経済新聞社を使用します。時間外学習の際の自主学習のための参考文献として以下を推薦する。①「私たちの国際経済」東京経済大学国際経済グループ(著)有斐閣ブックス②「初めての国際経済」、浦田秀二郎・小川英治・澤田奉行(著)有斐閣アルマ③「コア・テキスト国際経済学」大川昌幸(著)新世社。

学びの手立て

履修のための留意点を以下に挙げる。①毎回、出欠確認をとります。不可抗力の理由等があれば必ず欠席届を提出すること。②講義に遅れた場合は、教室前方の入り口から入室すること③理解度を確認するためにテキストの各章の各節ごとの小テストを行います。テキストは平易な日本語で執筆されているため各自で予習をすること。④講義は基本的にはテキストに沿って進めますが、理論の解説においては補足的に以下に挙げた参考文献に掲載された理論モデルの説明を行う場合があります。⑤経済学科以外の初学者でも理解できるよう、抽象的な経済用語や理論をできるだけ平易な言葉で説明・解説に努めますが、受講生には私たちの生活に影響を与える経済時事問題に関心を持ち、そして関連する新聞記事を読むことを強く要望します。⑥テキストは購入すること。

評価

小テスト(計5回)・期末テスト. . . . . 計70%  
 平常点. . . 計30% 講義中の態度や積極性。例えば、質問に答えると適宜加点する。

次のステージ・関連科目

日本経済への影響要因となりえる国際経済の変動を理論的な枠組みの中で把握し、将来起こりうる課題を分析する。経済基礎理論の習得のための、「経済学入門」、「経済学I・II」、「ミクロ経済学I・II」、「マクロ経済学I・II」、関連科目としては、「貿易実務I・II」、「証券市場論I・II」、「金融論I・II」。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済論Ⅱ	後期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-当銘 学	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国境を越えたさまざまな経済活動、すなわち貿易・資金移動・国際投資・人の移動・多国籍企業などの動向を、貿易理論・為替変動メカニズム・国際収支・直接投資理論の枠組みの中で捉えることで理解を深め、日本経済ならびに国際経済の直面する課題を考察する。</p>	<p>国際経済の枠組み(国際貿易体制・国際金融制度)の変遷の大きな流れを理解し、経常収支・為替等の変動、対外直接投資に伴う国境を超える多国籍企業の動向を理論的枠組みの中でその根拠と要因の分析を通じて国際経済の直面する課題を理解していく講義内容となりますが、できるだけ初学者にも理解できる平易な言葉で解説・説明します。</p>
到達目標	<p>国際的な経済現象を大まかに理解できるようになる。具体的には、経済新聞に掲載されている為替変動・原油価格等の経済指標の動向に関連する経済解説記事をはじめ、貿易・資本移動等の国際経済における日本経済の動向を映す国際収支統計の数値変動等を、大まかではあるがある程度理解できるようになる。さらには、これまでの貿易体制から通商問題(TPP)等などの国際社会が直面する課題も理解できるようになるでしょう。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・前期のReviewと国際経済はいま	時事経済問題に関心をもつ
	2	国際化するマクロ経済問題	テキスト第3章の1節の予習
	3	国際収支とはなにか	テキスト第3章の2節の予習
	4	国際マクロ経済学	テキスト第3章の3節の予習
	5	開放経済のマクロ経済政策	同上・参考文献③の第16章
	6	拡大する国際金融取引	テキスト第4章の1節の予習
	7	資本移動のメカニズム	同上・参考文献③の第9章
	8	累積債務問題	テキスト第4章の4節の予習
	9	貿易の基礎理論	テキスト第5章の2節の予習
	10	同上	同上・参考文献③の第2章～第5章
	11	産業内貿易の理論	テキスト第5章の3節の予習
	12	通商問題の変貌とWTO体制の機能と課題	テキスト第6章の1節・6節の予習
	13	貿易政策の基礎理論	テキスト第6章の7節の予習
	14	同上	同上・参考文献③の第7章
15	直接投資の理論と直接投資のインパクト	テキスト第7章の2節・3節の予習	
16	総括と期末テスト	参考文献②の第4章の3節	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは「ゼミナール国際経済入門」伊藤元重(著)日本経済新聞社を使用します。時間外学習の際の自主学習のための参考文献として、以下を推薦する。①「私たちの国際経済」東京経済大学経済グループ(著)有斐閣ブックス②「初めての国際経済」浦田秀四郎・小川英治・澤田奉康幸(著)有斐閣アルマ③「コア・テキスト国際経済学」大川昌幸(著)新世社。

学びの手立て

履修のための留意点を以下に挙げる。①毎回、出欠確認をとります。不可抗力の理由等があれば必ず欠席届を提出すること。②講義に遅れた場合は、教室前方の入り口から入室すること③理解度を確認するためにテキストのほぼ各章ごとの小テストを行います。テキストは平易な日本語で執筆されているため各自で予習をすること。④講義は基本的にはテキストに沿って進めますが、理論の解説においては補足的に以下に挙げた参考文献に掲載された理論モデルの説明を行う場合があります。⑤経済学部以外の初学者でも理解できるよう、抽象的な経済用語や理論をできるだけ平易な言葉で説明・解説に努めますが、受講生には私たちの生活に影響を与える経済時事問題に関心を持ち、そして関連する新聞記事を読むことを強く要望します。⑥テキストは購入すること。

評価

小テスト(計5回)・期末テスト.....計70%  
 平常点...計30% 講義中の態度や積極性。例えば、質問に答えると適宜加点する。

次のステージ・関連科目

関連科目としては、経済基礎理論の習得のための「経済学入門」、「経済学I・II」、「ミクロ経済学I・II」、「マクロ経済学I・II」。関連科目としては、「応用マクロ経済学」、「貿易実務I・II」、「証券市場論I・II」、「金融論I・II」。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業政策論	後期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	2年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	戦後、わが国では、特定産業に対する「税制面の優遇措置」や輸入制限による「国内産業保護政策」等の産業政策が行われてきた。本講義では、こうした産業政策について歴史的な考察を行うとともに、電力産業、航空産業等の個別産業政策の事例を取り上げながら、わが国の産業政策の特徴を学ぶ。	経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
到達目標	①産業政策の意義を理解する ②わが国の産業政策の歴史を理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義の進め方、関連講義の紹介と本講義の位置付け、講義アンケート -	
	2	日本経済概観 - データでみる日本経済～諸外国との比較から -	日本経済論に関する文献の精読
	3	産業政策とは何か - 産業政策の定義、なぜ産業政策が必要なのか、市場の失敗と政府の失敗 -	経済理論の復習
	4	産業政策の理論と戦略① - 幼稚産業保護論、動学的規模の経済 -	経済理論の復習
	5	産業政策の理論と戦略② - 輸出ペシミズム論、輸入代替、「外向き」の開発戦略 -	開発理論に関する文献の精読
	6	戦後日本の産業政策① - 復興期 -	参考文献の精読
	7	戦後日本の産業政策② - 高度成長期、安定成長期 -	参考文献の精読
	8	戦後日本の産業政策③ - バブル経済の崩壊、21世紀の産業政策 -	参考文献の精読
	9	個別産業政策の事例① - 電力産業 -	電力産業に関する文献の収集
	10	個別産業政策の事例② - 航空産業 -	航空産業に関する文献の収集
	11	個別産業政策の事例③ - 自動車産業 -	自動車産業に関する文献の収集
	12	地域産業政策① - 地域産業政策とは何か、わが国の地域産業の現状 -	地域産業論に関する文献の精読
	13	地域産業政策② - 国土の均衡発展と地域産業、産業の立地と地域経済 -	地域産業論に関する文献の精読
14	地域産業政策③ - 沖縄における地域産業政策 -	沖縄経済に関する文献の精読	
15	本講義のまとめ、期末テスト説明		
16	期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜レジュメ（パワーポイント資料）を配布する。 三菱総合研究所（2006）『日本産業読本』東洋経済新報社 香西泰（2001）『高度成長の時代』日本経済新聞社		
学びの手立て	日頃から経済新聞等に目を通しておくこと。		
評価	期末テスト（70%）、小テスト（20%）、講義態度（10%）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済政策総論Ⅱ
-------	------------------------

※ポリシーとの関連性

産業組織論は世界、日本および地域の経済や産業の現状と発展を考える上で理論と考えるための考える力を与えてくれます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 産業組織論 I	期別 集中	曜日・時限 集中	単位 2
	担当者 -宮平 栄治	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ s.miyahira@meio-u.ac.jp	

学びの準備	ねらい 産業組織論 I では、カルテルや独占企業などの競争市場の弊害の対策や理論化から誕生しています。そのため現実志向的で政策思考的な学問分野です。理論面では、ミクロ経済学、計量経済学やゲーム理論の知識を利用して産業組織や企業行動を分析します。産業組織論 I では、産業組織論の誕生の背景や古典的産業組織論について学びます。	メッセージ 一国の産業は、普遍的ではなく、変化します。産業の動きを理解するためには『日本経済新聞』や『日経ビジネス』などの購読を勧めます。
	到達目標 産業組織論 I は、産業構造の枠組みとミクロ経済学で学んだ独占・寡占理論の応用分野です。到達目標としては、産業構造の枠組みの理解、独占・寡占理論の復習と理解、その後、独占・寡占理論を産業組織論へと援用し、企業活動を産業構造の変化の分析を到達目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	産業組織論とは	参考文献の該当箇所の予習
	2	古典的産業組織論の成立とSCPパラダイム	参考文献の該当箇所の予習
3	SCPパラダイムへのシカゴ学派の批判	参考文献の該当箇所の予習	
4	新産業組織論への発展	参考文献の該当箇所の予習	
5	完全競争市場	ミクロ経済学の完全競争理論の復習	
6	不完全競争市場	不完全競争理論の復習	
7	消費者行動	合理的消費者の復習	
8	費用と企業行動	ミクロ経済学の企業の復習	
9	経済厚生	厚生経済学の予習	
10	独占企業の価格設定と非効率性	独占企業の復習	
11	価格差別化の手段と効果	線形的価格線とMR線の復習	
12	市場分割による価格差別	線形的価格線とMR線の復習	
13	二部料金制度	線形的価格線とMR線の復習	
14	自然独占	費用低減産業の復習	
15	公正報酬率規制とアバーチ・ジョンソン効果	参考文献の該当箇所の予習	
16	最終レポート作成	講義ノートの復習	
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献 泉田成美・柳川隆著『プラティカル 産業組織論』、有斐閣、2011年 長岡貞男・平尾由紀子著『産業組織の経済学-第2版-』、日本評論社 青木昌彦・伊丹敬之著『企業の経済学』、岩波書店、1985年		
	学びの手立て 産業組織論は、私たちの周りの産業を理論化しています。例えば、学割料金があるのはなぜか、なぜ、同じ業種がある一定の場所に集まるのか、ある会社が料金を引き上げたら、なぜ、他社も料金を引き上げるかなどです。このように、私たちの暮らしの中にある産業のふとした疑問を感じてくれたならば産業組織論は面白くなります。		
	評価 授業終了後に提出するフィードバックペーパー50% 最終レポート50% フィードバックペーパーとは、講義終了後に学んだ知識を振り返るシートです。理解度が深まったかどうかを記入することで確認出来ます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 産業組織論 II では、産業組織論 I で学んだ知識を産業政策や中小企業政策へと展開します。経済政策関連科目を受講すると学びが深化します。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業組織論Ⅱ	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮平 栄治	3年	s.miyahira@meio-u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	、産業組織論Ⅰで学んだ古典的産業組織論を基礎に、現実面と政策面を学びます。具体的には、独占の形成と弊害、カルテルの形成と弊害、独占禁止法などの時代背景、理論、成果を学びます。	電気料金などの公共料金が、なぜ、政府の許可制になっているかなど身近な例を取り上げ、初学者でも産業組織が分かる講義を行います。
到達目標	産業組織Ⅱの到達目標は、私たちの周りには、競争が行われるよう様々な規制や誘因が行われています。これらの規制や誘因が、なぜ行われているのかを知り、理解することです。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	インセンティブ規制	参考文献の関連箇所の予習
	2	参入の経済効果	固定費の復習
	3	コンテストブル市場理論 その1	参考文献の関連箇所の予習
	4	コンテストブル市場理論 その2	参考文献の関連箇所の予習
	5	参入規制と規制緩和の根拠	参考文献の関連箇所の予習
	6	参入規制の経済効果と規制緩和の効果	参考文献の関連箇所の予習
	7	ゲーム理論の基礎	ミクロ経済学の復習
	8	ナッシュ均衡	ミクロ経済学の復習
	9	製品差別化財のベルトラン競争	製品差別化の復習
	10	カルテル	不完全競争理論の復習
	11	市場支配力と測定	参考文献の関連箇所の予習
	12	合併と企業結合規制	参考文献の関連箇所の予習
	13	競争と防御	取引関係の予習
14	戦略的行動と市場の独占化	企業目的の予習	
15	垂直的統合と制限	取引費用の予習	
16	最終レポート	講義ノートの復習	
テキスト・参考文献・資料など	参考文献 泉田成美・柳川隆著『プラティカル 産業組織論』、有斐閣、2011年 ポール・ミルグロム／ジョン・ロバーツ著、奥野他訳『組織の経済学』、NTT出版、1997年 M.E. ポーター著、土岐・中辻・小野寺訳『競争優位の戦略』、ダイヤモンド社、1985年		
学びの手立て	予習や復習を行い、疑問点があれば、気軽に質問して下さい。産業組織に関するトピックスを紹介し、産業組織論との関連を説明する場合があります。そのため、シラバス通り進まない場合もあります。予めご了承下さい。		
評価	受業終了後に提出するフィードバックペーパー50% 最終レポート50% フィードバックペーパーとは、講義終了後に学んだ知識を振り返るシートです。理解度が深まったかどうかを記入することで確認出来ます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 産業組織論Ⅱを学んだ後は、通商産業省が行う産業政策や中小企業政策、公正取引委員会が行う競争政策や競争法などの応用部門を学んで見て下さい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①基礎的・専門的知識の習得 ②現状を分析する力 ③問題解決策を提言する力

[ / ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	財政学 I	前期	木 1	0
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	長嶋 佐央里	3年	オフィスアワー：木曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	私たちの日々の生活は政府の活動によって支えられています。その活動領域は経済の発展とともに、量的にも質的にも大きく変化しており、近年では年金などの社会保障分野で多くの批判にさらされています。この授業では、私たちが直面している経済社会の課題に対し、財政が果たすべき役割と機能を考える力を養い、財政における課題と解決策について自分なりに提言できるようにします。	授業では、社会の基礎をなす組織・制度・慣習を分析の中心に据えて、財政に関する原理原則・制度・政策について取り上げます。予備知識ゼロの学生にも理解できるように分かりやすく説明し、財政に係わる事象に関心が持てるようにします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 財政学の専門用語や基礎的な理論を理解することができる。</li> <li>2. 日本や諸外国の財政に関する現象を発見し、客観的かつ多面的に分析することができる。</li> <li>3. 日本や諸外国の財政の問題点を明らかにし、その問題点を多面的に検討し、自身の考えを述べることができる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：財政を学ぶ視点	シラバスを読む
	2	国民経済と財政：財政とは何か・市場社会における財政の役割は何か	事後：「考えてみよう」を解く
	3	財政の機能：財政はどのような機能をもつのか	事後：「考えてみよう」を解く
	4	現代財政の特質：財政の特質は何か・日本財政の特徴は何か	事後：「考えてみよう」を解く
	5	予算制度①：予算とは何か・予算は憲法、法律でどのように規定されているのか	事後：「考えてみよう」を解く
	6	予算制度②：財政をコントロールする予算原則とは何か・予算はどのような機能をもつのか	事後：「考えてみよう」を解く
	7	予算制度③：予算はどのように決定され、執行されるのか	事後：「考えてみよう」を解く
8	経費：政府が提供する財・サービスはどのように定義できるのか	事後：「考えてみよう」を解く	
9	租税の意義と原則：租税はなぜ必要なのか・租税の基本的な原則はどのようなものか	事後：「考えてみよう」を解く	
10	租税の分類と体系：租税はどのように分類できるのか・租税は最終的に誰が負担するのか	事後：「考えてみよう」を解く	
11	租税制度①：所得税はどのようなしくみか(1)	事後：「考えてみよう」を解く	
12	租税制度②：所得税はどのようなしくみか(2)	事後：「考えてみよう」を解く	
13	租税制度③：法人税はどのようなしくみか	事後：「考えてみよう」を解く	
14	租税制度④：消費税はどのようなしくみか	事後：「考えてみよう」を解く	
15	復習・総括	事後：前期の内容の復習・総括	
16	期末試験	事前：期末試験の準備	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回資料を配付します。テキストは特に指定しません。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神野直彦. 2007年. 『財政学』改訂版. 有斐閣.</li> <li>・重森暁・鶴田廣巳・植田和弘編. 2009年. 『Basic現代財政学』第3版. 有斐閣.</li> <li>・池上岳彦編. 2015年. 『現代財政を学ぶ』有斐閣.</li> <li>・『図説日本の財政』最新版. 東洋経済新報社.</li> </ul>	
	学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業回数3分の2の出席に満たない者、期末試験を受けない者は単位を修得することはできません。</li> <li>・ミクロ経済学・マクロ経済学を履修済みもしくは履修中であることが望ましいです。</li> </ul> <p>【学びを深めるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本や諸外国の国・地方の財政問題に関心を持ってほしいと思います。</li> <li>・理解を深めるために、また自身の考えをまとめるために、事後学習として、配布資料の最後にある「考えてみよう」を解いてください。</li> </ul>	
	評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業回数3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。</li> <li>・授業内小テスト、授業のふり返り等の授業での「平常点」30%、「課題レポート」20%、「期末試験」50%で評価します。</li> <li>・「平常点」「課題レポート」「期末試験」のそれぞれにおいて、すべての到達目標を確認します。</li> </ul>	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>次の関連科目を履修して、現在の財政の理解を深め、課題を見出し、解決策を考えてください。</p> <p>【関連科目】・財政学Ⅱ・公共経済学・福祉国家論・地方財政論Ⅰ・地方財政論Ⅱ</p>

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①基礎的・専門的知識の習得 ②現状を分析する力 ③問題解決策を提言する力

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 財政学Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 金 1	単位 2
	担当者 長嶋 佐央里	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ オフィスアワー：木曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 私たちの日々の生活は政府の活動によって支えられています。その活動領域は経済の発展とともに、量的にも質的にも大きく変化しており、近年では年金などの社会保障分野で多くの批判にさらされています。この授業では、私たちが直面している経済社会の課題に対し、財政が果たすべき役割と機能を考える力を養い、財政における課題と解決策について自分なりに提言できるようにします。	メッセージ 授業では、社会の基礎をなす組織・制度・慣習を分析の中心に据えて、財政に関する原理原則・制度・政策について取り上げます。予備知識ゼロの学生にも理解できるように分かりやすく説明し、財政に係わる事象に関心が持てるようにします。
	到達目標 1. 財政学の専門用語や基礎的な理論を理解することができる。 2. 日本や諸外国の財政に関する現象を発見し、客観的かつ多面的に分析することができる。 3. 日本や諸外国の財政の問題点を明らかにし、その問題点を多面的に検討し、自身の考えを述べるることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：財政を学ぶ視点・財政学Ⅰとの関連	シラバスを読む
	2	公債①：公債とは何か・公債負担の考え方の違いは何か・公債管理はどのように行われているか	事後：「考えてみよう」を解く
	3	公債②：日本の公債制度はどのようなものか・日本の財政の持続可能性をどのように考えるか	事後：「考えてみよう」を解く
	4	財政政策：財政政策にはどのような意義、効果があるか・日本の財政政策は効果があるのか	事後：「考えてみよう」を解く
	5	公企業と財政投融資：財政投融資はどのような役割・機能をもつのか	事後：「考えてみよう」を解く
	6	社会保障①：社会保障はどのような機能があるのか	事後：「考えてみよう」を解く
	7	社会保障②：日本の公的年金、公的医療保険制度はどのようなものか	事後：「考えてみよう」を解く
	8	社会保障③：日本の介護保険制度はどのようなものものか	事後：「考えてみよう」を解く
9	社会保障④：日本の所得保障の制度はどのようなものか	事後：「考えてみよう」を解く	
10	政府間財政関係①：中央政府（国）と地方政府の財政はどのように関係しているのか	事後：「考えてみよう」を解く	
11	政府間財政関係②：日本の中央政府（国）と地方政府の財政はどのように関係しているのか	事後：「考えてみよう」を解く	
12	日本の地方財政①：地方税とは何か・地方税に対する国の統制の意義、課題は何か	事後：「考えてみよう」を解く	
13	日本の地方財政②：国が作成する地方財政計画の役割は何か・地方交付税の意義と役割は何か	事後：「考えてみよう」を解く	
14	日本の地方財政③：国庫支出金の役割、課題は何か・地方債に対する国の統制の意義、課題は何か	事後：「考えてみよう」を解く	
15	復習・総括	事後：後期の内容の復習・総括	
16	期末試験	事前：期末試験の準備	
実践	テキスト・参考文献・資料など 毎回資料を配付します。テキストは特に指定しません。 【参考文献】 ・神野直彦、2007年、『財政学』改訂版、有斐閣。 ・重森暁・鶴田廣巳・植田和弘編、2009年、『Basic現代財政学』第3版、有斐閣。 ・神野直彦・小西砂千夫、2014年『日本の地方財政』有斐閣。 ・『図説日本の財政』最新版、東洋経済新報社。		
	学びの手立て 【履修の心構え】 ・授業回数3分の2の出席に満たない者、期末試験を受けない者は単位を修得することはできません。 ・財政学Ⅰを履修済み、ミクロ経済学・マクロ経済学を履修済みもしくは履修中であることが望ましいです。 【学びを深めるために】 ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本や諸外国の国・地方の財政問題に関心を持ってほしいと思います。 ・理解を深めるために、また自身の考えをまとめるために、事後学習として、配布資料の最後にある「考えてみよう」を解いてください。		
	評価 ・授業回数3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。 ・授業内小テスト、授業のふり返り等の授業での「平常点」30%、「課題レポート」20%、「期末試験」50%で評価します。 ・「平常点」「課題レポート」「期末試験」のそれぞれにおいて、すべての到達目標を確認します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次の関連科目を履修して、現在の財政の理解を深め、課題を見出し、解決策を考えてください。 【関連科目】・財政学Ⅰ・公共経済学・福祉国家論・地方財政論Ⅰ・地方財政論Ⅱ
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会思想史	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 社会を見る目を養うための知識として歴史及び時代ごとの思想を理解することをねらいとする。	メッセージ テーマ毎、グループ・ワークなども取り入れながら知識の定着が進むような授業を展開予定です。
	到達目標 時代とそれに則して展開した思想を理解することで、社会や人間の活動について思考することができるようになる。	

学びの準備	到達目標 時代とそれに則して展開した思想を理解することで、社会や人間の活動について思考することができるようになる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方，評価方法等について	事前に教科書を読むこと
	2	イントロダクション：歴史を振り返る	事前に教科書を読むこと
	3	近代と現代の意味1	事前に教科書を読むこと
	4	近代と現代の意味2	事前に教科書を読むこと
	5	中世の思想1	事前に教科書を読むこと
	6	中世の思想2	事前に教科書を読むこと
	7	マキアヴェリ1	事前に教科書を読むこと
	8	マキアヴェリ2	事前に教科書を読むこと
	9	スピノザとデカルト1	事前に教科書を読むこと
	10	スピノザとデカルト2	事前に教科書を読むこと
	11	民主政治1	事前に教科書を読むこと
	12	民主政治2	事前に教科書を読むこと
	13	マルクスとニーチェ1	事前に教科書を読むこと
	14	マルクスとニーチェ2	事前に教科書を読むこと
	15	まとめ	事前に教科書を読むこと
16	期末試験	事前に教科書を読むこと	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：的場昭弘『近代と反近代との相克—社会思想史入門』お茶の水書房，2006年．参考書については，授業内で紹介する．
-------	---

学びの実践	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします．場合によっては，退室を求めます．
-------	--

学びの実践	評価 期末試験70%，受講態度（ミニレポートの提出）30%．
-------	-----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①基礎的・専門的知識の習得 ②現状を分析する力 ③問題解決策を提言する力

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 社会保障論	期別 前期	曜日・時限 金 2	単位 2
	担当者 長嶋 佐央里	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ オフィスアワー：木曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 近年、少子高齢化の進行、低成長時代への移行、人々の働き方の多様化など社会経済状況が大きく変化中、国民生活の安心を確保するために、社会保障制度の改革が頻りに行われています。この授業では、社会・経済のさまざまな変化に対応した社会保障の制度やしきみのあり方について考える力を養い、制度やしきみの問題点を見出し、その解決策について自分なりに提言できるようにします。	メッセージ 授業では、社会保障制度の存在理由、社会保障制度やしきみ全体に関する議論に加え、日本の年金・医療・介護・子育てなど社会保障に関する制度・政策・課題について取り上げます。予備知識ゼロの学生にも理解できるように分かりやすく説明し、社会保障に係わる事象に関心が持てるようにします。
	到達目標 1. 社会保障の概念・理念、日本の社会保障制度とその特徴について理解することができる。 2. 日本の社会保障に関する諸現象を発見し、客観的かつ多面的に分析することができる。 3. 日本の社会保障の制度・しきみの問題点を明らかにし、その問題点を検討し、自身の考えを述べることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：社会保障とは何か	シラバスを読む
	2	日本の少子高齢化社会と社会保障の給付と負担の実態を理解する	事後：「考えてみよう」を解く
	3	社会保障制度の機能と役割を理解する	事後：「考えてみよう」を解く
	4	日本の社会保障制度の体系・しきみを理解する	事後：「考えてみよう」を解く
	5	社会保障の財源問題について考える	事後：「考えてみよう」を解く
	6	年金：年金制度が抱える問題を見出し、解決策を考える	事後：「考えてみよう」を解く
	7	医療：医療制度が抱える問題を見出し、解決策を考える	事後：「考えてみよう」を解く
	8	介護：介護保険制度が抱える問題を見出し、解決策を考える	事後：「考えてみよう」を解く
	9	貧困①：生活困窮者・低所得者の支援のあり方を考える	事後：「考えてみよう」を解く
	10	貧困②：「多元的貧困」について考える	事後：「考えてみよう」を解く
	11	子育て：子育て支援をめぐる課題を考える	事後：「考えてみよう」を解く
	12	労働：働き方と社会保障の制度・しきみのあり方を考える	事後：「考えてみよう」を解く
	13	教育：社会保障との関連から教育について考える	事後：「考えてみよう」を解く
	14	国際比較：日本の社会保障の特徴を理解する	事後：「考えてみよう」を解く
	15	総括：社会の実態から日本の社会保障の制度・しきみのあり方を考える	事後：授業内容の総括
16	期末試験	事前：期末試験の準備	

テキスト・参考文献・資料など  
 毎回資料を配付します。テキストは特に指定しません。  
**【参考文献】**  
 ・駒村康平. 2011年. 『福祉の総合政策』新訂五版. 創成社.  
 ・小塩隆士. 2015年. 『18歳からの社会保障読本』ミネルヴァ書房.  
 ・伊藤周平. 2015年. 『社会保障改革のゆくえを読む』自治体研究社.  
 ・椋野美智子・田中耕太郎. 2016年. 『はじめての社会保障』第13版. 有斐閣.

学びの手立て  
**【履修の心構え】**  
 ・授業回数の3分の2の出席に満たない者、期末試験を受けない者は単位を修得することはできません。  
**【学びを深めるために】**  
 ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本や諸外国の社会保障の課題に関心を持ってほしいと思います。  
 ・理解を深めるために、また自身の考えをまとめるために、授業を受けた後、配布資料の最後にある「考えてみよう」を解いてください。

評価  
 ・授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。  
 ・授業内小テスト、授業のふり返り等の授業での「平常点」30%、「課題レポート」20%、「期末試験」50%で評価します。  
 ・「平常点」「課題レポート」「期末試験」のそれぞれにおいて、すべての到達目標を確認します。

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 次の関連科目を履修して、社会保障関連サービス・財源の問題、労働を経済学的に考える際の視点等を学修し、現在の社会保障の制度やしきみの理解を深め、課題を見出し、解決策を考えてください。  
**【関連科目】**・財政学Ⅰ・財政学Ⅱ・地方財政論Ⅰ・地方財政論Ⅱ・公共経済学・労働経済学Ⅰ  
 ・労働経済学Ⅱ・福祉国家論

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	集落地理論Ⅰ	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	2年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 集落地理論Ⅰでは、集落の中でも「村落」の歴史地理に関する講義を行う予定である。とくに絵図資料や地図資料の読解方法、空中写真を用いた景観分析の方法、さらにフィールドワークの方法に重点を置く。また、映像資料、民俗学・地域史などの研究成果を盛り込みながら、沖縄村落の社会構造についてもふれる予定である。	メッセージ この講義は、地理学と周辺領域との境界部分を扱い、さらに専門性も高くなるため、地理学関連科目を履修していることが望ましい。
	到達目標 ・村落の立地・景観と社会構造の特性を関連づける。 ・沖縄村落の地理的・歴史的特性を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 村落地理学の研究史 2 村落と地図①－地形図の基礎－ 3 村落と地図②－地形図の利用方法－ 4 村落と地図③－空中写真の判読と利用方法－ 5 村落と地図④－国土基本図と地籍図－ 6 村落と地図⑤－古地図と絵図資料－ 7 村落の景観①－景観概念－ 8 村落の景観②－沖縄村落の景観－ 9 村落の景観③－景観研究の事例－ 10 村落の景観④－景観調査の方法－ 11 村落の景観⑤－景観調査の実際－ 12 村落の社会構造①－沖縄村落の歴史地理－ 13 村落の社会構造②－村落空間と祭祀構造－ 14 村落の社会構造③－村落社会調査の方法－ 15 村落の社会構造④－村落社会調査の実際－ 16 期末試験
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。 【参考文献】 ・仲松弥秀著『神と村』 鳥社 ・田里友哲著『論集 沖縄の集落研究』 離宇宙社
	学びの手立て ・出席確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず欠席・遅刻する場合は事前にメールなどで連絡すること。 ・講義中に課題を出すことが多くあるので、時間内で提出すること。
	評価 ・定期テスト（40点） ・レポート（30点） ・平常点：講義中の課題提出と発表（30点）（出席状況については、無断欠席が5回以上になると、「不可」となる）

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・「村落」と「都市」との関係性について理解を深め、後期開設する集落地理論Ⅱに繋げる。 ・現代社会の中で、どのような地域政策が必要かを考える契機になります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	集落地理論Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-濱里 正史	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>今後の地域と地域住民には自らの力で地域づくりをしていく力を養うことが求められる。そのための基礎は地域を知ることである。本講義では、集落地理のみならず人文・社会科学全般において重要な研究対象の1つである都市について、地理学的視点を重視しつつ身近な地域である「沖縄の集落と都市」を事例に学ぶことで、「地域づくりの力」の涵養に資することを目的とする。</p>	<p>地域づくりの力は、皆さんが社会に出て後、1市民としてあるいは職業人として必ず求められる力です。この力をどれだけ多くの人が習得できるかに、今後の沖縄社会、ひいては日本社会の行く末がかかっているといっても過言ではありません。こうした分野に興味を持ち積極的に参加したいという学生は、学年、学科を問わず、広く受け入れますので、ともに学びましょう。</p>
到達目標	<p>地域づくりの力の基礎は、①その地域が形成された過程とそのことに起因する現在の問題・課題を理解する、②それだけでなく、日々変化する地域の問題・課題についてアンテナを張り情報収集する習慣を身に付ける、の2点が重要である。本講義では、我々にとって最も身近な地域である沖縄本島中南部地域を事例に、その歴史と形成過程、その延長としての現在の問題・課題を学ぶだけでなく、新聞情報を活用して、現在進行形の問題・課題やその解決に向けたまちづくり・地域の取り組みを紹介する。そのことを通して、地域を見る目を養い、問題・課題を発見し、論理的に考え、解決策を立案する能力、いわゆる「地域づくりの力」の習得を目指す。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス及び集落地理・都市地理とは？	
	2	戦前における沖縄の集落と都市1（自然条件から見た沖縄の集落と都市）	第2～10週：下記の通り
	3	戦前における沖縄の集落と都市2（自然条件から見た沖縄の集落と都市）	予習：配布資料を事前に読み込む
	4	沖縄本島中南部地域における戦後の都市形成1（基地と都市）	復習：紹介図書群を用いた発展学習
	5	沖縄本島中南部地域における戦後の都市形成2（沖縄コナベーション）	
	6	戦後の都市形成過程から生じる沖縄本島中南部地域の問題・課題の整理	
	7	戦後那覇市の都市形成と構造1（問題と課題）	
	8	戦後那覇市の都市形成と構造2（問題・課題の解決に向けて）	
	9	北谷町のまちづくり	
	10	読谷村のむらづくり	
	11	まちづくりと地域振興の先進事例1（県内外）	第11～13週：下記の通り
	12	まちづくりと地域振興の先進事例2（県内外）	最新情報を用いるため復習中心
	13	沖縄におけるまちづくりと地域振興の展望	復習：自ら新聞等で先進事例を探す
	14	都市国家・国際都市・海洋都市（シンガポール・香港・韓国済州島）	予習：配布資料を事前に読み込む
15	国際都市としての沖縄の未来	復習：紹介図書群を用いた発展学習	
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など 授業は配布資料を基に行う。</p>
-------	---

学びの手立て	<p>&lt;履修の心構え等&gt;：前期、「集落地理論Ⅰ」を履修していることが望ましい。私語や携帯電話・スマホなど他人の迷惑、授業の妨害になるような行為は禁止（場合によっては退室、受講停止を命じる）。 &lt;学びを深めるために&gt; 「地域づくりの力」は短期間で涵養できるものではない。①本講義で紹介する発展学習のための参考図書での学習、②新聞やインターネットなどによる最新情報キャッチの日常習慣化、③実際の地域観察、④様々な人に地域の話聞き・意見交換する習慣の獲得などについて、本講義をキッカケに、講義期間中から可能な範囲で実践・継続することが学びを深める。</p>
--------	---

評価	<p>&lt;評価方法・割合&gt;：出席30点満点（2点×15回）及びレポート70点満点。 &lt;評価基準&gt;：出席は、単純に出席したか否かではなく、授業内容のまとめやコメント・感想・意見・質問を書く形式。内容によって評価する（0～2点）。名前・学籍番号のみで授業内容のまとめやコメント・感想・意見・質問がないものは0点とするので注意すること。レポートは、①情報収集、②情報の整理、③収集した情報に基づく分析、④自分なりの意見・見解の有無、⑤プレゼン資料としての説得力などの点について評価する。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 &lt;次のステージ&gt;「地域づくりの力」には広範な知識、現場に関する見聞・経験が求められる。したがって、①本講義で紹介する発展学習のための参考図書での学習、②新聞やインターネットなどによる最新情報キャッチの日常習慣化、③関連する科目の受講、④実際の地域観察、⑤様々な人に地域の話聞き・意見交換する習慣の獲得などについて、可能な範囲で実践・継続することを望む。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	証券市場論 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	3年		

学びの準備	ねらい 証券市場論は、主に株式の評価方法・投資尺度について学びます。「預金しようか、それとも株式か」「株を選ぶとき、何を基準にすればいいのか」という疑問に対するヒントも得られます。銀行員に求められている知識を学びます。	メッセージ 銀行員にとって証券の知識は不可欠です。将来銀行員を目指している人にぜひ勉強してほしい科目です。
	到達目標 投資・資産運用を数値・データに基づき判断できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 講義の概要・計画 2 投資（1）将来価値・現在価値 3 投資（2）年金の価値 4 投資（3）NPV、投資判断 5 証券投資（1）株式のリスク・リターン 6 証券投資（2）標準偏差 7 証券投資（3）相関係数 8 証券投資（4）分散投資 9 証券投資（5）分散投資 10 中間テスト 11 資本市場（1）債券のリスク・リターン 12 資本市場（2）債券の特徴 13 資本市場（3）株式の特徴 14 資本市場（4）株式の投資尺度 15 資本市場（5）投資信託・NISA 16 期末テスト
	テキスト・参考文献・資料など 石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 2005年
	学びの手立て
	評価 小テスト・中間テスト・期末テスト・出席状況に基づき総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	証券市場論Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	3年		

学びの準備	ねらい 金融市場における重要な市場が、証券市場です。証券市場では、株式や国債・社債等が取引されています。前半の講義では、証券市場論Ⅰの理論をEXCELを活用して検証する。また株価情報の分析を実習形式で行う。後半の講義では、証券外務員二種試験の株式・債券に関する範囲を学習する。	メッセージ 対象者は、証券市場論Ⅰの単位取得者です。（特殊な場合は相談）
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 講義の概要・計画 2 PC演習・データ収集 3 PC演習・理論検証Excel（1） 4 PC演習・理論検証Excel（2） 5 PC演習・株価分析Excel（1） 6 PC演習・株価分析Excel（2） 7 PC演習・株価分析Excel（3） 8 PC演習・株価分析Excel（4） 9 PC演習・株価分析Excel（5） 10中間テスト（PC） 11証券外務員（株式） 12証券外務員（株式） 13証券外務員（株式） 14証券外務員（債券） 15証券外務員（債券） 16期末テスト
	テキスト・参考文献・資料など 石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 2005年 UCAN『証券外務員二種速習レッスン2016年度』UCAN 2015年
	学びの手立て
	評価 小テスト・中間テスト・期末テスト・出席状況に基づき総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報システム I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	真栄田 好史	2年	ptt027@okiu.ac.jpまでメールを送って下さい。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	システムには、人手で行う作業（以下アナログ）と、コンピュータを駆使した作業（以下デジタル）がありますが、要は速度と性能の違いだけ。アナログ作業を上手くデジタル化したら、労力を減らすことが出来ます。デジタル化に失敗したら、余計に人手がかかることがあります。また、システム化を考える場合は、必ず基本方針：コンセプトを決めて下さい。	情報システムという名称ですか、特定のコンピュータ言語は使いません。何か自分で作成したいモノを決め、企画書や計画書の作成を行って貰います（この時、基本方針：コンセプトも決めてもらいます）。
到達目標	レポートやゼミ、卒論などの計画表の作成（+コンセプト決め）、または社会人になった場合の企画者の作成（+コンセプト）が、きちんと作成出来るようになって欲しい。計画表や企画書（基本方針：コンセプトは忘れないように）なしに、次のステップには、進めない。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	情報とシステム	復習
	3	情報とは：情報の分類	復習
	4	システムへの応用：システムの範囲	復習
	5	システムへの応用：目標と目的	復習
	6	システムへの応用：業務分析とシステム分析	復習
	7	システムへの応用：企画の立案、目標の設定と問題点の分析	復習
	8	システムへの応用：復習	復習
	9	練習問題	復習
	10	システム設計：自分で作成したいモノを決める	タイトルを決める
	11	システム設計：調査・分析	コンセプトを考える
	12	システム設計：調査・分析	コンセプトを考える
	13	システム設計：コンセプト決め	コンセプトを考える
14	システム設計：計画書または企画書のまとめ	計画書または企画書の見直し	
15	システム設計：計画書または企画書のまとめ	計画書または企画書の見直し	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など			
テキスト：毎回自作プリントを配布します。紙は使用しません。			
学びの手立て			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講時間になったら、速やかに、ログインして。名前と、学籍番号を入力して下さい（授業開始15分後まで）。</li> <li>・出席入力後、30分以上席を離れた場合、欠席扱いする。</li> <li>・授業後半に質問の時間を用意するので、可能な限り、質問して下さい。</li> <li>・授業中に、動画の閲覧やゲームを行って居る場合は、減点する。</li> <li>・Excel、Word、E-mailは、使用できるようにしておくこと。</li> <li>・課題またはレポートの提出はE-mailの添付ファイルで送付して貰う。</li> </ul>			
評価			
成績評価の方法は、出席状況および試験（若しくは提出されたレポート）によっての内容を総合して判断する。なお、再試験、追試験は行わない。レポート類は、減点法で評価を行う。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 流れ図を作成することで、全体の流れが、分かり易くなる。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報システムⅡ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	真栄田 好史	2年	ptt027@okiu.ac.jpまでメールを送って下さい。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	プログラム言語に関係なく、処理の方法を書き出し、「開始」～「終了」までの一連の流れを、机上または頭の中で論理的に考えられるようになる。アナログ処理も同じです。論理設計を身につける事で、システム全体が見渡せるようになる。	特別にプログラミング言語を知らなくても、一連の処理を書くことが出来る。フローチャートで表すことが出来れば、開発言語に関係なく、プログラムなどを書いてもらえる。作業の分類が、上手になる。問題は、めんどくさい。
到達目標	いろいろな処理を、流れ図で表すことで、処理の状態が分かり易くなり論理設計(頭の中で処理を考える)を行うので、物事を深く考え事前ミスが減らすことが出来る。実際のプログラミング言語は知らなくても、全体の流れが分かるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
2	コンピュータの歴史：復習	復習	
3	プログラミングの初歩的な概念	復習	
4	アルゴリズムの基礎	復習	
5	流れ図の作成1：フローチャートの前	復習	
6	流れ図の作成2	復習	
7	練習問題	復習	
8	アルゴリズムについて：基本形	復習	
9	アルゴリズムについて：基本形2	復習	
10	アルゴリズムについて：分岐	復習	
11	アルゴリズムについて：繰り返し	復習	
12	アナログとデジタルの違い	論理設計の復習	
13	アナログで書かれたプログラム1	論理設計の復習	
14	アナログで書かれたプログラム1	論理設計の復習	
15	アナログで書かれたプログラム1	論理設計の復習	
16	期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：毎回自作プリントを配布します。 紙は使用しません。		
	学びの手立て ・受講時間になったら、速やかに、ログインして。名前と、学籍番号を入力して下さい(授業開始15分後まで)。 ・出席入力後、30分以上席を離れた場合、欠席扱いする。 ・授業後半に質問の時間を用意するので、可能な限り、質問して下さい。 ・授業中に、動画の閲覧やゲームを行って居る場合は、減点する。 ・Excel、E-mailは、使用できるようにしておくこと。 ・課題またはレポートの提出はE-mailの添付ファイルで送付して貰う。		
	評価 成績評価の方法は、出席状況および試験(若しくは提出されたレポート)によっての内容を総合して判断する。 なお、再試験、追試験は行わない。 レポート類は、減点法で評価を行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 論理思考とアルゴリズムを知れば、より深く物事を考えられると思います。
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理概論	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太・他（専任教員・外部講師）	1年	keita.kinjo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報処理についての基礎を学びます。ITパスポートに関連する内容をやります。また、それ以外にもいくつかプログラミング言語やその概念についても学ぶことで情報処理について身につける予定です。	メッセージ 情報処理の授業ですが、講義形式なので動画や演習をいれていきます。
	到達目標 1. 情報処理技術の基礎を修得 2. プログラミングについての考えかたの基礎を修得	

学びの準備	ねらい 情報処理についての基礎を学びます。ITパスポートに関連する内容をやります。また、それ以外にもいくつかプログラミング言語やその概念についても学ぶことで情報処理について身につける予定です。	メッセージ 情報処理の授業ですが、講義形式なので動画や演習をいれていきます。
	到達目標 1. 情報処理技術の基礎を修得 2. プログラミングについての考えかたの基礎を修得	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. 導入 2～4. ハードウェア・・・装置の名前、仕組みなど 5～7. ソフトウェアとマルチメディア・・・装置の名前、しくみ、エクセルによる演習 8～9. システム構成・・・システムの構成、信頼性評価 10～13. アルゴリズムとプログラミング・・・プログラミングの方法、実装の基礎 14. マネジメント 15. 全体のまとめ 16. 復習
	テキスト・参考文献・資料など 栢木厚「栢木先生のITパスポート教室」技術評論社

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 栢木厚「栢木先生のITパスポート教室」技術評論社
	学びの手立て ・毎回板書をするので、それを各自ノートに記載してください。 ・毎回、そのノートに課題をやってもらい、最終的にその課題をチェックします。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 栢木厚「栢木先生のITパスポート教室」技術評論社
	学びの手立て ・毎回板書をするので、それを各自ノートに記載してください。 ・毎回、そのノートに課題をやってもらい、最終的にその課題をチェックします。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 栢木厚「栢木先生のITパスポート教室」技術評論社
	学びの手立て ・毎回板書をするので、それを各自ノートに記載してください。 ・毎回、そのノートに課題をやってもらい、最終的にその課題をチェックします。

学びの継続	次のステージ・関連科目 コンピュータ概論が続きの授業になっています。
-------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報と社会	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	2年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人間は情報に対してどのように関わり、歩んできたのだろうか。現代社会の中で、情報の役割と情報技術がもたらす影響、インパクト、それに伴う人間社会の変容、さらに光と影を多面的に検討することをねらいとする。	情報化時代にどのような取り組みやどのような経済効果が期待されているかなどを体系的に学びます。

学びの準備	到達目標
	1. ICTが及ぼす消費生活、経済、産業、政治、文化、教育などへの影響について説明することができる。 2. 今後ますます進歩し続ける情報技術とその社会に対して自分の意見を述べる事が出来る。

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1回目：情報に関し、収集、分析、判断、評価の定義 2回目：情報とメディアリテラシーの関係を見出す 3回目：人・社会・技術 (人間と情報とのかかわりを探り、ICT社会の未来を見つめる) 4回目：ユビキタス情報社会 (身のまわりにある情報化 (IT化) を認識し、どのような役割を担っている) 5回目：情報化と消費者心理 (行動心理学的な観点から情報化社会が生み出した行動変容を探る) 6回目：情報経済の構造 (ICTの社会的影響と情報経済を変化とその問題点を理解する) 7回目：情報経済の構造 (ICTの社会的影響と情報経済を変化とその問題点を理解する) 8回目：情報の保管・運営 (日本における、コンテンツの利用法とアーカイブの役割を理解する) 9回目：情報化社会における創造性 (学校教育の役割と人材育成について理解を深める) 10回目：情報化社会における創造性 (学校教育の役割と人材育成について理解を深める) 11回目：通信と放送の融合 (コンテンツ作成技法と放送との融合メリットを探る) 12回目：情報社会の未来 (理想的なICT利用と新しいコミュニケーションの形を考える) 13回目：補講 上記の授業について時間不足が生じた場合補講とする。 14回目：補講 上記の授業について時間不足が生じた場合補講とする。 15回目：振り返り 16回目：最終試験
	テキスト・参考文献・資料など 特にテキストの指定はしない、適宜レジュメを配布する。 インストラクショナルデザインの原理 (鈴木克明監訳：北大路書房)、情報技術と社会 (大岩元、辰巳文雄：放送大学教育振興会)、各種統計 (総務省Webサイト参照)

学びの実践	学びの手立て 情報化時代において様々なメリットやデメリットが生じていて、その光と影が我々の生活や経済の中で影響を与えているかをテレビや新聞などのメディアに関心をもつこと。
	評価 授業への参加姿勢 (20%)、最終試験 (80%) を総合的に判断、評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄においても日本においても、世界においても情報化の波は衰えることはなく、その情報化がどう経済に影響を与えているか、専門科目の基礎知識となる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報文化論 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近年、情報文化という言葉が頻りに耳にするが、この言葉によって何を意図しようとするのかは、明確ではない。これは情報文化という概念がまだ定着しておらず、いろいろな意味合いで使用されているからである。そこで本授業では、情報文化の歴史を通して使用例、定義例を紹介し、それらと現在の情報環境を学で自分自身の定義を組み立てることをねらいとする。	メディアの歴史をとおして、どのように生まれ、どのような影響を与え、変遷してきたかを学ぶ科目である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報文化に関し自分の言葉で定義することができる</li> <li>2. 情報リテラシー能力 (収集、分析、発信、著作など) を身につけることができる</li> <li>3. 社会において情報文化がもたらす光と影を説明することができる</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1週目 授業内容の確認と事前テスト (情報、メディアに関するテスト)</li> <li>2週目 情報文化に関する世界各国の定義</li> <li>3週目 情報とメディアリテラシー</li> <li>4週目 情報を運ぶ媒体の歴史</li> <li>5週目 カルチャラル・スタディーズ</li> <li>6週目 情報伝達の基本的理論と概念</li> <li>7週目 メディアの時代 (新聞・印刷技術の発展)</li> <li>8週目 中間試験 (習得度確認)</li> <li>9週目 メディアの知 (プロパガンダ)</li> <li>10週目 電話・電信の歴史と利用法</li> <li>11週目 マス・メディアとしてのラジオ</li> <li>12週目 テレビの変遷 (テレビの波及効果)</li> <li>13週目 情報メディアがもたらす家族の変化</li> <li>14週目 特別講義 (メディア企業関連)</li> <li>15週目 ふりかえり</li> <li>16週目 最終試験</li> </ol>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>レジメや資料を配布する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総務省白書、2. 情報文化関連参考文献、3. 情報検定</li> </ol>
	<p>学びの手立て</p> <p>メディアの誕生と発展・発達に関心を持ち、メディアの重要性を理解する。</p>
評価	事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>情報文化論Iでは、メディアの歴史と変遷を学ぶと同時に、我々の生活の中での諸問題とどう向き合っているか問う情報文化論IIへ繋げていく。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報文化論Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>情報文化論IIでは、情報文化論Iで習得した知識をさらに深め、様々な定義に基づいて情報文化の諸側面(情報の重要さ, 情報機器, 情報リテラシー, 情報管理体制, 制度, 文化的側面), 情報文化の事例, わが国、わが県における情報文化の特徴について学ぶ。また、県内企業との連携も図り現場での情報技術がどのように社会貢献しているか学ぶ。</p>	<p>情報に関わる方々にも講義を行ってもらい、情報が我々の生活の中でどのように文化として定着していくかなどを学ぶ。</p>
到達目標	<p>1. 情報文化が社会にもたらす影響を説明することが出来る。 2. 情報技術を利用した現場を視察し、情報文化の動向を説明することが出来る。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>1週目 授業内容の確認と事前テスト (情報文化論Iで学んだことも含む) 2週目 情報文化がもたらす社会への影響 (経済) 3週目 情報文化がもたらす社会への影響 (教育・家族) 4週目 複合的なメディアリテラシー 5週目 複合的なメディアリテラシー 6週目 事例を通して批判的理論と実践 7週目 事例を通して批判的理論と実践 8週目 中間試験 (習得度確認) 9週目 県内視察 (メディア関連施設) 10週目 情報文化における広告手法の変遷 11週目 アジアの情報文化事例 12週目 アジアの情報文化事例 13週目 特別講義 (IT企業関連) 14週目 情報文化における編集活動の変容 15週目 ふりかえり 16週目 最終試験</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>レジメや資料を配布する。 1. 総務省白書、2. 情報文化関連参考文献、3. 情報検定、4. DVD、ビデオ教材</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>情報に関わる方を招いて、情報に関する事を多角的な視点から考えることが出来る。</p>
	<p>評価</p> <p>事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目をとおして、情報化時代の新たな可能性を探り、経済と結びつけ、情報化時代の巨大市場を専門的な角度から取り組み、専門演習などに繋げる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	1年		

学びの準備	ねらい 今後の大学生活や社会生活において必要とされる、情報機器の基礎的な操作技能の修得を目指します。具体的には、基礎的なコンピュータの操作方法やインターネット・メールの使い方等をはじめ、ワードやエクセル、パワーポイントの基本的な操作方法について説明します。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	基本的な操作方法と日本語入力の練習	
	3	インターネットの活用方法と電子メールの利用方法	
	4	ワードの操作方法（1）	
	5	ワードの操作方法（2）	
	6	ワードの操作方法（3）	
	7	ワードの操作方法（4）	
	8	エクセルの操作方法（1）	
	9	エクセルの操作方法（2）	
	10	エクセルの操作方法（3）	
	11	エクセルの操作方法（4）	
	12	エクセルの操作方法（5）	
	13	パワーポイントの操作方法（1）	
	14	パワーポイントの操作方法（2）	
15	パワーポイントの操作方法（3）		
16			
テキスト・参考文献・資料など テキストなし。 毎回資料を配付する。			
学びの手立て			
評価 出席と課題(提出状況・内容)に基づき評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	1年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>今後の大学生活や社会生活において必要とされる、情報機器の基礎的な操作技能の習得を目指します。具体的には、基礎的なコンピュータの操作方法やインターネット・メールの使い方等をはじめ、ワードやエクセル、パワーポイントの基本的な操作方法について学びます。</p>	<p>大学生生活をしていく上で必要な基礎的なパソコン操作を学びます。パソコン操作、文書作成ソフト等の習熟度には個人差があると考えられるため、基礎的な内容から講義をしていきます。</p>
到達目標	<p>①大学でのパソコンの利用方法、基本的な操作方法を習得する。                  ②Word、Excel、PowerPointの基本的な操作方法、技能を習得し、文書作成、簡易な集計、情報分析を行うことができる。                  ③他人に伝えるための効果的なプレゼンテーション資料の作成、報告ができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを読む
	2	基本的な操作方法と日本語入力の練習	基本的なパソコン利用について確認
	3	インターネットの活用と電子メールの利用方法	学内ポータルの利用方法の確認
	4	ワードの操作方法（1）—ワードの基本的な機能	Wordの起動と基本文書作成の確認
	5	ワードの操作方法（2）—基本文書の作成①	文書作成と提出方法についての確認
	6	ワードの操作方法（3）—基本文書の作成②	Wordの体裁の整え方の確認
	7	ワードの操作方法（4）—基本文書の作成③	Wordでの図表作成、挿入方法の確認
	8	エクセルの操作方法（1）—エクセルの基本的な機能	Excelの起動と表計算の基本の確認
	9	エクセルの操作方法（2）—表計算とグラフ作成	集計とグラフ作成方法の確認
	10	エクセルの操作方法（3）—表の作成とWordへの挿入	表作成とWord文書の作成方法の確認
	11	エクセルの操作方法（4）—関数の利用方法	簡易な関数利用方法の確認
	12	エクセルの操作方法（5）—応用編	Excelの利用方法について調べる
	13	パワーポイントの操作方法（1）—パワーポイントの基本的な機能	PowerPointの起動と活用について
14	パワーポイントの操作方法（2）—プレゼン資料の作成①	プレゼンテーションのための準備①	
15	パワーポイントの操作方法（3）—プレゼン資料の作成②	プレゼンテーションのための準備②	
16	最終課題	作成資料の確認とプレゼン練習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定せず、プリント・資料配布により講義を行います。事前・事後学習の助けとして以下の参考文献等を活用してください。他、必要に応じ講義中適宜提示します。  <b>【参考文献】</b>                  若山芳三郎（2014）『学生のための情報リテラシー』電機大出版局</p>		
学びの手立て	<p>○履修の心構え                  講義時間中の私語、スマホ利用、遅刻などは厳禁です。毎回出欠確認を行います。PC起動に時間を要することがあります。早めに教室に入り準備をしてください。                  ○学びを深めるために                  PC操作に自信のない人は、積極的に自習することを求めます。</p>		
評価	<p>○出席と講義態度（平常点：50%）と課題提出・内容（50%）によって評価します。                  ※3分の1以上の欠席は不可となります。                  ○課題は基本的に講義時間中に課します。提出が遅れた場合、次回講義までに確実に提出することを求めます。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義では、大学生活で欠かせない学内ポータルの使用やメール確認と作成の方法を身につけ、講義や演習での課題作成に最低限必要な技能の習得を求めため全ての科目が関連科目となります。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	1年	keita.kinjo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 今後の大学生活や社会生活において必要とされる、情報機器の基礎的な操作技能の修得を目指します。具体的には、基礎的なコンピュータの操作方法やインターネット・メールの使い方等をはじめ、ワードやエクセル、パワーポイントの基本的な操作方法について説明します。	メッセージ 分からないことがあった場合は適宜質問してください。
	到達目標 1. パワーポイントをつかえるようになる 2. エクセルをつかえるようになる 3. そのほかパソコンによる情報処理の基礎ができるようになる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. オリエンテーション 2. 基本的な操作方法と日本語入力の練習 3. インターネットの活用方法と電子メールの利用方法 4. ワードの操作方法（1） 5. ワードの操作方法（2） 6. ワードの操作方法（3） 7. ワードの操作方法（4） 8. エクセルの操作方法（1） 9. エクセルの操作方法（2） 10. エクセルの操作方法（3） 11. エクセルの操作方法（4） 12. エクセルの操作方法（5） 13. パワーポイントの操作方法（1） 14. パワーポイントの操作方法（2） 15. パワーポイントの操作方法（3）
	テキスト・参考文献・資料など テキストなし。 毎回資料を配付する。
	学びの手立て ・分からないことがあれば適宜質問することが重要 ・操作的なことなので慣れることが重要
	評価 平常点（50）と課題（提出状況・内容）（50）に基づき評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 情報処理概論など情報処理に関連する科目とも関係している。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	西洋経済史 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 経済の歴史、とりわけ、西洋社会の経済の歴史を学ぶことで、経済学そのものの理解を促すことをねらいとする。西洋経済史Iでは、古代から産業革命までを扱う。	メッセージ テーマ毎、グループ・ワークなども取り入れながら知識の定着が進むような授業を展開予定です。
	到達目標 西洋社会の発展を経済的な側面から理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	事前に教科書を読むこと
	2	イントロダクション：世界史を振り返る	事前に教科書を読むこと
	3	序章 現代アジアの経済的再興とイギリス帝国	事前に教科書を読むこと
	4	第1章 環大西洋世界と東インドー長期の一八世紀	事前に教科書を読むこと
	5	第1章 環大西洋世界と東インドー長期の一八世紀	事前に教科書を読むこと
	6	第1章 環大西洋世界と東インドー長期の一八世紀	事前に教科書を読むこと
	7	第2章 自由貿易帝国とパクス・ブリタニカ	事前に教科書を読むこと
	8	第2章 自由貿易帝国とパクス・ブリタニカ	事前に教科書を読むこと
	9	第2章 自由貿易帝国とパクス・ブリタニカ	事前に教科書を読むこと
	10	到達度チェック（テストまたはレポート）	事前に教科書を読むこと
	11	第3章 脱植民地化とコモンウェルス	事前に教科書を読むこと
	12	第3章 脱植民地化とコモンウェルス	事前に教科書を読むこと
	13	第3章 脱植民地化とコモンウェルス	事前に教科書を読むこと
	14	終章 グローバルヒストリーとイギリス帝国	事前に教科書を読むこと
15	終章 グローバルヒストリーとイギリス帝国	事前に教科書を読むこと	
16	期末試験	事前に教科書を読むこと	
テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：秋田茂『イギリス帝国の歴史—アジアから考える』（中公新書2167）中央公論新社，2012年。			
学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。			
評価 期末試験50%，中間テスト20%，受講態度（ミニレポートの提出）30%。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 西洋経済史IIの受講を勧めます。
-------	---------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	西洋経済史Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 経済の歴史、とりわけ、西洋社会の経済の歴史を学ぶことで、経済学そのものの理解を促すことをねらいとする。西洋経済史IIでは、産業革命後から第二次大戦後までを扱う。	メッセージ テーマ毎、グループ・ワークなども取り入れながら知識の定着が進むような授業を展開予定です。
	到達目標 西洋社会の発展を経済的な側面から理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	事前に教科書を読むこと
	2	イントロダクション～西洋経済史Iを振り返る	事前に教科書を読むこと
	3	ヨーロッパの工業化	事前に教科書を読むこと
	4	産業革命1	事前に教科書を読むこと
	5	産業革命2	事前に教科書を読むこと
	6	「第二次産業革命」	事前に教科書を読むこと
	7	ヨーロッパとアメリカ1	事前に教科書を読むこと
	8	ヨーロッパとアメリカ2	事前に教科書を読むこと
	9	世界大戦とヨーロッパ経済1	事前に教科書を読むこと
	10	世界大戦とヨーロッパ経済2	事前に教科書を読むこと
	11	第二次大戦後のヨーロッパ経済1	事前に教科書を読むこと
	12	第二次大戦後のヨーロッパ経済2	事前に教科書を読むこと
	13	EUとは	事前に教科書を読むこと
	14	第二次大戦後の世界経済1	事前に教科書を読むこと
15	第二次大戦後の世界経済2	事前に教科書を読むこと	
16	期末試験	事前に教科書を読むこと	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：奥西 孝至ほか『西洋経済史（有斐閣アルマ）』有斐閣、2010年.		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 期末試験70%、受講態度（ミニレポートの提出）30%.		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	3年		

学びの準備	ねらい 基礎演習Ⅲ、Ⅳの授業を請けて、沖縄の将来の方向性について考えていく。沖縄の現在の経済状況、将来の可能性を見据えた上で、今後どのような選択肢が沖縄にあるのか、それぞれの選択肢の可能性について学習、報告し皆で議論する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週目：ガイダンス 2週目以降：各グループに分け、テーマを設定した後、グループ毎に学習し、内容を報告する。それを皆で議論する。
	テキスト・参考文献・資料など 特になし。 後日、紹介する。
	学びの手立て
	評価 授業への参加度を最も重視する。ゼミにおける真摯な態度、積極性、他の人への影響度を見た上で総合的に評価。 出席回数が3分の2に満たない場合や出席態度が不良の場合は不可とする。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>3年次の専門演習 I Aは原則として専門演習 I Bや4年次の専門演習 II A, II Bへと持ち上がりになります。演習（ゼミナール）というのは、討論や共同作業を通して学生同士が学びあい、各自の認識を深めるというのが目的ですから、できるだけ率直に積極的に話をすることが大事です。いろんな意見やセンスの持ち主が集まって議論が活発になったらいいと思いますので、留学生は歓迎です。</p>	
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			13			14			15			16			
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1																																																					
2																																																					
3																																																					
4																																																					
5																																																					
6																																																					
7																																																					
8																																																					
9																																																					
10																																																					
11																																																					
12																																																					
13																																																					
14																																																					
15																																																					
16																																																					
	テキスト・参考文献・資料など																																																				
	未定 未定																																																				
	学びの手立て																																																				
	評価																																																				
	レポート 50%、演習への参加姿勢(出席、発言、発表の出来不出来等) 50%																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

経済・社会の問題を論理的に考え、意見を述べ、問題解決の方法を提案する力を養う。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	演習Ⅱにおける卒業論文作成に向けた経済学の専門知識を深めていくことと、雇用失業や財政、産業など沖縄県及び全国の社会経済への認識を、論文や専門書の輪読等によって深めていく。日本や沖縄の社会・経済の現状を冷静に分析し、どうすれば地域が発展し、住民が幸福になるのか、グループ討議も含め議論を重ねながら、一緒に考えていく。	論理的に考察する力と企画提案力、日常のことを経済学的に考えることができるようになってほしい。また、後期のグループワークに備え、ゼミ生同士の親睦を深めるため、スポーツ大会やレクリエーションなども自主的に企画してほしい。
到達目標	経済・社会の問題を論理的に考えることができる。 学生同士協力しながら、問題解決の方法を提案することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義予定など）	
	2	論理的な考え方（図解思考法、マインドマップなど）Ⅰ	新聞の記事を図解する
	3	論理的な考え方（図解思考法、マインドマップなど）Ⅱ	同上
	4	論理的な考え方（図解思考法、マインドマップなど）Ⅲ	同上
	5	経済問題に対するディスカッション（日常のテーマを経済学的に考える）Ⅰ	テーマについて考える
	6	経済問題に対するディスカッション（日常のテーマを経済学的に考える）Ⅱ	同上
	7	専門書、論文等の輪読Ⅰ テキスト：「経済学で現代経済を読む」	テキストの予習・復習
	8	専門書、論文等の輪読Ⅱ	テキストの予習・復習
	9	専門書、論文等の輪読Ⅲ	テキストの予習・復習
	10	専門書、論文等の輪読Ⅳ	テキストの予習・復習
	11	調査手法を学ぶ（課外授業、外部講師による講義など）Ⅰ	配布資料の予習・復習
	12	調査手法を学ぶ（課外授業、外部講師による講義など）Ⅱ	同上
	13	調査手法を学ぶ（課外授業、外部講師による講義など）Ⅲ	同上
14	調査手法をによる、グループワーク	グループによる調査	
15	グループ同士による議論	同上	
16	前期総括及び夏休みの課題テーマの発表など	夏休み計画作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など 特にないが、そのつど紹介する 「問題解決力」稲崎宏治 ダイアモンド社、「寓話で学ぶ経済学」ラッセル・ロバーツ 日本経済新聞社、 「経済学で現代経済を読む」ダグラス・ノース他 日本経済新聞社 など		
学びの手立て	講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。 毎回のゼミにおいては、目的意識を持って臨むようにする。		
評価	発表への積極性、討議内容、出席及びレポートを総合的に評価する。 講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年次における、卒論、就活の取り組みが明確な目標のもとできる。
-------	--

※ポリシーとの関連性 「主体的に調査・研究」しつつ、「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	3年	研究室 (5629)、またはmurakami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。また、企業や事業所の訪問調査とその結果のプレゼンテーションを実施しながら、生きた経営を学んでいく。</p>	<p>1) 失敗を恐れずプレゼンテーションを実施してほしい。 2) 積極的な質疑応答を期待する。</p>
	到達目標	
	<p>1) ビジネスマナーを身につける。 2) 受講前より、主体性、傾聴力、発信力、協調性などが身につく。 3) 就職活動や進学など自らの進路を考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション (自己紹介等)</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>報告レジュメ作成、ディスカッションの仕方、報告割当</td><td>ビジネスマナーを身につける</td></tr> <tr><td>3</td><td>報告・ディスカッション (1)</td><td>プレゼンとQ&amp;A技法の構築</td></tr> <tr><td>4</td><td>報告・ディスカッション (2)</td><td>プレゼンとQ&amp;A技法の構築</td></tr> <tr><td>5</td><td>報告・ディスカッション (3)</td><td>プレゼンとQ&amp;A技法の構築</td></tr> <tr><td>6</td><td>報告・ディスカッション (4)</td><td>プレゼンとQ&amp;A技法の構築</td></tr> <tr><td>7</td><td>報告・ディスカッション (5)</td><td>プレゼンとQ&amp;A技法の構築</td></tr> <tr><td>8</td><td>工場見学または課外授業</td><td>ビジネスマナーとQ&amp;A技法の構築</td></tr> <tr><td>9</td><td>報告・ディスカッション (6)</td><td>プレゼンとQ&amp;A技法の構築</td></tr> <tr><td>10</td><td>報告・ディスカッション (7)</td><td>プレゼンとQ&amp;A技法の構築</td></tr> <tr><td>11</td><td>報告・ディスカッション (8)</td><td>プレゼンとQ&amp;A技法の構築</td></tr> <tr><td>12</td><td>報告・ディスカッション (9)</td><td>プレゼンとQ&amp;A技法の構築</td></tr> <tr><td>13</td><td>報告・ディスカッション (10)</td><td>プレゼンとQ&amp;A技法の構築</td></tr> <tr><td>14</td><td>経営学関係のビデオ/DVD学習</td><td>Q&amp;A技法の構築</td></tr> <tr><td>15</td><td>専門演習 I Aの反省会・総括</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>予備日</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション (自己紹介等)		2	報告レジュメ作成、ディスカッションの仕方、報告割当	ビジネスマナーを身につける	3	報告・ディスカッション (1)	プレゼンとQ&A技法の構築	4	報告・ディスカッション (2)	プレゼンとQ&A技法の構築	5	報告・ディスカッション (3)	プレゼンとQ&A技法の構築	6	報告・ディスカッション (4)	プレゼンとQ&A技法の構築	7	報告・ディスカッション (5)	プレゼンとQ&A技法の構築	8	工場見学または課外授業	ビジネスマナーとQ&A技法の構築	9	報告・ディスカッション (6)	プレゼンとQ&A技法の構築	10	報告・ディスカッション (7)	プレゼンとQ&A技法の構築	11	報告・ディスカッション (8)	プレゼンとQ&A技法の構築	12	報告・ディスカッション (9)	プレゼンとQ&A技法の構築	13	報告・ディスカッション (10)	プレゼンとQ&A技法の構築	14	経営学関係のビデオ/DVD学習	Q&A技法の構築	15	専門演習 I Aの反省会・総括		16	予備日		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	オリエンテーション (自己紹介等)																																																				
2	報告レジュメ作成、ディスカッションの仕方、報告割当	ビジネスマナーを身につける																																																			
3	報告・ディスカッション (1)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
4	報告・ディスカッション (2)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
5	報告・ディスカッション (3)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
6	報告・ディスカッション (4)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
7	報告・ディスカッション (5)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
8	工場見学または課外授業	ビジネスマナーとQ&A技法の構築																																																			
9	報告・ディスカッション (6)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
10	報告・ディスカッション (7)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
11	報告・ディスカッション (8)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
12	報告・ディスカッション (9)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
13	報告・ディスカッション (10)	プレゼンとQ&A技法の構築																																																			
14	経営学関係のビデオ/DVD学習	Q&A技法の構築																																																			
15	専門演習 I Aの反省会・総括																																																				
16	予備日																																																				
	<p>テキスト・参考文献・資料など 参考になる文献は適宜紹介する。</p>																																																				
	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え 単に出席しているだけでは単位の修得にはつながらない。積極的にプレゼンを実施するとともに、プレゼンを受ける場合は積極的な質問を心がける。 ②学びを深めるために 働く意味を考える。正課内外のキャリアについて意味づけをしてもらいたい。</p>																																																				
	<p>評価</p> <p>出席 (30%)、レジュメやパワーポイントによるプレゼンテーション (40%)、課外学習における諸活動 (30%) を総合的に評価する。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習 I B、キャリアデザイン A (共通)、キャリアデザイン B (共通)</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学の専門的知識を学び、その視座から経済社会を読み解く力を身につけ、他者と議論する力を養います。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	3年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習で学んできたことをベースに、各自でテーマを持ち、問題関心を深め、情報を分析し、プレゼン、ディスカッション能力の向上を図っていきます。沖縄経済や県内の地域づくりの事例などを学び、社会との関わり方を学んでいくため、課外活動等を積極的に取り入れます。4年次の卒業論文作成に向けた準備を行います。	専門演習では、個人の関心をベースにしたテーマ設定を行い、そのテーマに基づき、課題深めていきます。3年次から4年次の卒業論文作成に向けた準備をすることで、大学での学びを一つの成果にまとめていくことを意識します。より現実的な問題意識を持たせるため、実践的な活動（課外）を盛り込んでいきます。
到達目標	①自ら課題を設定し、情報収集と分析を通じて知見を深めていくことができる。 ②体系的な理解に努め、課題解決に向けた思考方法を身につけることができる。 ③他者の示したテーマに関して積極的に意見交換し、問題意識の共有と理解を図り、社会問題全般に関心を払うことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー専門演習の進め方について	シラバスを読む
	2	グループ報告、個人報告の準備ー報告の割り当て	基礎演習時の課題提出
	3	グループ別のテーマ設定について	グループでの報告準備
	4	個人報告のテーマについて①	個人テーマについての報告準備①
	5	個人報告のテーマについて②	個人テーマについての報告準備②
	6	グループ報告、個人報告、ディスカッション①	各グループ、各個人の報告準備①
	7	グループ報告、個人報告、ディスカッション②	各グループ、各個人の報告準備②
8	グループ報告、個人報告、ディスカッション③	各グループ、各個人の報告準備③	
9	グループ報告を振り返って	グループ作業を通しての振り返り	
10	個人報告、ディスカッション①	個人テーマに関する資料作成①	
11	個人報告、ディスカッション②	個人テーマに関する資料作成②	
12	個人報告、ディスカッション③	個人テーマに関する資料作成③	
13	個人報告、ディスカッション④	個人テーマに関する資料作成④	
14	個人報告、ディスカッション⑤	個人テーマに関する資料作成⑤	
15	前期演習を振り返ってーテーマの深掘りとステップアップ	研究テーマについて考える	
16	※上記演習計画とは別に学外者との協働プロジェクトによる課外活動も行います。		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	※テキストは特に指定しないが、各自関心のあるテーマに関する文献・論文を紹介してもらい、それらを演習の際活用することがある。		
	学びの手立て		
	○履修の心構え 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。 テーマ設定を行い、一つの課題を深めていく作業、継続して考え抜くことを意識してください。 ○学びを深めるために 問題発見と解決に向けた課題設定は一つとは限りません。一つもテーマに対し、考え続ける力も必要です。		
	評価		
	演習への参加態度、発言・発表内容等から総合的に評価する。 ※欠席が3分の1を超える場合は「不可」		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	4年次の専門演習 II A、II Bにおいて、卒業論文作成にあたる

※ポリシーとの関連性

経済現象を科学的に分析し、社会の動きを論理的に読み取る能力を養う。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	3年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済に関する文献の講読を通じて、経済現象を科学的に分析する能力を養う。また、経済分析の手法を学ぶことでレポート作成技術の向上を図る。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 経済社会の諸課題について分析し、課題解決のための政策提言ができる力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義説明、専門演習 I A の目標設定、アンケート等 -	
	2	大学生活に関する自己評価① - 修学の状況、研究テーマ、将来設計等 -	大学生活の中間評価
	3	大学生活に関する自己評価② - 修学の状況、研究テーマ、将来設計等 -	大学生活の中間評価
	4	経済文献の輪読① - 公共経済学、経済政策関連文献の選定 -	文献の選定
	5	経済文献の輪読② - レジューメ作成・報告、ディスカッション -	指定文献の精読
	6	経済文献の輪読③ - レジューメ作成・報告、ディスカッション -	指定文献の精読
	7	経済文献の輪読④ - レジューメ作成・報告、ディスカッション -	指定文献の精読
	8	経済文献の輪読⑤ - レジューメ作成・報告、ディスカッション -	指定文献の精読
9	経済文献の輪読⑥ - レジューメ作成・報告、ディスカッション -	指定文献の精読	
10	経済分析の手法 - 経済データの見方、経済分析の手法紹介 -	経済統計・計量経済学の予習	
11	グループ調査① - テーマ選定、構成案等の検討 -	グループワーク	
12	グループ調査② - データ収集、調査等 -	グループワーク	
13	グループ調査③ - データ収集、調査等 -	グループワーク	
14	グループ調査報告① - パワーポイントによる報告 -	グループワーク	
15	グループ調査報告② - パワーポイントによる報告 -	グループワーク	
16	講義のまとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に指定する。		
	学びの手立て 卒業論文の作成を視野に入れつつ、ゼミ（講義）に参加すること。		
	評価 受講態度（50%）、提出物（50%）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I B
-------	-------------------------

※ポリシーとの関連性 研究発表することを学び、研究を更に推し進めると共に人前で自由に発表できる人材を育成する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ダイナミックに成長するアジア諸国の工業化波及は、日本→NIES→ASEAN→中国・ベトナム→ミャンマーへと進んでいる。工業化波及の進展は、プロダクト・サイクル論の一環として捉えることもできるが、日本を起点とした波及サイクルは、現在どこまで進んでいるのか、データ等の分析を通じて検証していく。	講義中は良く聞くことに重点を置いて受講してください。また、プレゼンテーションを行う場合は、十分な準備をして臨んでください。
到達目標	本演習を通して ①プレゼンテーションの際にはパワーポイントを使用する。 ②アジア経済と日本経済の関わりについて学んでいく。 ③アジア各国の発展段階がどのような位置にあるのか、またどのような問題を抱えているのかを研究する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 研究対象分野の選択	日本経済新聞の検索
	2	第2週 各人の研究テーマの設定	同上
	3	第3週 研究方法の説明とプレゼンテーションの方法	同上
	4	第4週 研究調査・文献検索図書館	同上
	5	第5週 第1回発表会	財務省データ閲覧
	6	第6週 第2回発表会	同上
	7	第7週 第3回発表会	同上
	8	第8週 第4回発表会	同上
	9	第9週 第5回発表会	世界経済白書閲覧
	10	第10週 第6回発表会	同上
	11	第11週 第7回発表会	同上
	12	第12週 第8回発表会	同上
	13	第13週 第9回発表会	厚生労働白書閲覧
14	第14週 第10回発表会	同上	
15	第15週 第11回発表会	同上	
16	第16週 まとめ 前期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など 渡辺 利夫編『アジアの経済読本』[第4版] 東洋経済 1. 経済白書 2. 世界経済白書 3. 東アジア長期統計 [台湾]		
	学びの手立て 1. 出欠確認は毎回厳格に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は、必ずメールにて連絡してください。 2. 授業中は集中して他の人の発表を聞き、演習ノートを作成してください。 3. プレゼンテーションに対して、質問のある人は発表後に質問してください。		
	評価 1. プレゼンテーションを行うこと (50%) 2. 質疑応答を行うこと。(20%) 3. 出席すること。(10%) 4. 専門用語試験 (20%) 5. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1. アジア関連文献を多く読むこと。 2. 日本経済新聞を毎日読破する。
-------	--



※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①理論的に考える力  
②現状を分析する力 ③問題解決策を提言する力

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	長嶋 佐央里	3年	オフィスアワー：木曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、2年次までに学んだ経済学の理論、手法、知識を再確認しながら、沖縄県や日本、諸外国の財政に係わる経済社会問題について、新聞記事を読む、また専門書を輪読することで、さまざまな角度から理解を深めていきます。担当者が要旨・解説・問題提起をし、それに対し議論することで、プレゼンテーションや議論の能力、経済社会現象に対する見方・考え方を高めていきます。	この授業は、少人数のゼミナールという形式で行われます。教員の側からの一方的な講義形式の授業ではなく、共同研究の場であり、個人が勉強したり研究した成果を持ち寄り、討論し、議論し、協力して作業したり、行動したりするなかで、自分自身のオリジナルなものを見つけ、自己を確立していく場です。ゼミにおいて積極的かつ自主的に行動して、互いに切磋琢磨してください。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済や財政の専門用語、基礎的な理論を用いて経済社会現象を説明することができる。</li> <li>2. 経済や財政に関する現象を発見し、客観的かつ多面的に分析することができる。</li> <li>3. 沖縄県や日本、諸外国の経済や財政に関する問題点を明らかにし、その問題点を経済や財政の専門用語、基礎的な理論を用いて考察し、自身の考えを述べるができる。</li> <li>4. 他の学生の意見を理解して、自らの意見を的確にかつ論理的に述べるができる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方	
2	新聞記事を読む・テキストを輪読する①	○新聞記事を読む	
3	新聞記事を読む・テキストを輪読する②	・担当者は、形式にしたがって資料を作成し、問題提起をする	
4	新聞記事を読む・テキストを輪読する③		
5	新聞記事を読む・テキストを輪読する④		
6	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑤	○テキストを輪読する	
7	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑥	・担当者は、指定箇所について形式にしたがって資料を作成し、問題提起をする	
8	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑦		
9	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑧	・担当者以外の学生は、指定箇所を読み、疑問点や意見をまとめる	
10	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑨		
11	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑩		
12	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑪		
13	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑫		
14	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑬		
15	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑭		
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは演習開始時に指示します。 参考文献は授業で適宜紹介します。		
	学びの手立て		
	【履修の心構え】		
	・授業回数の3分の2の出席に満たない者は単位を修得することはできません。		
	・この授業では、学生の多様な考え方や経験を尊重します。学生のみならず、自分と異なる考え方や経験を尊重し、ともに学び合う雰囲気にご協力ください。しかし、誰かを傷つける差別的な言動は受け入れられないことを理解しておいてください。		
	【学びを深めるために】		
	・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、さまざまな時事問題に関心を持ってほしいと思います。		
	評価		
	・授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。		
	・担当する「報告」（作成した資料を含む）70%、発言など授業での「平常点」30%で評価します。		
	・到達目標1、2、3は「報告」、到達目標4は「平常点」で確認します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「専門演習 I A」「専門演習 I B」は、4年次の「専門演習 II A」「専門演習 II B」の先修科目として位置づけられています。3年次で習得した力・スキルをさらに向上させてください。</li> <li>・「専門演習 I A」「専門演習 I B」で習得した力・スキルは、履修するすべての講義で活用し、さらに自身の能力を高めてください。</li> </ul>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	3年		

学びの準備	ねらい 金融市場・経済問題を調査するために、必要な基礎力をつける。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 金融市場・経済問題に関する文献を読んだ上で、 報告・議論を行う。 自分の考えを伝える練習を行う。
	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。
-------	------------------------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 出席状況、発表、参加姿勢、提出物に基づき評価する。
-------	---------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	3年		

学びの準備	ねらい 3年次の専演習 I Bは原則として4年次の演習 II A, II Bへと持ち上がりになります。演習（ゼミナール）というのは、討論や共同作業を通して学生同士が学びあい、各自の認識を深めるというのが目的ですから、できるだけ率直に積極的に話をするのが大事です。いろいろな意見やセンスの持ち主が集まって議論が活発になったらいいと思います。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 未定 未定		
	学びの手立て		
	評価 レポート 50%、演習への参加姿勢(出席、発言、発表の出来不出来等) 50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

経済・社会の問題を論理的に考え、意見を述べ、問題解決の方法を提案する力を養う。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 演習 I Aでの学習を踏まえて、後期ではグループ別に興味のあるテーマについて調査を行い、その結果を発表・討議する。また、グループ活動を通して各自の卒論のテーマについても考えていく。	メッセージ グループによる調査、発表が主になるので、グループメンバーの役割分担をしっかりと行い、各自が積極的に参加することが大切。また、途中でスポーツ大会やレクレーションなどで親睦を深めることも必要。
	到達目標 経済・社会の問題を論理的に考えることができる。 学生同士協力しながら、問題解決の方法を提案することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義予定など）	
	2	夏休み課題の発表とディスカッション	課題について考える
	3	外部講師による講義	講義テーマについて質問表作成
	4	グループによる調査研究 I（テーマ選択、研究の企画づくり）	テーマについて議論、企画書作成
	5	同上	同上
	6	グループによる調査研究 II（テーマに基づき統計データなどを収集し、分析する）	統計資料等調べる
	7	同上	同上
	8	グループによる調査研究 III（企業訪問、アンケート実施など）	企業訪問準備、アンケート作成
	9	同上	企業訪問、アンケート実施
	10	同上	同上
	11	中間発表	中間発表準備
	12	グループによる調査研究 IV（中間発表による反省を踏まえ、テーマを深堀していく）	報告まとめ
	13	同上	同上
	14	テーマについてグループ同士のディスカッション	発表に向けた準備
15	最終発表会	発表のリハーサル	
16	後期の反省および総括	卒論テーマを考える	
	テキスト・参考文献・資料など 特になし 適宜紹介する		
	学びの手立て 講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。 毎回のゼミにおいては、目的意識を持って臨むようにする。		
	評価 発表への積極性、討議内容、出席及びレポートを総合的に評価する。 講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年次における、卒論、就活の取り組みが明確な目標のもとできる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	3年		

学びの準備	ねらい 専門演習 I Aに引き続き、沖縄の将来の方向性について考えていく。沖縄の現在の経済状況、将来の可能性を見据えた上で、今後どのような選択肢が沖縄にあるのか、それぞれの選択肢の可能性について学習、報告し皆で議論する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週目：ガイダンス 2週目以降：各グループに分け、テーマを設定した後に、グループ毎に学習し、内容を報告する。それを皆で議論する。
	テキスト・参考文献・資料など 特になし 特になし。
	学びの手立て
	評価 授業への参加度を最も重視する。ゼミにおける真摯な態度、積極性、他の人への影響度を見た上で総合的に評価。出席回数が3分の2に満たない場合や出席態度が不良の場合は不可とする。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	3年		

学びの準備	ねらい 金融市場・経済問題を調査するために、必要な基礎力をつける。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 金融市場・経済問題に関する文献を読んだ上で、 報告・議論を行う。 自分の考えを伝える練習を行う。
	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。
	学びの手立て

学びの実践	
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの実践	評価 出席状況、発表、参加姿勢、提出物に基づき評価する。
-------	---------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------



※ポリシーとの関連性 研究発表することを学び、研究を更に推し進めると共に人前で自由に発表できる人材を育成する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ダイナミックに成長するアジア諸国の工業化波及は、日本→NIES→ASEAN→中国・ベトナム→ミャンマーへと進んでいる。工業化波及の進展は、プロダクト・サイクル論の一環として捉えることもできるが、日本を起点とした波及サイクルは、現在どこまで進んでいるのか、データ等の分析を通じて検証していく。	講義中は良く聞くことに重点を置いて受講してください。また、プレゼンテーションを行う場合は、十分な準備をして臨んでください。
到達目標	本演習を通して ①プレゼンテーションの際にはパワーポイントを使用する。 ②アジア経済と日本経済の関わりについて学んでいく。 ③アジア各国の発展段階がどのような位置にあるのか、またどのような問題を抱えているのかを研究する。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	第1週 研究発表について	日本経済新聞の検索	
	2	第2週 第1回発表会	同上	
	3	第3週 第2回発表会	同上	
	4	第4週 第3回発表会	同上	
	5	第5週 第4回発表会	財務省データ閲覧	
	6	第6週 第5回発表会	同上	
	7	第7週 第6回発表会	同上	
	8	第8週 中間まとめ	同上	
	9	第9週 第7回発表会	世界経済白書閲覧	
	10	第10週 第8回発表会	同上	
	11	第11週 第9回発表会	同上	
	12	第12週 第10回発表会	同上	
	13	第13週 第11回発表会	厚生労働白書閲覧	
	14	第14週 第12回発表会	同上	
15	第15週 第13回発表会	同上		
16	まとめ			
実践	テキスト・参考文献・資料など	渡辺 利夫編『アジア経済読本』〔第4版〕東洋経済 1. 経済白書 2. 世界経済白書 3. 東アジア長期統計		
	学びの手立て	1. 出欠確認は毎回厳格に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は、必ずメールにて連絡してください。 2. 授業中は集中して他の人の発表を聞き、演習ノートを作成してください。 3. プレゼンテーションに対して、質問のある人は発表後に質問してください。		
	評価	1. プレゼンテーションを行うこと (50%)      2. 質疑応答を行うこと。(20%) 3. 出席すること。(10%)                              4. 専門用語の試験(20%) 5. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1. アジア関連文献を多く読むこと。 2. 日本経済新聞を毎日読破する。
-------	--



※ポリシーとの関連性 この授業では次の力・スキルを育成します。①理論的に考える力  
②現状を分析する力 ③問題解決策を提言する力

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	長嶋 佐央里	3年	オフィスアワー：木曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、3年前期までに学んだ経済学の理論、手法、知識を再確認しながら、学生がそれぞれの興味関心にもとづいて、具体的な現実の経済問題について自主的に研究を進めていき、最終的にゼミ論文を完成させます。ゼミ論文は卒業論文につながるものです。各自設定したテーマを深く掘り下げて調査・分析を行い、発表し、討議することで、より優れたゼミ論文を完成できるようにします。	この授業は、少人数のゼミナールという形式で行われます。教員の側からの一方的な講義形式の授業ではなく、共同研究の場であり、個人が勉強したり研究した成果を持ち寄り、討論し、議論し、協力して作業したり、行動したりするなかで、自分自身のオリジナルなものを見つけ、自己を確立していく場です。ゼミにおいて積極的かつ自主的に行動して、互いに切磋琢磨してください。
	到達目標	
	1. ゼミ論文のテーマの設定、研究計画と論文構成の構築、先行研究を経て、作成中のゼミ論文を指定した条件でプレゼンテーションすることができる。 2. ゼミ論文のテーマについて、経済や財政の専門用語、基礎的な理論を用いて考察し、自身の考えを述べることができる。 3. 他の学生のゼミ論文の中間報告において、互いに適切なアドバイスをすることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方	
	2	ゼミ論文の作成のしかた	ゼミ論文の進捗状況の報告①～⑬
	3	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導①	・報告担当者は形式にしたがひ、
	4	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導②	発表の準備をする
	5	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導③	・報告者以外の学生も含め、すべて
	6	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導④	の学生がゼミ論文の作成を進める
	7	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導⑤	
	8	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導⑥	
	9	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導⑦	
	10	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導⑧	
	11	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導⑨	
	12	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導⑩	
	13	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導⑪	
14	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導⑫		
15	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導⑬		
16	ゼミ論文の提出	ゼミ論文を完成する	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは演習開始時に指示します。 参考文献は以下のほか、授業で適宜紹介します。 【参考文献】 ・白井利明・高橋一郎．2013年．『よくわかる卒論の書き方』第2版．ミネルヴァ書房．		
	学びの手立て		
	【履修の心構え】 ・授業回数3分の2の出席に満たない者は単位を修得することはできません。 ・この授業では、学生の多様な考え方や経験を尊重します。学生のみならず、自分と異なる考え方や経験を尊重し、ともに学び合う雰囲気にご協力ください。しかし、誰かを傷つける差別的な言動は受け入れられないことを理解しておいてください。 【学びを深めるために】 ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、さまざまな時事問題に関心を持ってほしいと思います。		
	評価		
	・授業回数3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。 ・提出した「ゼミ論文」50%、ゼミ論文の「進捗状況の報告」20%、発言など授業での「平常点」30%で評価します。 ・到達目標1、2は「ゼミ論文の報告」「進捗状況の報告」のそれぞれにおいて、到達目標3は「平常点」で確認します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・「専門演習 I A」「専門演習 I B」は、4年次の「専門演習 II A」「専門演習 II B」の先修科目として位置づけられています。3年次で習得した力・スキルをさらに向上させてください。 ・「専門演習 I A」「専門演習 I B」で習得した力・スキルは、履修するすべての講義で活用し、さらに自身の能力を高めてください。
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学の専門的知識を学び、その視座から経済社会を読み解く力を身につけ、他者と議論する力を養います。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	3年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習で学んできたことをベースに、各自でテーマを持ち、問題関心を深め、情報を分析し、プレゼン、ディスカッション能力の向上を図っていきます。沖縄経済や県内の地域づくりの事例などを学び、社会との関わり方を学んでいくため、課外活動等を積極的に取り入れます。4年次の卒業論文作成に向けた準備を行います。	専門演習では、個人の関心をベースにしたテーマ設定を行い、そのテーマに基づき、課題深めていきます。3年次から4年次の卒業論文作成に向けた準備をすることで、大学での学びを一つの成果にまとめていくことを意識します。より現実的な問題意識を持たせるため、実践的な活動（課外）を盛り込んでいきます。
到達目標	①自ら課題を設定し、情報収集と分析を通じて知見を深めていくことができる。 ②体系的な理解に努め、課題解決に向けた思考方法を身につけることができる。 ③他者の示したテーマに関して積極的に意見交換し、問題意識の共有と理解を図り、社会問題全般に関心を払うことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー前期演習を振り返って	シラバスを読む
	2	個別テーマの設定ーマインドマップ作成と課題設定	経済時事関係の情報収集
	3	個別テーマの設定ー構想・計画づくり	テーマ設定と調査方法の検討
	4	研究テーマの報告①	テーマに関する論点整理
	5	研究テーマの報告②	テーマに関する論点整理
	6	研究テーマの報告③	テーマに関する論点整理
	7	研究テーマの報告④	テーマに関する論点整理
	8	研究テーマの報告⑤	テーマに関する論点整理
	9	個人研究テーマに関する文献紹介とディスカッション①	先行研究と関連資料の整理
	10	個人研究テーマに関する文献紹介とディスカッション②	先行研究と関連資料の整理
	11	個人研究テーマに関する文献紹介とディスカッション③	先行研究と関連資料の整理
	12	個人研究テーマに関する文献紹介とディスカッション④	先行研究と関連資料の整理
	13	個人研究テーマに関する文献紹介とディスカッション⑤	先行研究と関連資料の整理
	14	個人研究テーマに関する文献紹介とディスカッション⑥	先行研究と関連資料の整理
15	後期演習の振り返りと次年度に向けて	卒論テーマについて考える	
16	※上記演習計画とは別に学外者との協働プロジェクトによる課外活動も行います。		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ※テキストは特に指定しないが、各自関心のあるテーマに関する文献・論文を紹介してもらい、それらを演習の 際活用することがある。
-------	---

学びの手立て	○履修の心構え 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。 テーマ設定を行い、一つの課題を深めていく作業、継続して考え抜く力をつけていきます。 ○学びを深めるために 問題発見と解決に向けた課題設定は一つとは限りません。一つもテーマに対し、考え続ける力も必要です。
--------	---

評価	演習への参加態度、発言・発表内容等から総合的に評価する。 ※欠席が3分の1を超える場合は「不可」
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年次の専門演習 II A、II Bにおいて、卒業論文作成にあたる
-------	--

※ポリシーとの関連性 「主体的に調査・研究」しつつ、「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	3年	研究室 (5629)、またはmurakami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。”</p> <p>本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り</p>	<p>1) 失敗を恐れずプレゼンテーションを実施してほしい。</p> <p>2) 積極的な質疑応答を期待する。</p>
到達目標	<p>1) ビジネスマナーを身につける。</p> <p>2) 受講前より、主体性、傾聴力、発信力、協調性などが身につく。</p> <p>3) 就職活動や進学など自らの進路を考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	報告割当、連絡事項ほか	配布物の精読
	2	報告・ディスカッション (1)	プレゼンとQ&A技法の構築
	3	報告・ディスカッション (2)	プレゼンとQ&A技法の構築
	4	報告・ディスカッション (3)	プレゼンとQ&A技法の構築
	5	報告・ディスカッション (4)	プレゼンとQ&A技法の構築
	6	報告・ディスカッション (5)	プレゼンとQ&A技法の構築
	7	報告・ディスカッション (6)	プレゼンとQ&A技法の構築
	8	課外授業または社会人特別講師の授業	Q&A技法の構築
	9	報告・ディスカッション (7)	プレゼンとQ&A技法の構築
	10	報告・ディスカッション (8)	プレゼンとQ&A技法の構築
	11	報告・ディスカッション (9)	プレゼンとQ&A技法の構築
	12	報告・ディスカッション (10)	プレゼンとQ&A技法の構築
	13	報告・ディスカッション (11)	プレゼンとQ&A技法の構築
14	報告・ディスカッション (12)	プレゼンとQ&A技法の構築	
15	専門演習 I B の反省会・総括		
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	参考になる文献は適宜紹介する。		
学びの手立て	<p>①履修の心構え 単に出席しているだけでは単位の修得にはつながらない。積極的にプレゼンを実施するとともに、プレゼンを受ける場合は積極的な質問を心がける。</p> <p>②学びを深めるために 働く意味を考える。正課内外のキャリアについて意味づけをしてもらいたい。</p>		
評価	出席 (30%)、レジュメやパワーポイントによるプレゼンテーション (40%)、課外学習における諸活動 (30%) を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II A、キャリア支援課の利活用、就職や進学に向けた情報収集
-------	--

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学の専門的知識を学び、その視座から経済社会を読み解く力を身につけ、課題解決に向けた提案力を養います。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	4年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習Ⅰで学んできたことをベースに、テーマを深め、情報分析し、まとめ、ディスカッションを通じて、大学での学びの成果を卒業論文という形で結集していくことを目的とします。</p>	<p>卒業論文作成には自ら仮説を立て、検証のための情報収集と分析を行い、その結果を言葉としてまとめていく一連の作業が求められます。与えられた課題ではなく、自ら設定した課題に解決策を考えていくことにより今後の社会生活をおくる上で重要な能力を身につけることができます。根気強く取り組みましょう。</p>
到達目標	<p>①自ら仮説を設定し、テーマに関する文献収集、調査・検証を行い、卒業論文を作成することができる。 ②論理的かつ説得的に卒業論文についてプレゼンテーションを行うことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー卒業論文作成に向けて	シラバスを読む
	2	卒業論文の作成についてーテーマと計画づくり、工程確認	テーマ確認と計画づくり
	3	卒業論文計画づくりー全体構想、構成の確認	構想を練る。
	4	卒業論文構想に関する報告①	全体構成と文献の精査
	5	卒業論文構想に関する報告②	全体構成と文献の精査
	6	卒業論文構想に関する報告③	全体構成と文献の精査
	7	卒業論文構想に関する報告④	全体構成と文献の精査
	8	卒業論文構想に関する報告⑤	全体構成と文献の精査
	9	卒業論文構想に関する報告⑥	全体構成と文献の精査
	10	卒業論文に関する中間報告①	中間報告準備
	11	卒業論文に関する中間報告②	中間報告準備
	12	卒業論文に関する中間報告③	中間報告準備
	13	卒業論文に関する中間報告④	中間報告準備
14	卒業論文に関する中間報告⑤	中間報告準備	
15	卒業論文作成に関しての確認事項について	中間報告準備	
16	※個々人の進捗状況に応じて執筆指導を行う。		
テキスト・参考文献・資料など	※テキストは特に指定しないが、卒論テーマに関する文献・論文を紹介を通じて関連文献を適宜とりあげる。		
学びの手立て	<p>○履修の心構え 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。卒論作成を通して、一つのテーマに関して考え抜く力を養います。</p> <p>○学びを深めるために 忍耐強く問題と向き合うことにより、社会人に求められる課題解決能力を醸成することができます。</p>		
評価	<p>卒業論文の提出と報告が本演習の評価基準となる。 また、演習への参加態度、発言・発表内容等についても到達目標②に関連して評価する。 ※欠席が3分の1を超える場合は「不可」</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒論作成作業を通じて、課題解決に向けて考え抜く社会人基礎力の醸成します。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	4年		

学びの準備	ねらい 3年次の演習Ⅰに引き続いて、各自の興味を持ったテーマに沿って研究成果を発表してもらいます。グループでの研究・発表でもかまいません。演習での活発な討論を通して、完成度が高くなったら、卒業論文にしましょう。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など なし。 演習中、必要に応じて、あるいはメンバーの要望に応じて紹介します。
-------	---

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 レポート40%、演習への参加姿勢（出席、発言、発表の出来不出来、積極性）60%
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①理論的に考える力  
②現状を分析する力 ③問題解決策を提言する力

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	長嶋 佐央里	4年	オフィスアワー：木曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、3年次までに学んだ経済学の理論、手法、知識を再確認しながら、卒業論文の完成に向けて、学生がそれぞれの興味関心にもとづいて、具体的な現実の経済問題について自主的に研究を進めていきます。各自設定した研究テーマを深く掘り下げて調査・分析を行い、発表し、討議することで、専門知識の理解を深め、問題意識を高めていきます。	この授業は、少人数のゼミナールという形式で行われます。教員の側からの一方的な講義形式の授業ではなく、共同研究の場であり、個人が勉強したり研究した成果を持ち寄り、討論し、議論し、協力して作業したり、行動したりするなかで、自分自身のオリジナルなものを見つけ、自己を確立していく場です。ゼミにおいて積極的かつ自主的に行動して、互いに切磋琢磨してください。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>3年次に作成した卒業論文のもとになるゼミ論文を指定した条件でプレゼンテーションすることができる。</li> <li>卒業論文のテーマの設定、研究計画と論文構成の構築、先行研究を行い、作成中の卒業論文を指定した条件でプレゼンテーションすることができる。</li> <li>卒業論文のテーマについて、経済や財政の専門用語、基礎的な理論を用いて考察し、自身の考えを述べることができる。</li> <li>他の学生の卒業論文の進捗状況の報告において、適切なアドバイスをすることができる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方	
	2	ゼミ論文の講評・卒業論文の進め方	
	3	ゼミ論文の報告①	○ゼミ論文の報告①～⑥
	4	ゼミ論文の報告②	・報告担当者は形式にしたがい、発表の準備をする
	5	ゼミ論文の報告③	
	6	ゼミ論文の報告④	
	7	ゼミ論文の報告⑤	
	8	ゼミ論文の報告⑥	
	9	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導①	○卒業論文の進捗状況の報告①～⑥
	10	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導②	・報告担当者は形式にしたがい、発表の準備をする
	11	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導③	
	12	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導④	
	13	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑤	※報告者以外の学生も含め、すべての学生が卒業論文の作成を進める
	14	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑥	
15	総括		
16			

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは使用しません。参考文献は以下のほか、授業で適宜紹介します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白井利明・高橋一郎. 2013年. 『よくわかる卒論の書き方』第2版. ミネルヴァ書房.</li> </ul>
----	---

学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業回数の3分の2の出席に満たない者は単位を修得することはできません。</li> </ul> <p>【学びを深めるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年間の勉学の集大成としての「卒業論文」を完成させるためには、自分にとって最も関心のある研究テーマが何かをよく考え、教員と相談をし、指導を受けてください。就職活動で忙しい時期となりますので、計画を立てて、着実に研究を進めていくことが肝心です。</li> </ul>
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。</li> <li>・「ゼミ論文の報告」30%、卒業論文の「進捗状況の報告」40%、発言などの授業での「平常点」30%で評価します。</li> <li>・到達目標1は「ゼミ論文の報告」、到達目標2、3は「進捗状況の報告」、到達目標4は「平常点」で確認します。</li> </ul>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「専門演習ⅡA」で習得した力・スキルを活用し、卒業論文を作成してください。</li> <li>・「専門演習ⅡA」で習得した力・スキルは、履修するすべての講義で活用し、さらに自身の能力を高めてください。</li> <li>・社会のさまざまな場面で習得した力・スキルを活用し、さらに自身の能力を高めてください。</li> </ul>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	4年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまでの研究で積み上げてきたものを更に掘り下げ、卒業論文として仕上げていくことを目標にし、前期においては、中間報告の形で発表してもらう。</p> <p>到達目標 本演習を通して ①プレゼンテーションの際パワーポイントを使用する方法について学ぶ。 ②アジア経済の全体像を理解する。 ③アジア各国が抱えている問題点を理解する。</p>	<p>前期では中間発表を行う。その為、自分のプレゼンテーションでは、十分な準備で臨むようにしてください。また、他の人のプレゼンテーションにも注意を払い、ゼミノートを作り、疑問点に対しては質問をしてください。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 論文作成の参考文献等の研究	
	2	第2週 第1回研究発表会	日本経済新聞検索
	3	第3週 第2回研究発表会	(1~3週)
	4	第4週 第3回研究発表会	
	5	第5週 第4回研究発表会	財務省データ閲覧
	6	第6週 第5回研究発表会	(4~6週)
	7	第7週 第6回研究発表会	
	8	第8週 第7回研究発表会	経済白書データ閲覧
	9	第9週 第8回研究発表会	(7~9週)
	10	第10週 第9回研究発表会	
	11	第11週 第10回研究発表会	世界経済白書各年版閲覧
	12	第12週 第11回研究発表会	(10~13周)
	13	第13週 第12回研究発表会	
14	第14週 第13回研究発表会	厚生労働白書各年版閲覧	
15	第15週 第14回研究発表会	(14~15周)	
16	第16週 まとめ	演習ノートチェック	
テキスト・参考文献・資料など			
渡辺利夫編『アジア経済読本』第4版 東洋経済 アジア動向年報各版 アジア経済研究所出版文献を参考にする。			
学びの手立て			
1. 出欠確認は毎回厳格に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールにて連絡してください。 2. 授業中は集中して他の人の発表を聞き、演習ノートを作成してください。 3. プレゼンテーションに対して質問のある人は、発表後に質問してください。			
評価			
1. 出席回数 (20%) 2. プレゼンテーション (50%) 3. 質問及び解説を行う。 (30%) 4. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しなし。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 世界経済の中で、アジア経済がどのような変化を遂げているのかを注視し、その影響について考えてほしい。 関連科目 国際経済論、日本経済論、
-------	---

※ポリシーとの関連性 「主体的に調査・研究」した成果を卒業論文にまとめ、各自の「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	4年	研究室(5629)、またはmurakami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は、就職や進学を控えた4年次生を対象に開講される。4年間の学業の総括を「卒業論文」に成就させていく。実際には専門演習ⅡBにて提出するが、前期開講科目である本演習は、卒業論文の中間発表も行っていく。4月から7月までの間、各自毎月1回以上の中間報告(テーマ、章節など)を義務づける。	1)卒業論文は1.2万字以上を条件とする。 2)指定期日までに完全原稿として提出すること。 3)経済学科での学びの集大成として卒業論文の作成に取り組んでもらいたい。
到達目標	1)設定した研究テーマに対するアプローチの方法が定まっている。 2)卒業論文の骨組み(章や節)ができていく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(前期)	マニュアルの精読、情報収集
	2	卒業研究の意義と報告割当 - 研究テーマの設定 -	情報収集、卒業論文執筆
	3	研究テーマの報告・ディスカッション(1)	情報収集、卒業論文執筆
	4	研究テーマ報告・ディスカッション(2)	情報収集、卒業論文執筆
	5	研究テーマの報告・ディスカッション(3)	情報収集、卒業論文執筆
	6	研究テーマの報告・ディスカッション(4)	情報収集、卒業論文執筆
	7	研究テーマの報告・ディスカッション(5)	情報収集、卒業論文執筆
	8	工場見学または社会人特別講師による授業	講義ノートの精読
	9	研究テーマの報告・ディスカッション(6)	情報収集、卒業論文執筆
	10	研究テーマの報告・ディスカッション(7)	情報収集、卒業論文執筆
	11	研究テーマの報告・ディスカッション(8)	情報収集、卒業論文執筆
	12	研究テーマの報告・ディスカッション(9)	情報収集、卒業論文執筆
	13	研究テーマの報告・ディスカッション(10)	情報収集、卒業論文執筆
14	研究テーマの報告・ディスカッション(11)	情報収集、卒業論文執筆	
15	前期のまとめ	情報収集、卒業論文執筆	
16	予備日	情報収集、卒業論文執筆	
テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて適宜紹介する。		
学びの手立て	1)履修の心構え 単に出席するだけでは、単位の修得にはつながらない。自宅を中心に卒業論文のための情報収集そして執筆を心がけてもらいたい。 2)学びを深めるために インターネットの情報だけではなく、図書館の利用も心がけてもらいたい。		
評価	出席状況(50%)、毎月の卒業論文の中間報告(50%)の割合で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅡB、キャリア支援課の利活用、就職や進学に向けた情報収集および実践
-------	--



※ポリシーとの関連性

卒論作成を通して、経済・社会における問題を見つけ、論理的に考察し、明確な論理構成にもとづく文書作成力を磨く。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	4年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習Ⅰでは、沖縄の産業及び労働雇用問題に対する共通認識を踏まえ、グループでそれぞれのテーマにもとづき、アンケートやインタビュー調査等の実態調査を行った。専門演習Ⅱでは、各自設定したテーマを深く掘り下げて詳細な調査・分析を行い、卒業論文を作成する。特にテーマの制限はしない。各自で興味・関心のあるテーマを選ぶ。</p>	<p>大学の最終学年であり、これまで学んできた集大成を発揮するように卒論に取り組む。また、同時に就活にも積極的に取り組み、内定を確保して卒業できることを目指してください。</p>
到達目標	<p>経済・社会における問題・課題を自ら発見することができる。 問題解決のための調査とそれを踏まえた提案をすることができる。 自らの考えを発表し論文を作成することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	卒論のテーマを考える
	2	論文テーマの報告	同上
	3	調査方法等に関する討論	様々な調査方法を調べる
	4	同上	同上
	5	同上	同上
	6	各自の調査分析をもとにした報告とディスカッション	テーマに基づき調べる
	7	同上	同上
8	同上	同上	
9	同上	同上	
10	同上	同上	
11	同上	同上	
12	同上	同上	
13	同上	同上	
14	同上	同上	
15	同上	同上	
16	前期の振り返りと総括	卒論テーマの発表	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>論文作成のための討議を中心とするため特に指定しない。 必要に応じて論文作成に必要な資料、文献等を紹介する。</p>		
	<p>学びの手立て</p> <p>早い段階で卒論のテーマを決めること。 毎回出席し、自分の発表はもちろん他の学生の発表を聞き、積極的に発言すること。 卒論を作成に当たっては、ヒアリングやアンケート調査などの実態調査など、講義外での取り組みも重要になる。</p>		
	<p>評価</p> <p>論文のプレゼンや討議内容、出席及び論文内容を総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>経済学の学位を授与するにふさわしい能力を有し、社会に貢献できる人材となることを目指す。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	4年		

学びの準備	ねらい 3年次に学習してきたことを基にいくつかのグループに分かれ、ゼミ論を作成する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1回 オリエンテーション 2回 グループ分けと報告割り当て 3回～16回 報告・ディスカッション
	テキスト・参考文献・資料など 特になし 特になし

学びの実践	学びの手立て
	評価 課題発表の内容、参加姿勢、出席状況

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	4年		

学びの準備	ねらい 「経済問題・金融市場」に関する卒業論文を作成・報告する。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 前期（ⅡA）：卒業論文のテーマを決め、資料収集を行う 構想をまとめ、中間報告する。 後期（ⅡB）：卒業論文を作成する。 卒論判定を経て、卒論報告を行う。
	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。
-------	------------------------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 出席状況、報告、卒業論文に基づき評価する。
-------	-----------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	4年		

学びの準備	ねらい 3年次の演習Ⅰに引き続いて、各自の興味を持ったテーマに沿って研究成果を発表してもらいます。グループでの研究・発表でもかまいません。演習での活発な討論を通して、完成度が高くなったら、卒業論文にしましょう。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など なし。 演習中、必要に応じて、あるいはメンバーの要望に応じて紹介します。
-------	---

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 レポート40%、演習への参加姿勢（出席、発言、発表の出来不出来、積極性）60%
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

卒論作成を通して、経済・社会における問題を見つけ、論理的に考察し、明確な論理構成にもとづく文書作成力を磨く。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	4年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習ⅡAで行った基礎調査や報告を踏まえ、卒業論文を仕上げていく。大学4年間の集大成として卒業論文を仕上げることでできるよう、指導・助言を行っていきたい。	メッセージ 大学の最終学年であり、これまで学んできた集大成を発揮するように卒論に取り組む。また、同時に就活にも積極的に取り組み、内定を確保して卒業できることを目指してください。息抜きのリフレッシュなども自主的に企画することを望む。
	到達目標 経済・社会における問題・課題を自ら発見することができる。問題解決のための調査とそれを踏まえた提案をすることができる。自らの考えを発表し論文を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	卒論テーマ確定
	2	卒論形式、卒論の書き方について	卒論項目案を考える
	3	卒論の経過報告とディスカッション	卒論計画書作成
	4	同上	卒論作成
	5	同上	同上
	6	同上	同上
	7	同上	同上
	8	同上	同上
9	卒論の中間発表Ⅰ	発表の準備	
10	卒論の中間発表Ⅱ	同上	
11	卒論の経過報告とディスカッション	卒論作成	
12	同上	卒論作成	
13	同上	卒論作成	
14	卒論の仮提出	卒論作成	
15	仮提出に基づく修正	卒論作成と修正	
16	卒論最終提出	卒論完成に向けた作業	
	テキスト・参考文献・資料など 論文作成のための討議を中心とするため特に指定しない。必要に応じて論文作成に必要な資料、文献等を紹介する		
	学びの手立て 毎回出席し、自分の発表はもちろん他の学生の発表を聞き、積極的に発言すること。卒論を作成に当たっては、ヒアリングやアンケート調査などの実態調査など、講義外での取り組みも重要になる。		
	評価 卒業論文のプレゼンや討議内容、出席及び論文内容を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済学の学位を授与するにふさわしい能力を有し、社会に貢献できる人材となることを目指す。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	4年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習Ⅰで学んできたことをベースに、テーマを深め、情報分析し、まとめ、ディスカッションを通じて、大学での学びの成果を卒論という形で結集していくことを目的とします。	メッセージ 卒業論文作成には自ら仮説を立て、検証のための情報収集と分析を行い、その結果を言葉としてまとめていく一連の作業が求められます。与えられた課題ではなく、自ら設定した課題に解決策を考えていくことにより今後の社会生活をおくる上で重要な能力を身につけることができます。根気強く取り組みましょう。
	到達目標 ①自ら仮説を設定し、テーマに関する文献収集、調査・検証を行い、卒業論文を作成することができる。 ②論理的かつ説得的に卒業論文についてプレゼンテーションを行うことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー卒業論文の執筆について	前期の振り返り
	2	卒業論文の中間報告①	先行研究整理、調査分析結果の確認
	3	卒業論文の中間報告②	先行研究整理、調査分析結果の確認
	4	卒業論文の中間報告③	先行研究整理、調査分析結果の確認
	5	卒業論文の中間報告④	先行研究整理、調査分析結果の確認
	6	卒業論文の中間報告⑤	先行研究整理、調査分析結果の確認
	7	卒業論文の執筆指導の進捗確認①	卒論指導
	8	卒業論文の執筆指導の進捗確認②	卒論指導
9	卒業論文の執筆指導の進捗確認③	卒論指導	
10	卒業論文の執筆指導の進捗確認④	卒論指導	
11	卒業論文の執筆指導の進捗確認⑤	卒論指導	
12	卒業論文の報告に向けた準備①ー論文作成	卒論添削等への対応	
13	卒業論文の報告に向けた準備②ー論文作成	卒論添削等への対応	
14	卒業論文の報告に向けた準備③ー論文作成	卒論添削等への対応	
15	卒論提出	卒論、体裁等の確認	
16	※個々人の進捗状況に応じて執筆指導を行う。		
実践	テキスト・参考文献・資料など ※テキストは特に指定しないが、卒論テーマに関する文献・論文を紹介を通じて関連文献を適宜とりあげる。		
	学びの手立て ○履修の心構え 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。 卒論作成を通して、一つのテーマに関して考え抜く力を養います。 ○学びを深めるために 忍耐強く問題と向き合うことにより、社会人に求められる課題解決能力を醸成することができます。		
	評価 卒論提出を必須とします。 達成度に関しては卒論中間報告と内容、演習への参加態度、発言・発表内容等から総合的に評価します。 ※欠席が3分の1を超える場合は「不可」		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒論作成作業を通じて、課題解決に向けて考え抜く社会人基礎力の醸成します。
-------	---

※ポリシーとの関連性

「主体的に調査・研究」した成果を卒業論文にまとめ、「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	4年	研究室(5629)、またはmurakami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文の作成は、大学生生活の総決算の意味も持ち合わせている。専門演習ⅡAとともに、また大学で何を学んだかも併せ持って執筆に臨んでもらいたい。卒業論文の提出までには、次の3段階を踏まえる必要がある1) 10月から12月までの間、各自毎月1回以上の中間報告(テーマ、章節など)、2) 卒業論文の中間提出(期日厳守)、3) 完成した卒業論文の最終提出(期日厳守)。	1) 卒業論文は1.2万字以上を条件とする。 2) 指定期日までに完全原稿として提出すること。 3) 経済学科での学びの集大成として卒業論文の作成に取り組んでもらいたい。
到達目標	卒業論文の完成、卒業後の進路決定	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(後期)	卒論マニュアルの精読、論文執筆
	2	卒業研究の中間発表の割り当て・解説など	情報収集、卒業論文執筆
	3	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション①	情報収集、卒業論文執筆
	4	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション②	情報収集、卒業論文執筆
	5	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション③	情報収集、卒業論文執筆
	6	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション④	情報収集、卒業論文執筆
	7	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑤	情報収集、卒業論文執筆
8	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑥	情報収集、卒業論文執筆	
9	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑦	情報収集、卒業論文執筆	
10	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑧	情報収集、卒業論文執筆	
11	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑨	情報収集、卒業論文執筆	
12	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑩	情報収集、卒業論文執筆	
13	卒業論文仮提出・修正①	卒業論文の加筆修正	
14	卒業論文仮提出・修正②	卒業論文の加筆修正	
15	卒業論文仕上げ・提出	卒業論文の完成と提出	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜紹介する。		
	学びの手立て 1) 履修の心構え 単に出席するだけでは、単位の修得にはつながらない。自宅を中心に卒業論文のための情報収集そして執筆を心がけてもらいたい。 2) 学びを深めるために インターネットの情報だけではなく、図書館の利用も心がけてもらいたい。		
	評価 出欠状況(50%)、卒業論文(50%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 キャリア支援課の利活用、就職や進学に向けた情報収集および実践
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	4年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 前期で発表した中間報告を基に更に掘り下げ、卒業論文の完成を目指す。	メッセージ 前期は卒業論文の中間発表を行いました。後期はほぼ完成に近い形での発表をパワーポイントを利用して行なう。また、発表の際には、十分な準備を行い臨むようにして下さい。
	到達目標 本演習を通して ①プレゼンテーションの際、パワーポイントを使用する。 ②自分自身の研究テーマの問題点や解決策を考える。 ③自分の卒業論文を完成まで準備する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 論文構成の内容をチェックする	
	2	第2週 第1回研究発表会	発表者の問題点のチェック
	3	第3週 第2回研究発表会	同上
	4	第4週 第3回研究発表会	同上
	5	第5週 第4回研究発表会	同上
	6	第6週 第5回研究発表会	同上
	7	第7週 第6回研究発表会	同上
	8	第8週 第7回研究発表会	同上
	9	第9週 第8回研究発表会	同上
	10	第10週 第9回研究発表会	同上
	11	第11週 第10回研究発表会	同上
	12	第12週 第11回研究発表会	同上
	13	第13週 第12回研究発表会	同上
	14	第14週 第13回研究発表会	同上
	15	第15週 第14回研究発表会	同上
	16	第16週 まとめ	
	テキスト・参考文献・資料など 渡辺利夫編『アジア経済読本』第4版東洋経済 アジア経済研究所出版文献を資料とする。 アジア動向年報 経済評論（学術雑誌）		
	学びの手立て 1. 出欠確認は毎回厳格に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は、必ずメールにて連絡してください。 2. 授業中は集中して他の人の発表を聞き、演習ノートを作成してください。 3. プレゼンテーション発表者に質問がある場合は、発表終了後に質問してください。		
	評価 1. 出席回数（20%） 2. プレゼンテーション（50%） 3. プレゼンに対し質問（30%） 4. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1. アジア関連文献を多く読むこと。 2. 日本経済新聞を毎日読破する。
-------	--



※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①理論的に考える力  
②現状を分析する力 ③問題解決策を提言する力

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	長嶋 佐央里	4年	オフィスアワー：木曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、3年次までに学んだ経済学の理論、手法、知識を再確認しながら、学生がそれぞれの興味関心にもとづいて、具体的な現実の経済問題について自主的に研究を進めていき、最終的に卒業論文を完成させます。各自設定した研究テーマを深く掘り下げて調査・分析を行い、発表し、討議することで、より優れた卒業論文を完成できるようにします。	メッセージ この授業は、少人数のゼミナールという形式で行われます。教員の側からの一方的な講義形式の授業ではなく、共同研究の場であり、個人が勉強したり研究した成果を持ち寄り、討論し、議論し、協力して作業したり、行動したりするなかで、自分自身のオリジナルなものを見つけ、自己を確立していく場です。ゼミにおいて積極的かつ自主的に行動して、互いに切磋琢磨してください。
	到達目標 1. 卒業論文のテーマについて、経済や財政の専門用語、基本的な理論を用いて考察し、自身の考えを述べることができる。 2. 作成中または作成した卒業論文を指定した条件でプレゼンテーションすることができる。 3. 他の学生の卒業論文の進捗状況の報告において、適切なアドバイスをすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：卒業論文のテーマ確認と論文書式の確認	
	2	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導①	卒業論文の進捗状況の報告①～⑬
	3	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導②	・報告担当者は形式にしたがい、
	4	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導③	発表の準備をする
	5	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導④	・報告者以外の学生も含め、すべて
	6	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑤	の学生が卒業論文の作成を進める
	7	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑥	
	8	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑦	
	9	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑧	
	10	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑨	
	11	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑩	
	12	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑪	
	13	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑫	
	14	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑬	
15	卒業論文の提出・卒業論文報告会の確認	卒業論文を完成する	
16	卒業論文報告会	形式にしたがい、発表の準備をする	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。参考文献は以下のほか、授業で適宜紹介します。 【参考文献】 ・白井利明・高橋一郎。2013年。『よくわかる卒論の書き方』第2版。ミネルヴァ書房。		
	学びの手立て 【履修の心構え】 ・授業回数の3分の2の出席に満たない者は単位を修得することはできません。  【学びを深めるために】 ・執筆とは自分自身との心理戦です。速く楽に書くコツは、「書いて積み上げること」「人に見せること」です。卒業論文が計画通り進まないとき、困っているときは、すぐに教員に相談してください。また、ゼミのメンバーに話し、教え合ったり、励まし合ったりしてください。		
	評価 ・授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。 ・提出した「卒業論文」70%、作成中または作成した卒業論文の「報告」30%で評価します。 ・到達目標1、2は「卒業論文」「報告」のそれぞれにおいて、到達目標3は発言などの授業における貢献度で確認します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・社会のさまざまな場面で習得した力・スキルを活用し、さらに自身の能力を高めてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	4年		
学びの準備	ねらい 前期に引き続き、各グループによる報告・ディスカッションを行い、最終的にゼミ論としてまとめる。	メッセージ		
	到達目標			
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1回～16回 報告・ディスカッション			
	テキスト・参考文献・資料など 特になし 特になし			
	学びの手立て			
	評価 課題発表の内容、参加姿勢、出席状況			
学びの継続	次のステージ・関連科目			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	4年		

学びの準備	ねらい 「経済問題・金融市場」に関する卒業論文を作成・報告する。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 前期（ⅡA）：卒業論文のテーマを決め、資料収集を行う。 構想をまとめ、中間報告する。 後期（ⅡB）：卒業論文を作成する。 卒論判定を経て、卒論報告を行う。
	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。
-------	------------------------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 出席状況、報告、卒業論文に基づき評価する。
-------	-----------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

本講義では、①経済学の基礎的・専門的知識を学びつつ、②経済社会問題を考察し、③課題解決の視点を得ることを目的とします。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域経済論	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	3年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	経済学的な視点から「地域」を捉え、地域間の相互関係や成り立ち、地域の社会経済システムの全体像を学びます。講義全体を通して、地域の展望を描くための基礎を習得すること、そして、地域課題の発見と解決に向けた発案・提案力を得ることを目的とします。	「地域」を観察窓として、身の回りの経済情勢変化を読み解く力を身に着けることを目指します。社会への幅広い関心を持つために、まず身近な「地域」に関心を寄せることから始めましょう。
到達目標	①地域経済を理解し、読み解くための理論を学び、地域経済論の基本的な考え方を理解することができる。 ②都市や農村における地域問題の生成とその背景を学び、現在の地域が抱える課題を捉えることができる。 ③地域の課題解決のための政策、制度設計について考える力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、授業評価方法等について	シラバスを読む
	2	地域経済を学ぶ視点—その対象とアプローチ	地域経済関連の統計資料を調べる
	3	地域経済と国民経済—地域経済分析の手法	参考文献①、②参照
	4	地域経済の諸理論 (1) —成長の極理論	参考文献①、②参照
	5	地域経済の諸理論 (2) —産業立地論、産業集積論	参考文献②、③参照
	6	地域経済の理論と政策	参考文献②、③参照
	7	グローバル化と地域経済の現状	地域産業の現状について調べる
	8	講義前半のまとめ—理論と政策	講義前半のまとめ
	9	日本の地域開発政策の展開 (1)	参考文献③参照
	10	日本の地域開発政策の展開 (2)	参考文献③参照
	11	国土計画から地域産業政策へ—産業クラスター政策	参考文献①、④参照
	12	地域経済と地方財政—国土計画と地方財政の役割	参考文献①、④参照
	13	地域経済と地方財政—公共事業の展開	参考文献①、④参照
	14	地域再生・地域づくりに向けた取組 (1) —地域活性化の取組事例紹介	全国の地域活性化事例を調べる
15	地域再生・地域づくりに向けた取組 (2) —県内の6次産業化の取組	県内の地域活性化事例を調べる	
16	期末テスト	講義の振り返りを行う	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは用いませんが、以下の参考文献等を事前・事後学習に活用してください。その他の参考文献については、講義中に適宜紹介します。また講義は配布資料、プリントを用意します。 【参考文献】①岡田知弘他著 (2007) 『国際化時代の地域経済学【第3版】』有斐閣アルマ、②中村剛治郎著 (2004) 『地域政治経済学』有斐閣、③中村剛治郎他著 (2008) 『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣ブックス、④岡田知弘 (2005) 『地域づくりの経済学入門』自治体研究社
----	--

学びの手立て	○履修の心構え 講義中の私語、スマホ利用などは厳禁です。毎回、出欠確認を行います。毎講義、講義内容に関する質問や意見等を求めるため講義に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。 ○学びを深めるために グローバル化が進展する中で、地域経済は、工場の海外移転や安価な海外製品の流入による産業空洞化、地域間競争に晒されています。地域経済は世界経済の変化を映す鏡でもあります。地域の現状を俯瞰的な視点から読み解くことを意識して学ぶことが求められます。
--------	---

評価	○平常点 (15%) 小テスト (25%) 期末テスト (60%) ※出席が3分の2に満たない場合は、期末テストの受験資格を失います。 欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません (公欠を除く)。 ○上記の評価基準により到達目標の①、②、③を総合的に評価する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 地域経済論では、地域経済を読み解くための基礎的な理論と、地域問題を理解するための歴史を学び、定量的に分析するための手法について学びます。より実践的に地域経済について理解を深めるために、以下の関連科目の履修をお勧めします。 【次のステージ・関連科目】マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、沖縄経済論、産業政策論、産業連関論の基礎
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地方財政論 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>景気の低迷もあり国の財政事情が厳しくなる中、国と地方の役割が真剣に議論されています。これまでのように財政的に国に大きく依存する形から、地域経済の自立化を目指しつつ地方の自主性を重視するような考え方に変わってきています。そのためには財政に対する知識が必要です。本講義では地方財政制度の基礎理論を学び、今後の地方財政について考えることができることを目的としています。</p>	<p>地方財政論は、実際に社会人となっても、役立つ知識・理論を習得します。自分の住む地域の発展を行政と一緒に考えて、考えることのできるような人材となつてほしいと考えています。</p>
到達目標	<p>地方財政の基礎的知識と理論を理解している。 地方を取り巻く環境の変化を踏まえ、自らの住む地域の財政事情が分かる。 地方財政の状況を自ら判断することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画の説明	
2	地方財政の実態(1)	テキストの第1章1節・2節	
3	地方財政の実態(2)	テキストの第1章3節・4節	
4	国と地方の機能分担(1)	テキストの第2章1節・2節	
5	国と地方の機能分担(2)	テキストの第2章3節・4節・5節	
6	制度としての地方財政(1)	テキストの第3章1節・2節	
7	制度としての地方財政(2)	テキストの第3章3節・4節	
8	地方公共支出の経済学(1)	テキストの第4章1節・2節	
9	地方公共支出の経済学(2)	テキストの第4章3節	
10	地方団体の行財政改革(1)	テキストの第5章1節・2節	
11	地方団体の行財政改革(2)	テキストの第5章3節・4節・5節	
12	広域行政と狭域行政(1)	テキストの第6章1節・2節	
13	広域行政と狭域行政(2)	テキストの第6章3節	
14	地方税の体系と原則(1)	テキストの第7章1節・2節	
15	地方税の体系と原則(2)	テキストの第7章3節	
16	期末試験	テスト勉強	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト・・・「地方財政」 林宜嗣 有斐閣ブックス 参考文献 「地方財政論」 税務経理協会・「現代の地方財政」有斐閣ブックス・「はじめて学ぶ国と地方の財政学」日本評論社 「図解 よく分かる自治体財政のしくみ」 学陽書房</p>	
学びの手立て	<p>テキストに沿って講義を進めていくので、指定されたテキストを購入すること。 毎回の出席も大事なので、5回以上欠席すると、自動的に不可とする。 テキストだけでなく、地方財政の現状のトピックについて映像資料をもとに議論したり、レポートを課すこともある。</p>		
評価	<p>出席状況、レポート及び試験を総合的に評価する。 レポート・・・30% 試験・・・70%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地方財政で学んだことを踏まえ、地方の抱える財政問題に興味を持ち、批判的に分析する。 関連科目としては、「公共経済学」、「財政学 I・II」、「地方自治法」などがある。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地方財政論Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>景気の低迷もあり国の財政事情が厳しくなる中、国と地方の役割が真剣に議論されています。これまでのように財政的に国に大きく依存する形から、地域経済の自立化を目指しつつ地方の自主性を重視するような考え方に変わってきています。そのためには財政に対する知識が必要です。本講義では地方財政制度の基礎理論を学び、今後の地方財政について考えることができることを目的としています。</p>	<p>地方財政論は、実際に社会人となっても、役立つ知識・理論を習得します。自分の住む地域の発展を行政と一緒に考えて、考えることのできるような人材となつてほしいと考えています。</p>
到達目標	<p>地方財政の基礎的知識と理論を理解している。 地方を取り巻く環境の変化を踏まえ、自らの住む地域の財政事情が分かる。 地方財政の状況を自ら判断することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画の説明	
	2	地方財政改革の動き	前期の復習と地方財政の現状を知る
	3	地方税の改革(1)	テキストの第8章1節・2節
	4	地方税の改革(2)	テキストの第8章1節・2節・3節
	5	国庫支出金と地方財政(1)	テキストの第9章1節・2節
	6	国庫支出金と地方財政(2)	テキストの第9章3節
	7	地方交付税と財政調整(1)	テキストの第10章1節・2節
8	地方交付税と財政調整(2)	テキストの第10章3節・4節	
9	地方債の発行と国の関与(1)	テキストの第11章1節・2節	
10	地方債の発行と国の関与(2)	テキストの第11章3節・4節	
11	地域づくりと地方団体の役割(1)	テキストの第12章1節・2節	
12	地域づくりと地方団体の役割(2)	テキストの第12章3節・4節	
13	市町村財政分析の実習Ⅰ	自分の住んでいる市町村の財政分析	
14	市町村財政分析の実習Ⅱ	同上	
15	市町村財政分析の実習Ⅲ	同上とレポート作成	
16	期末試験	テスト勉強	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト・・・「地方財政」 林宜嗣 有斐閣ブックス</p> <p>参考文献</p> <p>「地方財政論」税務経理協会・「現代の地方財政」有斐閣ブックス・「はじめて学ぶ国と地方の財政学」日本評論社 「図解 よく分かる自治体財政のしくみ」 学陽書房</p>		
学びの手立て	<p>テキストに沿って講義を進めていくので、指定されたテキストを購入すること。毎回の出席も大事なので、5回以上欠席すると、自動的に不可とする。テキストだけでなく、地方財政の現状のトピックについて映像資料をもとに議論したり、レポートを課すこともある。</p>		
評価	<p>出席状況とレポート及び試験を総合的に評価する。</p> <p>レポート・・・30点</p> <p>試験・・・70点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地方財政で学んだことを踏まえ、地方の抱える財政問題に興味を持ち、批判的に分析する。関連科目としては、「公共経済学」、「財政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方自治法」などがある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業論 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 豪	3年	ptt931@okiu.ac.jp uezu-t@niac.or.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県の中小企業の現状や特徴を把握する。</li> <li>・県内中小企業がどのような要因で現在のような状態にあるのかを、本県を取り巻く現状などから因果関係を探る。</li> <li>・本県の中小企業の課題に対してどのような解決策があるのかを検討する。</li> </ul>	<p>学生の皆さまが就職を控えた時期に、企業への理解や関心を高めるとともに、自発的かつ創造的に考える力を身につけることを念頭に講義を進めたいと思います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①沖縄県の中小企業の現状を把握して、今後の就職活動を行う上での参考にする。</li> <li>②現実の課題や問題点を整理して、解決策を考えるためのフレームワークを身につける。</li> <li>③小論文（レポート）の書き方、まとめ方を身につける。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（本講義内容の説明）	
	2	日本経済・国際経済の概況	講義中に紹介する参考文献・資料等
	3	沖縄経済の概況	同上
	4	中小企業の概況	同上
	5	産業別事例研究①	同上
	6	産業別事例研究②	同上
	7	産業別事例研究③	同上
	8	フレームワーク（戦略立案）	同上
9	産業別事例研究④	同上	
10	産業別事例研究⑤	同上	
11	産業別事例研究⑥	同上	
12	産業別事例研究⑦	同上	
13	産業別事例研究⑧	同上	
14	産業別事例研究⑨	同上	
15	産業別事例研究⑩	同上	
16	試験（※レポート提出）		
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト：使用しません。説明資料を配付します。</li> <li>・参考文献：講義中に適宜紹介します。</li> </ul>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、出欠確認を行います。</li> <li>・毎日の新聞報道や経済誌などを読み、企業や経営者のとっている行動の理由（インセンティブ）を考える癖を身につけて下さい。</li> <li>・経済学のみならず、他の専門分野にも関心を持って知見を広めて下さい。</li> </ul>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席点50点、試験50点。講義の受講態度や試験の内容で加減します。</li> <li>・試験はレポートの提出とします。</li> </ul>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マクロ経済学やミクロ経済学および国際経済学など経済学の基礎知識を復習は重要です。</li> <li>・卒業後は応用力、総合力、主体性および創造性などが問われる場面が多々ありますので、本講義で学んだ知見を実践の場で活かしてほしいと思います。</li> </ul>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業論Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 豪	3年	ptt931@okiu.ac.jp uezu-t@niac.or.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県の中小企業の現状や特徴を把握する。</li> <li>・県内中小企業がどのような要因で現在のよう状態にあるのかを、本県を取り巻く現状などから因果関係を探る。</li> <li>・本県の中小企業の課題に対してどのような解決策があるのかを検討する。</li> </ul>	<p>学生の皆さまが就職を控えた時期に、企業への理解や関心を高めるとともに、自発的かつ創造的に考える力を身につけることを念頭に講義を進めたいと思います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①沖縄県の中小企業の現状を把握して、今後の就職活動を行う上での参考にする。</li> <li>②現実の課題や問題点を整理して、解決策を考えるためのフレームワークを身につける。</li> <li>③小論文（レポート）の書き方、まとめ方を身につける。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（本講義内容の説明）	
	2	日本経済・国際経済の近況	講義中に紹介する参考文献・資料等
	3	沖縄経済の近況	同上
	4	中小企業の近況	同上
	5	産業別事例研究①	同上
	6	産業別事例研究②	同上
	7	産業別事例研究③	同上
	8	フレームワーク（戦略立案）	同上
9	フレームワーク（問題解決）	同上	
10	フレームワーク（マネジメント）	同上	
11	産業別事例研究④	同上	
12	産業別事例研究⑤	同上	
13	産業別事例研究⑥	同上	
14	産業別事例研究⑦	同上	
15	産業別事例研究⑧	同上	
16	試験（※レポート提出）		
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト：使用しません。説明資料を配付します。</li> <li>・参考文献：講義中に適宜紹介します。</li> </ul>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、出欠確認を行います。</li> <li>・毎日の新聞報道や経済誌などを読み、企業や経営者のとっている行動の理由（インセンティブ）を考える癖を身につけて下さい。</li> <li>・経済学のみならず、他の専門分野にも関心を持って知見を広めて下さい。</li> </ul>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席点50点、試験50点。講義の受講態度や試験の内容で加減します。</li> <li>・試験はレポートの提出とします。</li> </ul>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マクロ経済学やミクロ経済学および国際経済学など経済学の基礎知識を復習は重要です。</li> <li>・卒業後は応用力、総合力、主体性および創造性などが問われる場面が多々ありますので、本講義で学んだ知見を実践の場で活かしてほしいと思います。</li> </ul>
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本経済史 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	3年		

学びの準備	ねらい 現代の経済状況や経済問題を考える場合でも、過去の歴史的経緯や背景を踏まえることが欠かせません。とりわけ、日本の政治、経済、社会の発展には世界的に見ても独特な面があると思います。日本経済論 I では、縄文時代と神道の伝統、日本の農業革命としての稲作と天皇制、仏教の変容と封建制の展開等を扱います。その際、人類史や沖縄との関連も触れたいと思います。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法等を説明	
	2	経済史・自然環境と人間社会との物質・エネルギー代謝、技術・知識の蓄積と伝播、組織・制度・思想の変遷	
	3	西洋中心史観の修正・アジアは世界経済の中心だった、西欧と日本の平行進化、江戸時代の再評価	
	4	ホモ・サピエンスの拡散と沖縄・日本	
	5	縄文時代の意義	
	6	弥生時代・農耕社会の形成	
	7	古代国家と大和王権	
	8	東アジア情勢と律令国家・「日本国」の成立	
	9	律令体制の揺らぎ・王朝と荘園公領制	
	10	中世前期の経済・在地勢力(武士)の台頭	
	11	中世経済の構造変化・村落共同体成立、南北朝、戦国時代、大名領国制、沖縄史の胎動	
	12	中世後期の経済：重商主義的領国経営、貫高制、商工業の発達、都市と海外交易、西洋との接触	
	13	近世の幕開けと江戸時代経済の成立・農民だけの村、武士の官僚化、石高制	
14	江戸時代前期の経済動向・大開拓による高度成長時代、		
15	江戸時代経済の成熟・土地の制約と人口停滞、石高制の矛盾、幕府や各藩の財政危機と改革		
16	江戸時代経済の構造転換・労働集約的技術進歩、輸入代替、各藩の産業振興、大衆文化の成熟		
	テキスト・参考文献・資料など 太田愛之 他 『日本経済の2千年』 勁草書房 S・オッペンハイマー 『人類の足跡10万年全史』 草思社 谷川健一 『甦る海上の道・日本と琉球』 文春新書		
	学びの手立て		
	評価 レポート60%、授業への参加姿勢(出席や質問等)40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本経済論 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日本経済論 I では、日本経済をどのように把握するかを論じた上で、明治以後、特に戦後の日本経済の歩みを振り返ることによって、現在の日本経済の特徴や問題がいかんして形成されてきたのかを論じます。その上で、「失われた0年」とも言われるバブル崩壊後の長期低迷やデフレの問題を取り上げ、その原因と脱出策、財政金融政策と構造改革、アベノミクスとの関連等を論じます。</p>	
到達目標		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法を説明	
	2	序章 日本経済への視角 1. 日本経済観の系譜	
	3	2. 日本社会は非近代的で不健全なのか 3. システムとしてとらえる	
	4	第1章 日本経済の歩み—明治から高度経済成長期まで 1. 近代経済発展の概観	
	5	2. 戦前の経済発展 3. 戦時の統制経済	
	6	4. 戦後占領期 4. なぜ、高度経済成長が実現したのか？	
	7	2. 高度経済成長期の成長と循環 5. 政策と社会	
	8	6. 高度成長の終焉 ニクソンショックと石油ショック	
	9	7. 成長率低下への調整 8. 減量経営と戦後社会の転換	
	10	第2章 バブル景気と「失われた20年」 1. 国際経済・通貨の激動	
	11	2. 「小さな政府」運動 3. 円高不況とバブルの発生	
	12	4. バブル反動不況 5. 不況の二番底	
	13	6. 三番底・リーマンショックと東日本大震災	
14	7. アベノミクス・・・長期不況からの脱出はなるか		
15	補足1 アメリカの金融帝国主義、グローバリゼーションと格差社会		
16	補足2 世界金融危機と国際通貨秩序の動揺		
テキスト・参考文献・資料など			
未定 寺西重郎『日本の経済システム』岩波書店、伊藤修『日本の経済』中公新書、岩田規久男『日本経済を学ぶ』ちくま新書、三橋貴明『逆説の経済学』遊タイム出版			
学びの手立て			
評価			
レポート60%、授業への参加姿勢（出席や質問等）40%			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本経済論Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの実践	
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ファイナンシャル・プランニングⅠ	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	1年		

学びの準備	ねらい ファイナンシャル・プランナー（FP）の主な仕事は、住宅取得を考えている人の相談役として、法律知識を提供したりアドバイスすることです。 金融機関の仕事上、FP知識は不可欠です。自分や家族が将来直面する金銭的な問題について、解決するための知識を理解しておくことは有益です。	メッセージ 金融機関の仕事上、FP知識は不可欠です。ファイナンシャル・プランニングⅠとファイナンシャル・プランニングⅡを必ずセットで同時に受講すること。
	到達目標 FP技能検定3級に合格する。 3級に合格するには、学科試験と実技試験で合格点を取る必要があります。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  1講義の概要・計画 2ライフプランニングと資金計画（1） 3ライフプランニングと資金計画（3） 4リスク管理（1） 5リスク管理（3） 6金融資産運用（1） 7金融資産運用（3） 8中間テスト1 9タックスプランニング（1） 10タックスプランニング（3） 11不動産（1） 12不動産（3） 13相続・事業承継（1） 14相続・事業承継（3） 15中間テスト2 16期末試験
	テキスト・参考文献・資料など ファイナンシャルバンクインスティテュート編集 『わかる!FP技能士3級速攻テキスト（2015-2016年版）』 日本経済新聞出版社 2015年  ファイナンシャルバンクインスティテュート編集 『わかる!FP技能士3級速攻問題集（2015-2016年版）』 日本経済新聞出版社 2015年
	学びの手立て
	評価 中間テスト（2回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ファイナンシャル・プランニングⅡ	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ファイナンシャル・プランナー（FP）の主な仕事は、住宅取得を考えている人の相談役として、法律知識を提供したりアドバイスすることです。</p> <p>金融機関の仕事上、FP知識は不可欠です。自分や家族が将来直面する金銭的な問題について、解決するための知識を理解しておくことは有益です。</p>	<p>金融機関の仕事上、FP知識は不可欠です。ファイナンシャル・プランニングⅠとファイナンシャル・プランニングⅡを必ずセットで同時に受講すること。</p>
	到達目標	
	<p>FP技能検定3級に合格する。</p> <p>3級に合格するには、学科試験と実技試験で合格点を取る必要があります。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>1講義の概要・計画 2ライフプランニングと資金計画（2） 3ライフプランニングと資金計画（4） 4リスク管理（2） 5リスク管理（4） 6金融資産運用（2） 7金融資産運用（4） 8中間テスト1 9タックスプランニング（2） 10タックスプランニング（4） 11不動産（2） 12不動産（4） 13相続・事業承継（2） 14相続・事業承継（4） 15中間テスト2 16期末試験</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>“ファイナンシャルバンクインスティテュート編集『わかる!FP技能士3級速攻テキスト（2015-2016年版）』 日本経済新聞出版社 2015年</p> <p>ファイナンシャルバンクインスティテュート編集『わかる!FP技能士3級速攻問題集（2015-2016年版）』 日本経済新聞出版社 2015年”</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>中間テスト（2回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉国家論	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	3年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	福祉国家の理念と成り立ちを紐解き、現代の福祉国家が抱える課題を探ることを目的とします。講義前半では先進各国を事例に福祉国家の類型論から今日の福祉国家の特徴を整理します。講義の後半では、日本における所得分配や貧困の現状、社会保障制度の概要と問題点などを例に、日本型福祉国家の特徴と今後の課題を探っていきます。	年金・医療・福祉（児童、介護等）等の社会保障制度がどのような理念の下で形づくられ、充実化し、変容してきたのかを考えていきます。現代国家の姿を通時的に描き、共時的にどのような課題を抱えているのかを考えていきましょう。
到達目標	①戦後、福祉国家がどのように誕生してきたのか、その思想や理念、実際の制度について特徴を把握することが出来る。 ②日本の社会保障制度について理解し、現在どのような課題を抱えているのか理解することが出来る。 ③国際比較の観点から現代の福祉国家が抱える課題を整理することが出来る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー授業評価と講義計画の紹介	シラバスを読む
	2	福祉国家とは？ー背景と理念	参考文献①、③を参照
	3	福祉国家の成り立ちー社会保障制度の歴史	参考文献①を参照
	4	イギリスの社会保障制度	参考文献①を参照
	5	ドイツの社会保障制度	参考文献①を参照
	6	北欧諸国の社会保障制度（1）ースウェーデン	参考文献②、③を参照
	7	北欧諸国の社会保障制度（2）ーデンマーク	参考文献②、③を参照
	8	アメリカの社会保障制度	参考文献①、②を参照
	9	講義前半のまとめ	欧米各国の福祉政策を復習
	10	福祉国家の類型論（福祉レジーム論）	参考文献③を参照
	11	日本型福祉国家の特徴ー企業福祉と社会保障制度の成り立ち	参考文献②を参照
	12	日本の企業福祉	企業の福利厚生について調べる
	13	日本の労働政策と雇用	労働政策について調べる
14	日本の労働政策と社会保障制度を巡る課題	社会保障制度について調べる	
15	講義後半のまとめ	労働政策、社会保障制度のまとめ	
16	期末テスト	講義全体の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	特に指定せず、適宜資料を配布して講義を行います。下記以外の参考文献は講義中に紹介します。 【参考文献】 ①橋本俊詔（2010）『安心の社会保障改革』東洋経済新報社 ②林健久他（2004）『グローバル化と福祉国家財政の再編』東京大学出版会 ③エスピン・アンデルセン（2001）『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房		
学びの手立て	○履修の心構え 講義中の私語、スマホ利用などは厳禁です。 毎回、出欠確認を行います。毎講義、講義内容に関する質問や意見等を求めるため講義に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。 ○学びを深めるために 相対的貧困や格差といった問題に対し、国家がどう対応してきたのかについて考えていきます。国際比較の視点から社会保障制度の目的と成り立ちについて整理しますので、広い視野を持って学修することが求められます。		
評価	○平常点（15%） 小テスト（25%） 期末テスト（60%） ※出席が3分の2に満たない場合は、期末テストの受験資格を失います。 欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません（公欠を除く）。 ○平常点（フィードバックペーパー）、小テスト、期末テストにより到達目標の①、②、③を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 福祉国家論では、福祉政策、社会保障制度に関する基本的な考え方を学んでいきます。その具体的な政策については財政政策、労働政策に関連する分野に広がりますので、下記の関連科目の履修を勧めます。 【次のステージ・関連科目】 マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、社会保障論、財政学Ⅰ・Ⅱ、労働経済学Ⅰ・Ⅱ
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	貿易実務 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	我が国は貿易立国で貿易実務の科目は、貿易立国を支える学問分野として必要不可欠である。貿易実務の活躍の場は多く1. 船会社 2. 商社 3. メーカー 4. 航空会社 5. 貿易会社 6. 公的機関 7. 銀行 8. 保険会社 9. 通関業者 10. 海貨業者 11. 混載業者 12. 個人輸入など幅広い。本講座では、貿易実務の基礎をしっかりと学べるようにする。	講義受講期間中は、常にテキストに目を通して臨むようにしてください。また、講義は良く聞くことに重点を置いて受講してください。
到達目標	本講義を通して ①貿易取引の全体の流れを把握していく。 ②貿易取引の手続き書類について学んでいく。 ③貿易取引における専門用語及び略語について学んでいく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 貿易取引と貿易実務	講義関連プリント配布での復習
	2	第2週 貿易実務と貿易書類	同上
	3	第3週 通関手続と通関業者	同上
	4	第4週 海上輸送と船会社	同上
	5	第5週 輸出交渉	同上
	6	第6週 輸出通関手続	同上
	7	第7週 買い取り手続	同上
8	第8週 中間テスト		
9	第9週 信用状の発行依頼	講義関連プリント配布での復習	
10	第10週 輸入貨物の引き取り	同上	
11	第11週 信用調査	同上	
12	第12週 品質条件	同上	
13	第13週 関税	同上	
14	第14週 保税制度	同上	
15	第15週 コンテナとコンテナターミナル	同上	
16	第16週 前期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 木村 雅晴著『はじめての貿易実務』ナツメ社 特になし		
	学びの手立て 1. 出欠確認は毎回厳密に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールにて連絡してください。 2. プリントを配布しますので、復習として利用してください。 3. 授業中質問があれば、手を挙げて質問してください。		
	評価 1. 中間テスト (30%) 2. 期末テスト (70%) 3. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1. 金融論 2. 国際経済論 3. 流通経済論 4. 経営学
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	貿易実務Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	我が国は貿易立国で貿易実務の科目は、貿易立国を支える学問分野として必要不可欠である。貿易実務の活躍の場は多く、1. 船会社 2. 商社 3. メーカー 4. 航空会社 5. 貿易会社 6. 公的機関 7. 銀行 8. 保険会社 9. 通関業者 10. 海貨業者 11. 混載業者 12. 個人輸入など幅広い。本講座では、貿易実務の基礎をしっかりと学べるようにする。	講義受講期間中は、常にテキストに目を通して臨むようにしてください。また、講義は良く聞くことに重点を置いて受講してください。
到達目標	本講義を通して ①貿易取引の全体の流れを把握していく。 ②貿易取引の手続き書類について学んでいく。 ③貿易取引における専門用語及び略語について学んでいく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 海上運賃の分類	講義関連プリント配布での復習
	2	第2週 航空運送と運賃	同上
	3	第3週 信用状のチェックポイント	同上
	4	第4週 外国為替相場	同上
	5	第5週 海上保険の種類	同上
	6	第6週 ワシントン条約	同上
	7	第7週 貨物引き取りの便利な制度	同上
8	第8週 中間テスト		
9	第9週 FCL貨物の具体的な貨物の引き取り	講義関連プリント配布での復習	
10	第10週 クレーム	同上	
11	第11週 業務処理システム	同上	
12	第12週 船積み・通関手続を専門業者に依頼する時に作成する書類	同上	
13	第13週 船積みの完了を輸入者に知らせる書類	同上	
14	第14週 信用状の発行を銀行に依頼する時に作成書類	同上	
15	第15週 Invoice・Bill of Ladingの記載内容	同上	
16	第16週 後期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 木村 雅晴著『初めての貿易実務』ナツメ社		
	学びの手立て 1. 出欠確認は毎回厳密に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールにて連絡してください。 2. プリントを配布しますので、復習として利用してください。 3. 授業中質問があれば、手を挙げて質問してください。		
	評価 1. 中間テスト (30%) 2. 期末テスト (70%) 3. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1. 金融論 2. 国際経済論 3. 流通経済論 4. 経営学
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅰ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	2年		

学びの準備	ねらい 簿記は、会社のお金や財産を管理するための記録手法です。「パソコン・会計・英語」は社会人の必須知識と言われています。簿記（＝会計）を学んでから、社会人になりましょう。	メッセージ 簿記Ⅰと簿記Ⅱを必ずセットで同時に受講すること。 銀行業務の基本は、簿記です。 簿記はすべての会社で使われています。 知らないでは済まされません。 簿記を学んでから、社会人になりましょう。
	到達目標 来年2月の日商簿記検定3級試験の受験・合格を目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要・計画</li> <li>2. 簿記の基礎</li> <li>3. 商品売買（2）</li> <li>4. 当座預金</li> <li>5. 手形（1）</li> <li>6. 中間テストA</li> <li>7. 有価証券</li> <li>8. 債権債務（2）</li> <li>9. 減価償却</li> <li>10. 繰延・見越</li> <li>11. 伝票・締切</li> <li>12. 精算表（2）</li> <li>13. 中間テストB</li> <li>14. 試算表（2）</li> <li>15. 過去問題（2）</li> <li>16. 期末テスト</li> </ol>

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。
	学びの手立て

学びの実践	評価 中間テスト（複数回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。
	次のステージ・関連科目

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	2年		

学びの準備	ねらい 簿記は、会社のお金や財産を管理するための記録手法です。「パソコン・会計・英語」は社会人の必須知識と言われています。簿記（＝会計）を学んでから、社会人になりましょう。	メッセージ 簿記Ⅰと簿記Ⅱを必ずセットで同時に受講すること。銀行業務の基本は、簿記です。簿記はすべての会社で使われています。知らないでは済まされません。簿記を学んでから、社会人になりましょう。
	到達目標 来年2月の日商簿記検定3級試験の受験・合格を目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要・計画</li> <li>2. 商品売買（1）</li> <li>3. 現金</li> <li>4. 小口現金</li> <li>5. 手形（2）</li> <li>6. 貸付金</li> <li>7. 債権債務（1）</li> <li>8. 消耗品・貸倒</li> <li>9. 資本金</li> <li>10. 帳簿記入</li> <li>11. 精算表（1）</li> <li>12. 精算表（3）</li> <li>13. 試算表（1）</li> <li>14. 過去問題（1）</li> <li>15. 過去問題（3）</li> <li>16. 期末テスト</li> </ol>

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。
	学びの手立て

学びの実践	評価 中間テスト（複数回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。
	次のステージ・関連科目

学びの継続	
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マクロ経済学 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>マクロ経済学は、これから皆さんが学んでいく理論、実証、政策等の諸科目の基礎になる必須の知識を提供します。また、経済のニュース等を理解するためにも必要ですし、公務員試験や就職試験等でもよく出題されます。講義は日本で最もポピュラーな中谷巖先生の教科書に沿って行われます。広範囲の内容が現在の主流派の考えに従って整理されていますが、幅広い内容の本なので根気よく取り組</p>	
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法を説明	
	2	Part 1 インTRODakシヨN 第1章 日本経済の循環と変動	
	3	第2章 GDPの概念と物価指数（1）	
	4	〃 GDPの概念と物価指数（2）	
	5	第3章 マクロ経済学における短期と長期	
	6	宿題の解説等	
	7	Part 2 短期モデル 第4章 所得はどのように決まるか（1）	
8	〃 所得はどのように決まるか（2）		
9	第5章 貨幣の需給と利子率（1）		
10	〃 貨幣の需給と利子率（2）		
11	第6章 IS-LM分析と財政金融政策（1）		
12	〃 IS-LM分析と財政金融政策（2）		
13	第7章 国際マクロ経済学（1）		
14	〃 国際マクロ経済学（2）		
15	練習問題の解説等		
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 中谷巖 『入門 マクロ経済学 第5版』日本評論社・・・変更の可能性あるので、買うのは第1週の講義の紹介を聞いてからにしてください。 大竹文夫 『スデイガイド 入門マクロ経済学 第5版』日本評論社、 ジョン・ケイ『市場の真実』中央経済社		
	学びの手立て		
	評価 試験50%、宿題20%、授業への参加姿勢（出席や質問等）30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①基礎的・専門的知識の習得 ②理論的に考える力 ③現状を分析する力

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マクロ経済学Ⅰ	前期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	長嶋 佐央里	2年	オフィスアワー：木曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「好況や不況はなぜ起きるのか?」「モノ・サービスの物価水準はどのように決まるのか?」「日本の若者の失業率はどのくらいなのか?」この授業では、日ごろ見たり聞いたりする出来事を経済社会全体の視野に立って考えるのに役立つマクロ経済学の基礎理論を学び、その理論をもとに、景気、物価、失業などの経済問題や実施されている経済政策について、自分で分析できるようにします。	マクロ経済学の理論は、経済新聞や経済雑誌、各国政府や国際機関などにおいて議論される際に標準的な分析手法として用いられています。経済学に対する予備知識がゼロの学生にも分かりやすく説明し、実際の日本経済や国際経済の動向、経済指標を参照しながら、理解を深めていきます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>マクロ経済学の専門用語や基礎的な理論を理解することができる。</li> <li>経済社会現象のしくみや因果関係を理論的に理解することができる。</li> <li>マクロ経済学の専門用語や基礎的な理論を用いて経済社会現象を説明することができる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：マクロ経済学とは何か	シラバスを読む
	2	一国の経済力の指標（GDP）①：一国の経済状態はどのようにとらえられるのか（テキスト 第1章）	テキスト・配布資料を読む
	3	一国の経済力の指標（GDP）②：景気循環をどのようにとらえるのか（テキスト 第1章）	テキスト・配布資料を読む
	4	消費と貯蓄の理論①：消費と貯蓄を決定する要因は何か・流動性制約とは何か（テキスト 第2章）	テキスト・配布資料を読む
	5	消費と貯蓄の理論②：日本の貯蓄率はどのように推移してきたか（テキスト 第2章）	テキスト・配布資料を読む
	6	設備投資と在庫投資①：投資を決定する要因は何か（テキスト 第3章）	テキスト・配布資料を読む
	7	設備投資と在庫投資②：在庫投資と何か、景気循環とどのような関係にあるのか（テキスト 第3章）	テキスト・配布資料を読む
	8	金融と株価：マクロ経済において金融はどのような役割を果たすのか（テキスト 第4章）	テキスト・配布資料を読む
	9	貨幣の需要と供給①：貨幣はどのような機能を果たすのか（テキスト 第5章）	テキスト・配布資料を読む
	10	貨幣の需要と供給②：何が貨幣需要を増やすのか（テキスト 第5章）	テキスト・配布資料を読む
	11	貨幣の需要と供給③：貨幣供給とそのコントロールの手段とは何か（テキスト 第5章）	テキスト・配布資料を読む
	12	総需要に着目した経済分析①：国民所得はどのように決定されるのか（テキスト 第6章）	テキスト・配布資料を読む
	13	総需要に着目した経済分析②：財市場の均衡と貨幣市場の均衡について学ぶ（テキスト 第6章）	テキスト・配布資料を読む
14	総需要に着目した経済分析③：IS-LM分析と財政政策・金融政策について学ぶ（テキスト 第6章）	テキスト・配布資料を読む	
15	復習・総括	事後学習：前期の内容の復習・総括	
16	期末試験	事前学習：期末試験の準備	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	【テキスト】 ・福田慎一・照山博司. 2016年. 『マクロ経済学・入門』第5版. 有斐閣.		
	【参考文献】 ・福田慎一・照山博司. 2013年. 『演習式 マクロ経済学・入門』補訂版. 有斐閣.		
	学びの手立て		
	【履修の心構え】 ・授業回数の3分の2の出席に満たない者、期末試験を受けない者は単位を修得することはできません。		
	【学びを深めるために】 ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本や諸外国の経済問題に関心を持ってほしいと思います。 ・時間外学習として、次のことを行ってください。暗記ではなく理解するように心掛けてください。 ○事前学習：授業で扱うテキストの当該部分を読んで、要約、疑問点をまとめる ○事後学習：テキストと配布資料を読んで復習する、テキスト章末の練習問題を解く		
	評価		
	・授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。 ・授業内確認テスト、授業の振り返り等の授業での「平常点」50%、「期末試験」50%で評価します。 ・「平常点」「期末試験」のそれぞれにおいて、すべての到達目標を確認します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> <li>マクロ経済学の基礎理論は、「マクロ経済学Ⅰ」と「マクロ経済学Ⅱ」で学修します。</li> <li>マクロ経済の分析は個別の問題の対処にも必要であるので、経済学科の専門科目と関連しています。</li> <li>特に、マクロ経済を分析する際に有用な応用・発展的な事象について学びたい学生は、「応用マクロ経済学」を履修してください。</li> </ul>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マクロ経済学Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	2年		

学びの準備	ねらい マクロ経済学は、これから皆さんが学んでいく理論、実証、政策等の諸科目の基礎になる必須の知識を提供します。また、経済のニュース等を理解するためにも必要ですし、公務員試験や就職試験等でもよく出題されます。前期のマクロ経済学Ⅰに引き続き、テキストの残りの部分を講義します。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法等を説明	
	2	Part 3 長期近郊への調整 第8章 短期モデルと長期モデルの比較（1）	
	3	〃 短期モデルと長期モデルの比較（2）	
	4	第9章 物価水準はどのように決まるか（1）	
	5	〃 物価水準はどのように決まるか（2）	
	6	第10章 インフレとデフレ（1）	
	7	〃 インフレとデフレ（2）	
8	Part 4 消費・投資 第12章 消費と貯蓄（1）		
9	〃 消費と貯蓄（2）		
10	第13章 投資決定の理論（1）		
11	〃 投資決定の理論（2）		
12	Part 5 マクロ経済学の新潮流 第15章 マクロ政策の有効性について		
13	第16章 エピローグ		
14	練習問題解説等		
15	質問等		
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 中谷巖 『入門マクロ経済学 第5版』日本評論社・・・変更の可能性あり。 大竹文夫 『サデイガイド 入門マクロ経済学 第5版』日本評論社、ジョン・ケイ 『市場の真実』中央経済社、 井本友文 『ジョブレス・リカバリー』日本評論社		
	学びの手立て		
	評価 試験50%、宿題20%、授業への参加姿勢（出席や質問等）30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①基礎的・専門的知識の習得 ②理論的に考える力 ③現状を分析する力

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マクロ経済学Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	長嶋 佐央里	2年	オフィスアワー：木曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「好況や不況はなぜ起きるのか?」「モノ・サービスの物価水準はどのように決まるのか?」「日本の若者の失業率はどのくらいなのか?」この授業では、日ごろ見たり聞いたりする出来事を経済社会全体の視野に立って考えるのに役立つマクロ経済学の基礎理論を学び、その理論をもとに、景気、物価、失業などの経済問題や実施されている経済政策について、自分で分析できるようにします。	マクロ経済学の理論は、経済新聞や経済雑誌、各国政府や国際機関などにおいて議論される際に標準的な分析手法として用いられています。経済学に対する予備知識がゼロの学生にも分かりやすく説明し、実際の日本経済や国際経済の動向、経済指標を参照しながら、理解を深めていきます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>マクロ経済学の専門用語や基礎的な理論を理解することができる。</li> <li>経済社会現象のしくみや因果関係を理論的に理解することができる。</li> <li>マクロ経済学の専門用語や基礎的な理論を用いて経済社会現象を説明することができる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・マクロ経済学Ⅰの復習	シラバスを読む
	2	経済政策の有効性①：IS-LM分析における財政政策の効果を学ぶ(テキスト 第7章)	テキスト・配布資料を読む
	3	経済政策の有効性②：IS-LM分析における金融政策の効果を学ぶ(テキスト 第7章)	テキスト・配布資料を読む
	4	財政赤字と国債①：なぜ政府の借金が問題となるのか(テキスト 第8章)	テキスト・配布資料を読む
	5	財政赤字と国債②：国債による財源調達には経済にどのような影響を与えるのか(テキスト 第8章)	テキスト・配布資料を読む
	6	インフレとデフレ①：インフレはなぜ生じるのか(テキスト 第9章)	テキスト・配布資料を読む
	7	インフレとデフレ②：インフレのコストとは何か・デフレはなぜ生じるのか(テキスト 第9章)	テキスト・配布資料を読む
	8	マクロ経済における労働市場①：失業はなぜ発生するのか(テキスト 第10章)	テキスト・配布資料を読む
9	マクロ経済における労働市場②：失業率の変動について考える(テキスト 第10章)	テキスト・配布資料を読む	
10	マクロ経済における労働市場③：日本の失業率の変動について考える(テキスト 第10章)	テキスト・配布資料を読む	
11	経済成長の理論①：経済はなぜ成長するのか(テキスト 第11章)	テキスト・配布資料を読む	
12	経済成長の理論②：経済成長をもたらす要因は何か(テキスト 第11章)	テキスト・配布資料を読む	
13	国際マクロ経済①：国際間の取引はどのようにとらえるのか(テキスト 第12章)	テキスト・配布資料を読む	
14	国際マクロ経済②：為替レートの決定要因は何か・経常収支の決定要因は何か(テキスト 第12章)	テキスト・配布資料を読む	
15	復習・総括	事後学習：後期の内容の復習・総括	
16	期末試験	事前学習：期末試験の準備	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福田慎一・照山博司. 2016年. 『マクロ経済学・入門』第5版. 有斐閣.</li> </ul> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福田慎一・照山博司. 2013年. 『演習式 マクロ経済学・入門』補訂版. 有斐閣.</li> </ul>	
学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業回数の3分の2の出席に満たない者、期末試験を受けない者は単位を修得することはできません。</li> </ul> <p>【学びを深めるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本や諸外国の経済問題に関心を持ってほしいと思います。</li> <li>時間外学習として、次のことを行ってください。暗記ではなく理解するように心掛けてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○事前学習：授業で扱うテキストの当該部分を読んで、要約、疑問点をまとめる</li> <li>○事後学習：テキストと配布資料を読んで復習する、テキスト章末の練習問題を解く</li> </ul> </li> </ul>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。</li> <li>授業内確認テスト、授業の振り返り等の授業での「平常点」50%、「期末試験」50%で評価します。</li> <li>「平常点」「期末試験」のそれぞれにおいて、すべての到達目標を確認します。</li> </ul>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マクロ経済学の基礎理論は、「マクロ経済学Ⅰ」と「マクロ経済学Ⅱ」で学修します。</li> <li>マクロ経済の分析は個別の問題の対処にも必要であるので、経済学科の専門科目と関連しています。</li> <li>特に、マクロ経済を分析する際に有用な応用・発展的な事象について学びたい学生は、「応用マクロ経済学」を履修してください。</li> </ul>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マルクス経済学 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 資本主義の経済社会の基本的な構成諸要素とそれらの相互関係、資本主義の歴史性と根本矛盾などについて理解できるようになること	メッセージ
	到達目標 単純な要素から複雑な上位概念・諸関係へという論理の展開にしたがって、資本主義の根本原理とその歴史的特質とについて理論的に説明できるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方，評価方法等について	事前に教科書を読むこと
	2	イントロダクション：基本的知識の確認	事前に教科書を読むこと
	3	経済学とは何か1	事前に教科書を読むこと
	4	経済学とは何か2	事前に教科書を読むこと
	5	経済学とは何か3	事前に教科書を読むこと
	6	資本主義の基礎概念1	事前に教科書を読むこと
	7	資本主義の基礎概念2	事前に教科書を読むこと
	8	資本主義の基礎概念3	事前に教科書を読むこと
9	中間テスト	事前に教科書を読むこと	
10	生産論1	事前に教科書を読むこと	
11	生産論2	事前に教科書を読むこと	
12	生産論3	事前に教科書を読むこと	
13	流通論1	事前に教科書を読むこと	
14	流通論2	事前に教科書を読むこと	
15	流通論3	事前に教科書を読むこと	
16	期末試験	事前に教科書を読むこと	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：日高 普『経済学 改訂版（岩波全書）』岩波書店，1988年		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては，退室を求めます。		
	評価 期末試験50%，中間テスト30%，受講態度（ミニレポートの提出）20%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 マルクス経済学IIの受講を勧めます。
-------	-----------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マルクス経済学Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 資本主義の経済社会の基本的な構成諸要素とそれらの相互関係、資本主義の歴史性と根本矛盾などについて理解できるようになること	メッセージ
	到達目標 単純な要素から複雑な上位概念・諸関係へという論理の展開にしたがって、資本主義の根本原理とその歴史的特質とについて理論的に説明できるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方，評価方法等について	事前に教科書を読むこと
	2	イントロダクション：マルクス経済学Iを振り返る	事前に教科書を読むこと
	3	分配論1	事前に教科書を読むこと
	4	分配論2	事前に教科書を読むこと
	5	分配論3	事前に教科書を読むこと
	6	金融と財政1	事前に教科書を読むこと
	7	金融と財政2	事前に教科書を読むこと
	8	金融と財政3	事前に教科書を読むこと
9	中間テスト	事前に教科書を読むこと	
10	国際経済1	事前に教科書を読むこと	
11	国際経済2	事前に教科書を読むこと	
12	国民所得と日本経済1	事前に教科書を読むこと	
13	国民所得と日本経済2	事前に教科書を読むこと	
14	現代資本主義の諸問題1	事前に教科書を読むこと	
15	現代資本主義の諸問題2	事前に教科書を読むこと	
16	期末試験	事前に教科書を読むこと	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：日高 普『経済学 改訂版（岩波全書）』岩波書店，1988年		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては，退室を求めます。		
	評価 期末試験50%，中間テスト30%，受講態度（コメント）20%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	マルチメディア表現	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1 年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい マルチメディアに関する基本的な考え方、基礎的な技術や表現方法を実践的な演習・実習を通して修得し、「情報を伝達する」ということや「イメージと表現」についての理解を得ることをねらいとする。	メッセージ この科目では教育分野におけるマルチメディアの有効活用・利用について学ぶことが出来、必要な知識と技術を紹介する。
	到達目標 1. マルチメディアの基本的概念について説明ができる 2. 各メディアの特性と制作に必要な技術の基本理論について説明ができる 3. ビジュアルコミュニケーションを通してアイデアを視覚化することができる 4. インストラクショナル・デザインを踏まえ、マルチメディアコミュニケーションの評価手法を身につける	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1回目：メディア・リテラシーの定義(様々なメディア・リテラシーの定義を習得し、自分なりの定義を説明) 2回目：フォトランゲージ (写真を読み取る力をつけ、メディアの特性を習得) 3回目：マルチメディアの定義と特性 (各メディアの特性と利用法を習得し、マルチメディアの定義を説明) 4回目：インターネットの仕組み (インターネットの仕組みを理解し、検索方法、メイリングリスト、ストーリーミング技術を理解) 5回目：マルチメディアの表現法 (様々なマルチメディア教材を紹介し、効果的な表現を習得) 6回目：マルチメディアの表現法 (様々なマルチメディア教材を紹介し、効果的な表現を習得) 7回目：プレゼンテーション手法 (パソコンを利用して、効果的なプレゼンテーション手法を習得) 8回目：プレゼンテーション手法：上記の続き 9回目：中間試験 10回目：インストラクショナルデザインの原理 (教材開発、メディア開発に必要な設計方法を習得) 11回目：インストラクショナルデザインの原理：上記の続き 12回目：インストラクショナルデザインの原理：上記の続き 13回目：上記の授業について時間不足が生じた場合補講 14回目：上記の授業について時間不足が生じた場合補講 15回目：振り返り 16回目：最終試験
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定はしない。手適宜レジュメを配布する。 インストラクショナルデザインの原理 (鈴木克明監訳：北大路書房)、行動変容法入門 (レイモンドGミルテンバーガー) 他、。
	学びの手立て 効果的なマルチメディアの設計、プログラミング、視覚化など、表現に必要な知識と技術に関心を持つこと。
	評価 授業への出欠、参加姿勢、最終試験などを総合的に判断、評価する。

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 この科目で習得した知識や技術を経済的な視点、例えば商品販売のためのweb作成や広報戦略の技術などをマーケティングや経営学などに繋げる。
-----------------------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マイクロ経済学Ⅰ	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	2年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい マイクロ経済学は、経済を構成する各主体（家計・企業・政府）の行動原理を研究する学問である。本講義では、消費者の行動原理を中心に学びながら、市場においてどのように資源が効率的に配分されるのかを検討する。	メッセージ マイクロ経済学・マクロ経済学は経済学を学ぶうえで基礎（理論）となる極めて重要な科目です。予習復習を怠らず、能動的に学ぶように心がけてください。
	到達目標 ①経済主体の行動原理を理解する。 ②マイクロ経済学の理論を使って、社会の動きを説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション - 講義の進め方、日常生活と経済学、講義アンケート -</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>マイクロ経済学とは① - ミクロ経済学とマクロ経済学、経済学の方法 -</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>マイクロ経済学とは② - 機会費用、インセンティブ、情報、価格 -</td> <td>参考文献の精読</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>市場機構と需要・供給① - 市場経済の効率性、需要と供給 -</td> <td>市場メカニズムの復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>市場機構と需要・供給② - 価格弾力性 -</td> <td>豊作貧乏に関する予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>消費者行動の理論① - 消費者とは？人は合理的に行動するか？「効用」と満足度 -</td> <td>参考文献の精読</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>消費者行動の理論② - 効用関数、無差別曲線、「限界」概念の説明 -</td> <td>参考文献の精読</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>消費者行動の理論③ - 限界代替率と限界効用、限界効用の逓減 -</td> <td>参考文献の精読</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>消費者行動の理論④ - 需要の決定、上級財と下級財 -</td> <td>参考文献の精読</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>消費者行動の理論⑤ - 価格の変化と需要曲線 -</td> <td>参考文献の精読</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>消費者行動の理論⑥ - 所得効果と代替効果①</td> <td>参考文献の精読</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>消費者行動の理論⑦ - 所得効果と代替効果②</td> <td>参考文献の精読</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>消費者行動の理論⑧ - 補完財と代替財、消費者余剰 -</td> <td>補完財等に関する事例の収集</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>本講義のまとめ①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>本講義のまとめ②、期末テストの説明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>期末テスト</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	イントロダクション - 講義の進め方、日常生活と経済学、講義アンケート -		2	マイクロ経済学とは① - ミクロ経済学とマクロ経済学、経済学の方法 -		3	マイクロ経済学とは② - 機会費用、インセンティブ、情報、価格 -	参考文献の精読	4	市場機構と需要・供給① - 市場経済の効率性、需要と供給 -	市場メカニズムの復習	5	市場機構と需要・供給② - 価格弾力性 -	豊作貧乏に関する予習	6	消費者行動の理論① - 消費者とは？人は合理的に行動するか？「効用」と満足度 -	参考文献の精読	7	消費者行動の理論② - 効用関数、無差別曲線、「限界」概念の説明 -	参考文献の精読	8	消費者行動の理論③ - 限界代替率と限界効用、限界効用の逓減 -	参考文献の精読	9	消費者行動の理論④ - 需要の決定、上級財と下級財 -	参考文献の精読	10	消費者行動の理論⑤ - 価格の変化と需要曲線 -	参考文献の精読	11	消費者行動の理論⑥ - 所得効果と代替効果①	参考文献の精読	12	消費者行動の理論⑦ - 所得効果と代替効果②	参考文献の精読	13	消費者行動の理論⑧ - 補完財と代替財、消費者余剰 -	補完財等に関する事例の収集	14	本講義のまとめ①		15	本講義のまとめ②、期末テストの説明		16	期末テスト		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	イントロダクション - 講義の進め方、日常生活と経済学、講義アンケート -																																																				
2	マイクロ経済学とは① - ミクロ経済学とマクロ経済学、経済学の方法 -																																																				
3	マイクロ経済学とは② - 機会費用、インセンティブ、情報、価格 -	参考文献の精読																																																			
4	市場機構と需要・供給① - 市場経済の効率性、需要と供給 -	市場メカニズムの復習																																																			
5	市場機構と需要・供給② - 価格弾力性 -	豊作貧乏に関する予習																																																			
6	消費者行動の理論① - 消費者とは？人は合理的に行動するか？「効用」と満足度 -	参考文献の精読																																																			
7	消費者行動の理論② - 効用関数、無差別曲線、「限界」概念の説明 -	参考文献の精読																																																			
8	消費者行動の理論③ - 限界代替率と限界効用、限界効用の逓減 -	参考文献の精読																																																			
9	消費者行動の理論④ - 需要の決定、上級財と下級財 -	参考文献の精読																																																			
10	消費者行動の理論⑤ - 価格の変化と需要曲線 -	参考文献の精読																																																			
11	消費者行動の理論⑥ - 所得効果と代替効果①	参考文献の精読																																																			
12	消費者行動の理論⑦ - 所得効果と代替効果②	参考文献の精読																																																			
13	消費者行動の理論⑧ - 補完財と代替財、消費者余剰 -	補完財等に関する事例の収集																																																			
14	本講義のまとめ①																																																				
15	本講義のまとめ②、期末テストの説明																																																				
16	期末テスト																																																				
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、パワーポイント資料を配布する。 ジョセフ・E・スティグリッツ（藪下史郎訳）『スティグリッツマイクロ経済学（第4版）』東洋経済新報社。																																																				
	学びの手立て 講義だけで理解するのではなく、テキストによる自主学習をすすめる。																																																				
	評価 期末試験（70％）、小テスト（20％）、受講態度（10％）で評価する。																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目 マイクロ経済学Ⅱ
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ミクロ経済学 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	2年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ミクロ経済学は、需要行動や供給行動の背景にある経済主体の合理的選択について考察します。また、ミクロ経済学を学ぶことによつて、さまざまな現実の経済問題をより深く理解できるようになります。本講義では、ミクロ経済の基礎理論をしっかりと学び、経済的視点で現実の経済現象を見ることができるよう理論的基礎を築くことが目的です。</p>	<p>ミクロ経済学の入門であるので、できるだけ分かりやすく教える。数式はあまり使わないが、ある程度の数学的知識が必要なので高校で学ぶ数学はきちんと復習しておいてほしい。</p>
到達目標	<p>ミクロ経済学で使われる重要用語が理解できる。 消費者行動理論の基礎が理解できる。 企業の行動理論の基礎が理解できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画の説明	
	2	ミクロ経済学の考え方	テキストのイントロダクション
	3	市場と需要・供給	テキストの第1章
	4	消費者と需要 (1)	テキストの第2章 I
	5	消費者と需要 (2)	テキストの第2章 II
	6	消費者行動と需要曲線 (1)	テキストの第5章 I
	7	消費者行動と需要曲線 (2)	テキストの第5章 II
8	消費者行動と需要曲線 (3)	テキストの第6章 I	
9	消費者行動と需要曲線 (4)	テキストの第6章 II	
10	企業行動と生産関数 (1)	テキストの第7章 I・II	
11	企業行動と生産関数 (2)	テキストの第7章 III	
12	企業行動と生産関数 (3)	テキストの第7章 IV	
13	企業行動と費用曲線 (1)	テキストの第3章 I	
14	企業行動と費用曲線 (2)	テキストの第3章 II	
15	企業行動と費用曲線 (3)	テキストの第3章 III	
16	期末試験	テスト勉強	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト・・・伊藤元重「ミクロ経済学」日本評論社 参考文献 N. グレゴリーマンキュー「マンキュー経済学&lt;1&gt;ミクロ編」東洋経済新報社、 ハル・R. ヴァリアン「入門ミクロ経済学」勤草書房</p>		
	<p>学びの手立て</p> <p>毎回の講義の積み重ねが重要であるので、出席は重視する。 テキストに基づいて講義を進めるので、必ず指定されたテキストを購入すること。 欠席が5回以上となると、自動的に不可とする。そのため、病欠ややむを得ず欠席する場合は、公欠届を提出すること。</p>		
	<p>評価</p> <p>出席状況とテストを総合的に評価する。 出席・・・10% 期末試験・・・90%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>経済の専門分野において、ミクロ経済学の理論がしっかり理解できる。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マイクロ経済学Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	2年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>マイクロ経済学は、需要行動や供給行動の背景にある経済主体の合理的選択について考察します。また、マイクロ経済学を学ぶことにより、さまざまな現実の経済問題をより深く理解できるようになります。本講義では、マイクロ経済の基礎理論をしっかりと学び、経済的視点で現実の経済現象を見ることができるよう理論的基礎を築くことが目的です。</p>	<p>マイクロ経済学の入門であるので、できるだけ分かりやすく教える。数式はあまり使わないが、ある程度の数学的知識が必要なので高校で学ぶ数学はきちんと復習しておいてほしい。</p>
到達目標	<p>マイクロ経済学で使われる重要用語が理解できる。          独占市場と完全競争市場の理論が理解できる。          ゲームの理論が理解できる。          市場の失敗について、現実経済に当てはめて考えることができる。          不完全情報の経済について、現実経済に当てはめて考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画の説明	前期の復習
	2	独占の理論 (1)	テキストの第9章Ⅰ
	3	独占の理論 (2)	テキストの第9章Ⅱ
	4	独占の理論 (3)	テキストの第9章Ⅲ
	5	ゲームの理論 (1)	テキストの第10章Ⅰ
	6	ゲームの理論 (2)	テキストの第10章Ⅱ
	7	ゲームの理論 (3)	テキストの第10章Ⅲ
8	市場の失敗 (1)	テキストの第11章Ⅰ	
9	市場の失敗 (2)	テキストの第11章Ⅱ	
10	市場の失敗 (3)	テキストの第11章Ⅲ	
11	不完全競争の経済学 (1)	テキストの第13章Ⅰ	
12	不完全競争の経済学 (2)	テキストの第13章Ⅱ	
13	不完全競争の経済学 (3)	テキストの第13章Ⅲ	
14	異時点間の資源配分 (1)	テキストの第14章Ⅰ・Ⅱ	
15	異時点間の資源配分 (2)	テキストの第14章Ⅳ・Ⅴ	
16	期末試験	テスト勉強	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト・参考文献・資料など          テキスト・・・伊藤元重「マイクロ経済学」日本評論社          参考文献          N. グレゴリーマンキュー「マンキュー経済学&lt;1&gt;マイクロ編」東洋経済新報社、          ハル・R. ヴァリアン「入門マイクロ経済学」勤草書房</p>		
学びの手立て	<p>毎回の講義の積み重ねが重要であるので、出席は重視する。          テキストに基づいて講義を進めるので、必ず指定されたテキストを購入すること。          欠席が5回以上となると、自動的に不可とする。そのため、病欠ややむを得ず欠席する場合は、公欠届を提出すること。</p>		
評価	<p>出席状況とレポートおよびテストを総合的に評価する。          出席・・・10%          期末試験・・・90%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目          経済の専門分野において、マイクロ経済学の理論がしっかり理解できる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ミクロ経済学Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	2年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ミクロ経済学は、経済を構成する各主体（家計・企業・政府）の行動原理を研究する学問である。本講義では、企業の行動原理を中心に学びながら、市場においてどのように資源が効率的に配分されるのかを検討する。	メッセージ ミクロ経済学・マクロ経済学は、経済学を学ぶうえで基礎（理論）となる重要な科目です。予習復習を怠らず、能動的に学ぶように心がけてください。
	到達目標 ①経済主体の行動原理を理解する。 ②ミクロ経済学の理論を使って、社会の動きを説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義の進め方、日常生活と経済学、講義アンケート -	
	2	市場メカニズムのはなし（ミクロ経済学Ⅰの復習①）	ミクロ経済学Ⅰの復習
	3	消費者行動の理論（ミクロ経済学Ⅰの復習②）	ミクロ経済学Ⅰの復習
	4	企業行動の理論① - 生産関数とは何か -	参考文献の精読
	5	企業行動の理論② - 生産要素、等量曲線 -	参考文献の精読
	6	企業行動の理論③ - 技術的限界代替率と限界生産物 -	参考文献の精読
	7	企業行動の理論④ - 費用関数：等費用曲線の性質 -	参考文献の精読
	8	企業行動の理論⑤ - 費用関数：等量曲線と等費用曲線 -	参考文献の精読
9	企業行動の理論⑥ - 費用関数：費用の諸概念 -	参考文献の精読	
10	企業行動の理論⑦ - 利潤最大化：価格と限界費用、生産者余剰 -	参考文献の精読	
11	企業行動の理論⑧ - 利潤最大化：損益分岐点、操業停止点 -	参考文献の精読	
12	完全競争市場と効率性① - 消費の効率性、生産の効率性 -	参考文献の精読	
13	完全競争市場と効率性② - 生産と消費の効率性 -	参考文献の精読	
14	不完全競争市場	ミクロ経済学（応用）文献の精読	
15	本講義のまとめ、期末テストの説明		
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜レジュメ（パワーポイント資料）を配布する。 伊藤元重（2003）『ミクロ経済学』日本評論社		
	学びの手立て 講義だけで理解するのではなく、テキストによる自主学習をすすめる。		
	評価 期末テスト（70%）、小テスト（20%）、受講態度（10%）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 応用ミクロ経済学
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	理論経済学 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	3年		

学びの準備	ねらい マクロ経済学やミクロ経済学の標準的な経済理論（新古典派経済学）はかなり極端な前提の上に構築されたものです。これらは現実の写実的な描写というよりはむしろ象徴的なモニュメントと見るべきでしょう。最先端の経済学が情報の不完全性、リスク、計画、環境問題、市場の進化、協力と社会的統合、貧富の格差等の現実をどのように見ているのか、数学をまったく使わずに解説します。マクロ	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法等を説明	
	2	序章 市場の勝利	
	3	第I部 経済システムの構造 第1章 市場と制度	
4	第2章 生産と交換		
5	第3章 配分		
6	第4章 中央による計画化		
7	第5章 多元主義		
8	第6章 自然発生的な秩序		
9	第II部 市場についての真実 第7章 新古典派経済学とその後		
10	第8章 合理性と適応性		
11	第9章 情報		
12	第10章 現実のリスク		
13	第11章 協力		
14	第12章 調整		
15	第11章 知識経済		
16	補足 信頼と組織、雇用と文化		
	テキスト・参考文献・資料など ジョン・ケイ『市場の真実』中央経済社 荒井一博『信頼と自由』勁草書房 荒井一博『文化・組織・制度』有斐閣		
	学びの手立て		
	評価 レポート60%、授業への積極性(出席や質問等)40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	理論経済学Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	3年		

学びの準備	ねらい 理論経済学Ⅰに引き続き、テキストの残りの章を説明した後に、関連する問題…主としてマクロ経済学や国際経済学の問題…を採り上げます。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法等を説明	
	2	第Ⅲ部 市場はどのように動いたか 第14章 貧しい国は貧しいままに	
	3	第15章 誰が何を得るのか	
	4	第16章 場所	
	5	第17章 アメリカン・ビジネス・モデル第	
	6	第18章 経済学の将来	
	7	補足1 「冷戦の勝利」と「歴史の終わり」、ワシントン・コンセンサスとグローバリズム	
	8	補足2 新自由主義・市場万能主義とアメリカ社会の2極分解	
9	補足3 グローバリゼーションと南北問題、途上国の分解、制度・社会・文化の画一化		
10	補足4 グローバリゼーションと先進国の労働市場、北欧と日本		
11	補足5 「資本主義対資本主義」		
12	補足6 ドル覇権と金融帝国主義、世界金融危機と世界不況、国際通貨体制の動揺		
13	補足7 バブルとデフレ		
14	補足8 新古典派とケインズの経済学		
15	補足9 財政危機の克服と金融システム再編成		
16	補足10 日本型資本主義の再評価と進化のために		
	テキスト・参考文献・資料など ジョン・ケイ『市場の真実』中央経済社 小林由美『超・格差社会アメリカの真実』日経BP/J・E・ステイグリッツ『世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す』徳間書店/T・フリードマン『フラット化する世界(上、下)』日本経済新聞社		
	学びの手立て		
	評価 レポート60%、授業への積極性(出席や質問等)40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	労働経済学 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄県の失業率は、全国一高い水準となっており、高校・大学卒業予定者の内定率も全国に比べ低い。このような環境は、いずれ就職戦線に出る皆さんにも身近な問題である。本講義では、労働市場を形成する労働供給及び労働需要の要因について学ぶ。すなわち、我々は何を基準に働こうとするのか、企業は何を基準に労働者を雇おうとするのかなど労働経済の基礎理論を学ぶ。</p>	<p>アルバイトや就活など労働・雇用は皆さんにとって身近な問題であるので、理論だけではなく、現実のトピックも多く取り上げていきたい。また、映像資料等により、労働の実態についても考える機会を与える。</p>
到達目標	<p>労働市場における重要側・供給側の行動理論を説明することができる。 失業の定義及び発生要因を説明することができる。 年功賃金制度や労働時間の実態が分かる。 労働の実態について関心を深め、データなどで実証的に分析することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画の説明	
	2	労働経済学について	身近な労働問題について考える
	3	労働需要(1) 企業はどのようにして労働者を雇うのか	ミクロ経済の供給理論の復習
	4	労働需要(2) 労働供給曲線を導く	同上
	5	労働供給(1) 労働者は何をもとに労働力を提供するのか	ミクロ経済の需要理論の復習
	6	労働供給(2) 労働の供給曲線を導く	同上
	7	労働市場分析(1) 労働の需要曲線と供給曲線を用いた分析	労働市場の環境変化を考える
	8	労働市場分析(2) アルバイト需要が増えたらアルバイトの時給は上がるのか	労働市場の環境変化を考える
	9	失業Ⅰなぜ失業は発生するのか(失業の理論)	失業の影響を考える
	10	失業Ⅱどんな人が失業しているのか(失業をテーマにした映画鑑賞など)	同上
	11	賃金Ⅰ(年功序列賃金の理論)	賃金制度について調べる
	12	賃金Ⅱ(年功序列賃金制度と成果主義の比較)	同上
	13	労働時間Ⅰ(労働時間の推移、諸外国との比較など)	労働時間について調べる
14	労働時間Ⅱ(残業代の理論)	同上	
15	前期総括と労働について考える	復習と実際の労働問題について	
16	期末試験	テスト勉強	
テキスト・参考文献・資料など	<p>特になし。内容に応じてプリントや資料配布、ビデオ上映、労働をテーマにした映画上映等を行う。 清家篤著、「労働経済」東洋経済出版社、玄田有史 「仕事のなかの曖昧な不安」中央公論新社、 中馬宏之著、「労働経済学」新世社</p>		
学びの手立て	<p>ほぼ毎回、講義内容の理解度をチェックするので、講義は集中して聞きノートも取ること。 5回以上欠席すると、自動的に不可とする。 できるだけ双方向の講義となるように、グループディスカッションもあるので、受け身的な受講ではなく積極的に発言するなど、能動的な受講態度を望む。</p>		
評価	<p>出席状況とレポート及び試験を総合的に評価する レポート・・・30% 試験・・・70%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>労働経済の基礎理論を踏まえ、現実の労働問題について考える。 就活やインターンシップで理論を当てはめて客観的に考える。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	労働経済学Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、労働経済学Ⅰで学んだ基礎理論をもとに沖縄県の雇用労働情勢や雇用政策等の現実の問題について学ぶ。特に、フリーターや若年失業者問題は学生諸君にとって身近な問題であり、若年者の意識の問題や企業側の問題についてビデオ等による具体例を見ながら検討する。また、正社員と非正社員の処遇を巡る問題、ブラック企業の問題、男女間賃金格差についても学ぶ。</p>	<p>アルバイトや就活など労働・雇用は皆さんにとって身近な問題であるので、理論だけではなく、現実のトピックも多く取り上げていきたい。また、映像資料等により、労働の実態についても考える機会を与える。沖縄の就活の状況など、皆さんの関心の高いトピックも提供する。</p>
到達目標	<p>賃金格差や労働処遇の問題について批判的に考えることができる。 若者の雇用問題の要因を説明することができる。 就活で講義内容を踏まえ、積極的に行動することができる。 労働を取り巻く環境の変化について、自ら考え対応を考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画の説明	
	2	現在の労働問題概観（景気と労働問題、若者の働き方、派遣の問題など）	労働問題の現状について考える
	3	賃金と労働時間	前期の賃金と労働時間の理論の復習
	4	賃金格差Ⅰ（高卒と大卒なぜ賃金が違うのか）	高卒、大卒賃金の実態を調べる
	5	賃金格差Ⅱ（なぜ男女格差、産業間格差があるのか）	賃金格差の実態を調べる
	6	全国と沖縄の雇用・失業状況	若者の雇用問題の特徴を考える
	7	若者の雇用問題Ⅰ（大卒の就職率、フリーターなどの現状）	非正規雇用問題を考える
	8	若者の雇用問題Ⅱ（若者の就業意識、企業はフリーターをどう評価しているかなど）	自らの就業意識を考える
	9	沖縄の雇用問題Ⅰ（現状と課題）	沖縄と全国の違いを考える
	10	沖縄の雇用問題Ⅱ（沖縄の若者はなぜすぐ離職するのか、沖縄にブラック企業はあるかなど）	離職の要因を考える
	11	ワーキングプアの実態	貧困問題と関連して考える
	12	グローバル時代における働き方Ⅰ（海外に仕事が流れる、労働移民の実態など）	グローバル化と雇用について考える
	13	グローバル時代における働き方Ⅱ（日本と外国どっちが働きやすいのかなど）	同上
14	高齢者雇用問題（定年制、年金問題、再雇用の問題など）	年金問題の実態などについて調べる	
15	これからの働き方（ワークシェアリング、ワークライフバランスなど）	自分の働き方と合わせて考える	
16	期末試験	テスト勉強	
テキスト・参考文献・資料など	<p>特になし。内容に応じてプリントや資料配布、ビデオ上映等を行う。 橋本俊昭、「いま、働くということ」ミネルヴァ書房 玄田有史、「ニートフリーターでもなく失業者でもなく」幻冬舎 川村遼平、「若者を殺し続けるブラック企業の構造」角川oneテーマ21</p>		
学びの手立て	<p>ほぼ毎回、講義内容の理解度をチェックするので、講義は集中して聞きノートも取ること。 5回以上欠席すると、自動的に不可とする。 できるだけ双方向の講義となるように、グループディスカッションもあるので、受け身的な受講ではなく積極的に発言するなど、能動的な受講態度を望む。</p>		
評価	出席状況とレポート及びテストを総合的に評価する		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>労働経済の基礎理論を踏まえ、現実の労働問題について考える。 就活で講義内容や議論したことを踏まえ積極的に行動する。</p>
-------	---